

OLYMPUS

データベースマニュアル

OLYMPUS Stream [Ver.2.5]

画像解析ソフトウェア

本書におけるすべての著作権は、Olympus Soft Imaging Solutions GmbH に属します。

Olympus Soft Imaging Solutions GmbH では、本書の情報の正確性および信頼性について万全を期すよう努めていますが、本書に関するいかなる事項についても、明示的または黙示的を問わず、一切保証するものではありません。Olympus Soft Imaging Solutions GmbH は、購入者に告知する義務を伴わずにソフトウェアを更新する権利を有しており、本書に記述したソフトウェアを随時更新します。ソフトウェアの購入、本書の使用、本書に含まれる内容に起因する間接的、特有、偶発的、または結果的な損害について、Olympus Soft Imaging Solutions GmbH は、いかなる場合も責任を負わないものとします。

本書のいかなる部分も、事前に Olympus Soft Imaging Solutions GmbH の書面による許可を得ることなく、いかなる目的であれ電子的または機械的を問わず、いかなる形態またはいかなる方法によっても、無断で複製、転送してはなりません。

Adobe および Acrobat は、Adobe Systems Incorporated の各国における商標または登録商標です。その他、本書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

© Olympus Soft Imaging Solutions GmbH

All rights reserved

5UM_OlyStreamDB2.5-Zambesi_jp_00

Olympus Soft Imaging Solutions GmbH, Johann-Krane-Weg 39, D-48149 Münster

Phone (+49)251/79800-0, Fax: (+49)251/79800-6060

目次

1. 概要 - データベース	5
1.1. 概要 - データベース	5
1.2. 概要 - データベース機能	7
2. ユーザーインターフェース	10
2.1. [データベース] ツールウィンドウ	10
2.2. [データベース] レイアウト	15
2.3. データベースのプロジェクトビュー	16
2.4. データベースのドキュメントビュー	27
2.5. データベースの検索結果ビュー	39
3. データベースの操作	46
3.1. データベースを開く	46
3.2. データベースにデータを挿入する	49
3.3. レコードを並び替え、フィルタ、およびグループ化する	63
3.4. レコードを検索する	73
3.5. レコードを選択する	86
3.6. ドキュメントを読み込む	87
3.7. データベース内のレコードを編集する	90
3.8. データベース内でレコードを移動する	94
3.9. データをインポートおよびエクスポートする	96
3.10. レコードの削除	98
3.11. データベースを閉じる	100
4. データベース管理者	102
4.1. データベースでファイルを保存する	102
4.2. 新規のデータベースを作成する	105
4.3. データベース構成を設定する	111
4.4. レコードタイプ	115
4.5. データベースフィールドとフィールドテーブル	123

4.6. データベースのビューを変更する	138
4.7. 排他モード	143
4.8. データベースのユーザー権限	144
4.9. ドキュメントをアーカイブする	149
4.10. データベースの削除	151

1. 概要 - データベース

1.1. 概要 - データベース

本ソフトウェアで多数の画像を取り込む場合は、データベースに保存しておくことをお勧めします。個別に保存されたファイルよりも、データベース化されたファイルの方が、画像検索を始めとしたすべてのファイル管理機能をすばやく簡単に使用できます。

本ソフトウェアでは、そのためにクライアントサーバーデータベースを用意しています。本ソフトウェアのデータベースには、画像だけでなく、テキストファイルやシートなどあらゆる形式のファイルを保存できます。

1.1.1. 本ソフトウェアとデータベースのバージョンの対応

データベース機能は、*OLYMPUS Stream Start* を除く本ソフトウェアのすべてのバージョンで利用することができます。データベース機能を使用できるソフトウェアパッケージにはいくつかの種類があります。

Stream Document Storage

初期設定では、ソフトウェアバージョン *OLYMPUS Stream Basic*、*OLYMPUS Stream Essential*、および *OLYMPUS Stream Motion* には、*Stream Document Storage* ソリューションが含まれます。*Stream Document Storage* にはいくつかの基本的なデータベース機能があります。たとえば、データベースフィールドを設定できます。

Workgroup Database

Workgroup Database ソリューションは、次のソフトウェアバージョンで利用することができます。*OLYMPUS Stream Basic*、*OLYMPUS Stream Essentials*、および *OLYMPUS Stream Motion*。*Workgroup Database* ソリューションは、*Stream Document Storage* データベースバージョンを置き換えます。

Workgroup Database データベースバージョンでは、以下のデータベース管理システムがサポートされます。

- Microsoft SQL Server 2017 Express
- Microsoft SQL Server 2016 Express
- Microsoft SQL Server 2014 Express
- Microsoft SQL Server 2012 Express

- Microsoft SQL Server 2008 R2 Express

Enterprise Database

Olympus Stream Enterprise ソフトウェアバージョンには、*Enterprise Database* データベースバージョンが含まれます。*Enterprise Database* ソリューションは、*OLYMPUS Stream Basic* および *OLYMPUS Stream Essentials* の各ソフトウェアバージョンでも利用することができます。

Enterprise Database には、*Workgroup Database* バージョンよりも多くの機能が含まれています。

さらに、以下のデータベース管理システムが追加でサポートされます。

- Microsoft SQL Server 2017
- Microsoft SQL Server 2016
- Microsoft SQL Server 2014
- Microsoft SQL Server 2012
- Microsoft SQL Server 2008 R2
- Oracle 12
- Oracle 11g R2

1.1.2. データベースのマニュアル

前提条件: データベースのマニュアルは、Workgroup Database および Enterprise Database でのみ利用できます。*Document Storage* ソリューションでは、オンラインヘルプで説明が提供されています。

データベースのマニュアルの構造

マニュアルはデータベースユーザーおよびデータベース管理者を対象としています。データベース管理者にはデータベースを操作するためのより多くの権限があるため、このマニュアルで説明しているすべてのトピックがすべてのデータベースユーザーにも同様に当てはまるわけではありません。

データベースユーザー向けのトピック

ユーザーインターフェイスおよびデータベースの操作に関するトピックは、すべてのデータベースユーザーを対象としています。したがって、データベースがすでに作成され、設定されていることを前提にしています。

データベース管理者向けのトピック

データベースの設定に関するトピックは、データベース管理者のみを対象としています。

00062 25022021

1.2. 概要 - データベース機能

データベースにドキュメントを保存する

画像だけでなく、他のファイル形式のドキュメントもデータベースに挿入することができます。これにより、関連するあらゆる種類のデータを 1 カ所に保存できます。検索およびフィルタ機能により、ドキュメントの保存場所をすばやく簡単に見つけることができます。

画像は、初期設定では、TIF または VSI 形式で保存されます。取り込んだ画像を TIF ファイル形式で保存した場合、使用したカメラ、露出時間、解像度、作成時刻のデータなど、画像に関する多くの重要な情報が画像と一緒に自動的に保存されます。このデータは定義済みのデータベースフィールドに自動的に入力されます。これらのデータを個別に集める必要はありません。

データベースのユーザーインターフェイス

データベースは、[\[データベース\]](#) ツールウィンドウに表示されます。このツールウィンドウからデータベース内のすべてのレコードにアクセスできます。

データベースのユーザーインターフェイスのレイアウトは、データベースで実行する作業を基にしています。[\[データベース\]](#) ツールウィンドウでは、さまざまなメインビューを選択できます。各ビューでは、ツールウィンドウは、実行する作業用に最適化されます。

すべてのデータベースビューは設定できます。

データベースでのファイルの保存

データベースでは、画像およびその他のドキュメント用に、[\[ファイルシステム\]](#) と [\[セキュアファイルレポジトリ\]](#) (「Database Enterprise Edition」のみ) の 2 種類のドキュメントの保管形式がサポートされています。

ファイルシステムでのドキュメントの保管の場合は、画像およびその他のドキュメントは特別なドキュメントフォルダに保存されます。セキュアファイルレポジトリ保管形式を使用する場合、画像およびその他のドキュメントは、セキュアファイルレポジトリ (SFR) として設定されたサーバー上に置かれます。

データベースのユーザー権限

本ソフトウェアのデータベースは、多数のユーザーがネットワーク上で同時にデータベースを使用できるように設計されています。各ユーザーには、自分の検索設定やデータベースビューなどを確認できる、自分専用のユーザープロファイルが用意されます。

データベース管理者の場合は、データベースのユーザー権限を設定できます。ユーザーの権限によって、ユーザーが使用できるデータベースの機能が決まります。

イントラネットおよびインターネットでデータベースを使用する

データベースはクライアントサーバーデータベースです。このため、多数のユーザーが多数の PC から同時にデータベースを利用することができます。

ユーザーに権限がある場合には、Microsoft SQL Server 上 (「Olympus Stream Motion」および「Olympus Stream Enterprise」) または Oracle サーバー上 (「Olympus Stream Enterprise」のみ) にあるすべてのデータベースを利用することができます。データベースは通常、閉じたネットワーク (イントラネット) に統合されています。

データベースを公開してインターネットで利用することもできます。そうすることで、あらゆるインターネットブラウザから画像とデータを見ることができます。

他のデータベースと連携する

Microsoft SQL Server または Oracle サーバー上の、Olympus ソフトウェアの analySIS または aquinto a4i Docu で作成されたデータベースを開くことができます。そのために Olympus Stream のデータベース形式にデータベースを変換する必要はありません。データベースは書き込み保護された状態で開かれるので、変更を加えることはできません。ただし、ドキュメントを検索して読み込むことはできます。

外部データベースと連携することもできます。これにより、新規レコードの作成時に、別のデータベースからの情報を自動的に取り込んだり、逆に本ソフトウェアから外部データベースにデータを転送したりできるようになります。このようにすることにより、同じデータストックを複数のデータベースで管理せずに済みます。

データをエクスポートする

データベースから個々のドキュメントをエクスポートすることができます。これにより、たとえばデータベースにアクセス権のないユーザーも画像を利用で

きるようにすることができます。ドキュメントをエクスポートする際は、ドキュメントのコピーを作成します。これにより、データベース内の元のドキュメントは保持されます。

00233 25022021

2. ユーザーインターフェース

2.1. [データベース] ツールウィンドウ

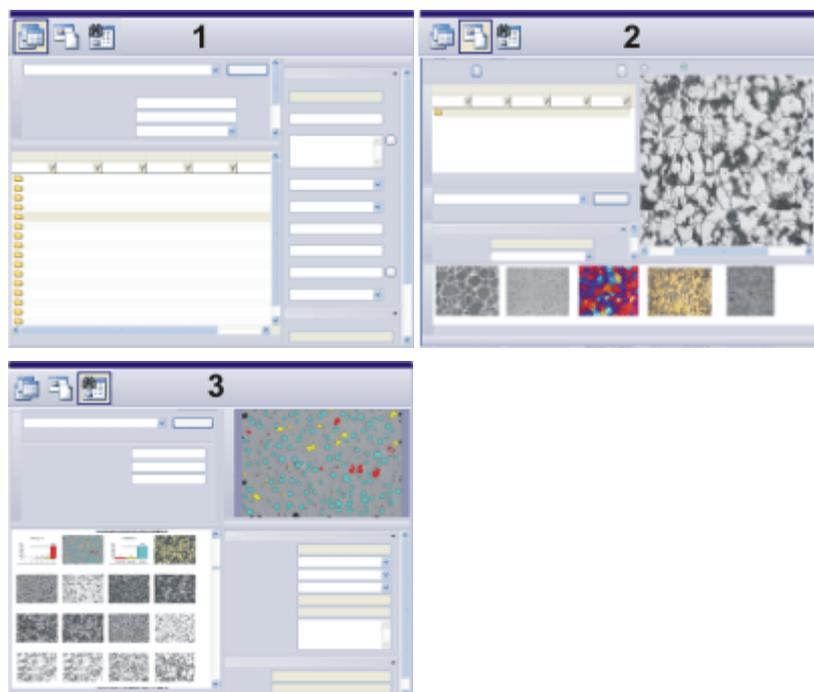
データベースは、[データベース] ツールウィンドウに表示されます。このツールウィンドウから、データベース内のすべてのレコード、およびデータベースの操作に使用できる多数の機能にアクセスできます。

[データベース] ツールウィンドウが表示されていない場合は、[ビュー] > [ツールウィンドウ] > [データベース] コマンドを実行して表示します。

データベースウィンドウのメインビュー

[データベース] ツールウィンドウでは、さまざまなメインビューを選択できます。ツールウィンドウはビューごとに異なる形で分割され、表示される情報も異なります。

メインビューを切り替えるには、[データベース] ツールウィンドウの下側のツールバーの先頭にあるボタン  を使用します。アクティブなビューのボタンが選択状態になります。これは、ボタンの背景がカラー表示されることで分かります。



図は、さまざまなメインビュー (1 = プロジェクトビュー、2 = ドキュメントビュー、3 = 検索結果ビュー) での [データベース] ツールウィンドウの構成を示しています。

- (1) プロジェクトビュー: プロジェクトビューでは、新しいプロジェクトを作成することや、既存のプロジェクトを編集することができます。このビューでは、ドキュメントビューで表示して作業するプロジェクトを選択します。
- (2) ドキュメントビュー: ドキュメントビューでは、特定のプロジェクトに新しい標本およびドキュメントを挿入します。このビューでは、既存のドキュメントを表示、編集、または読み込むことができます。
- (3) 検索結果ビュー: 検索結果ビューにはデータベース検索結果が表示されます。

データベースウィンドウのツールバー

[データベース] ツールウィンドウには、ツールバーが 2 つあります。これらのツールバーにより、データベースを操作する際の主要な機能を使用できます。



	レコードの挿入	このボタンをクリックして、現在のデータベースに新規のレコードを挿入します。
	開いているドキュメントの挿入	このコマンドを使用して、本ソフトウェアで開いているドキュメントをデータベースに挿入します。
	ファイルから挿入	このコマンドを使用して、データメディアにファイルとして保存されているドキュメントをデータベースに挿入します。
	ドキュメントの読み込み	このコマンドを使用して、データベースから本ソフトウェアに、選択されているすべてのドキュメントを読み込みます。
 	変更の確定 変更の破棄	これらのボタンをクリックして、既存のレコードに対する変更を確定または破棄します。
	レコードの削除	このコマンドを使用して、選択したすべてのレコードをデータベースから削除します。
	ごみ箱	このボタンをクリックして、データベースのごみ箱にあるすべてのレコードを表示します。レコードを復元したり、完全に削除したりすることができます。



	プロジェクトの表示	このボタンをクリックして、プロジェクトビューに切り替えます。
	ドキュメントの表示	このボタンをクリックして、ドキュメントビューに切り替えます。
	検索結果の表示	このボタンをクリックして、検索結果ビューに切り替えます。
	フィルタの設定	このコマンドを使用して、データフィルタを設定します。
	フィルタの削除	このコマンドを使用して、アクティブなデータフィルタを削除します。
	検索の設定	このコマンドを使用して、データベース検索の検索条件を設定します。
	検索ビューまたはフィルタビューの表示 / 非表示	このボタンをクリックして、検索ビューまたはフィルタビューの表示 / 非表示を切り替えます。
	データベースのテキスト検索	先に検索設定を定義せずに、データベース内でテキストを直接検索することができます。

データベースウィンドウを最大化する

[データベース] ウィンドウを最大化して、このツールウィンドウだけを表示することができます。それには [最大化] ボタン  をクリックします。このボタンはツールウィンドウのタイトルバーにあります。これにより、本ソフトウェアのユーザーインターフェースのほぼ全体をデータベースの表示に使用できます。

空のデータベースウィンドウ

空のデータベースウィンドウのコマンド

データベースが開かれていない場合、[データベース] ツールウィンドウには、データベースを開いたり、新規のデータベースを作成したりするためのコマンドが表示されます。

このウィンドウには、最近使用したデータベースのリストも表示されます。項目をクリックするだけで、対応するデータベースが表示されます。

00273 28062017

2.2. [データベース] レイアウト

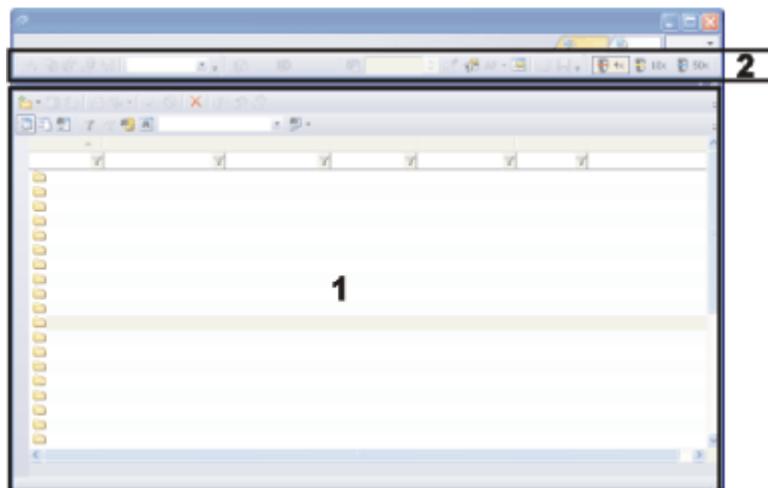
データベースを操作するには、[\[データベース\]](#)レイアウトに切り替えます。

[データベース] レイアウトの特徴

- 初期設定では、このレイアウトでのみ [\[データベース\]](#) ツールウィンドウが最大化されています。ツールウィンドウが最大化されているので、データベースのレコードの概要をより分かりやすく表示できます。これは、レコードを最適な形で検索、グループ化、または編集するすべての機能を使用するために役立ちます。
- 一般的にデータベースの操作時にはドキュメントグループは必要ないので、このレイアウトのみドキュメントグループが表示されません。
- [\[データベース\]](#)レイアウトでは、データベースの操作時に必要な本ソフトウェアのコマンドだけを使用できます。使用できないコマンドはグレー表示されます。グレー表示されているコマンドのいずれかを使用したい場合は、単に別のレイアウトに切り替えてください。

表示されるユーザーインターフェースの要素

初期設定では、[\[データベース\]](#)レイアウトには以下のツールバーおよびツールウィンドウが含まれています。



(1) ツールウィンドウ

[\[データベース\]](#) ツールウィンドウが最大化され、本ソフトウェアのドキュメントグループ全体に表示されています。このツールウィンドウから、データベース内のすべてのレコード、およびデータベースの操作に使用できる多数の機能にアクセスできます。

(2) ツールバー

ユーザーインターフェースの最上部のメニューバーの下に、いくつかのツールバーが表示されます。たとえばデータベースでの作業中に画像を取り込むには、**[カメラ制御]** ツールバーを使用します。

注: 表示されているツールバー上の一部のボタンは、**[データベース]** ツールウィンドウが最大化されている間は使用できません。

たとえば、**[カメラ制御]** ツールバーのボタンは、データベースのドキュメントビューでのみアクティブになります。これは、このビューでのみライブ画像の表示や画像の挿入を行えるためです。

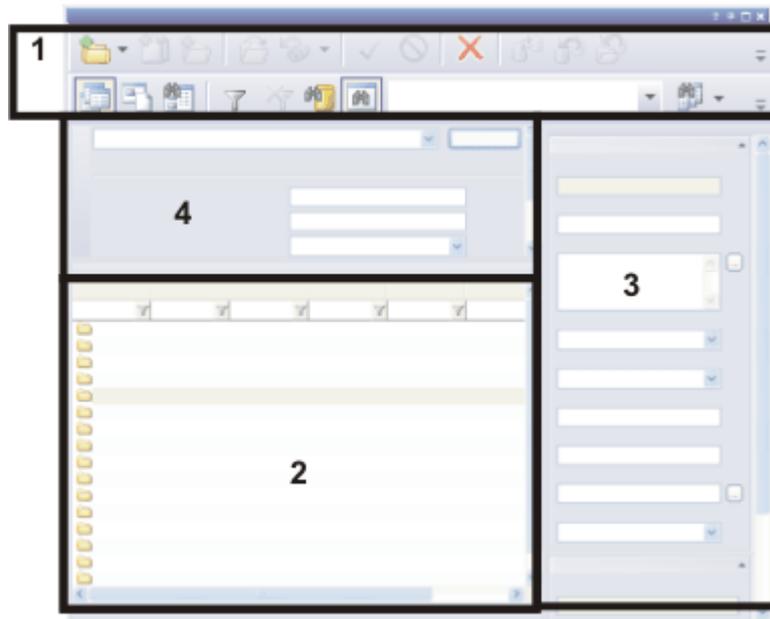
00023

2.3. データベースのプロジェクトビュー

[データベース] ツールウィンドウでは、さまざまなメインビューを選択できます。プロジェクトビューはデータベースの最上位レベルのレコードを表示するために使用されます。初期設定のデータベース構成を適用した場合、最上位レベルのレコードは「プロジェクト」になります。ただし、データベースの最上位レベルのレコードを「プロジェクト」と呼ぶことは必須ではありません。研究所の組織形態によっては、たとえば、階層がデータベースの最上位レベルになるようにデータベースを設定することもできます。

プロジェクトビューでのツールウィンドウの構成

[データベース] ツールウィンドウは、複数の領域に分かれています。各領域に、それぞれ異なるデータベースビューが表示されます。個々の領域のサイズは、マウスボタンを押したまま領域の境界線をドラッグすることにより変更できます。



この図は、プロジェクトビューでの **[データベース]** ツールウィンドウの構成を略図で表したものです。

プロジェクトビューには、データベースを使用するときに必要な最も重要な機能を含む 2 つのツールバー (1) があります。

ツールウィンドウは、プロジェクトリストビュー (2) とプロジェクト情報ビュー (3) の領域に分かれています。また、プロジェクトフィルタビュー (4) でプロジェクトをフィルタすることで、表示されるプロジェクトの数を制限することもできます。

プロジェクトビュー内のデータベースビュー

プロジェクトビュー内の各データベースビューにはさまざまな情報が表示され、さまざまな操作を実行できます。

プロジェクトビューへの切り替え



プロジェクトビューに切り替えるには **[プロジェクトの表示]** ボタンをクリックします。このボタンは **[データベース]** ツールウィンドウの下側のツールバーにあります。

プロジェクトビューでは、このボタンは選択状態になります。これは、ボタンの背景がカラー表示されることで分かります。

プロジェクトビューでの操作

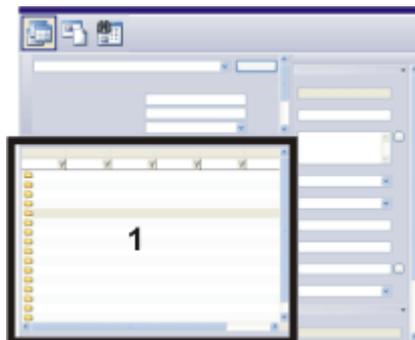
プロジェクトビューでは以下の操作を実行できます。

1. プロジェクトビューで新しいプロジェクトを作成します。それには、**[データベース] > [挿入] > [プロジェクト...]** コマンドを実行します。
2. 編集するプロジェクトを探します。
3. 現在興味のあるプロジェクトだけが表示されるように、プロジェクトリストをフィルタします。
4. プロジェクト情報ビューで、プロジェクトの詳細情報を確認できます。プロジェクトに関する項目を変更することもできます。
5. ドキュメントビューで作業を行うプロジェクトを選択します。それにはプロジェクトをダブルクリックします。

00028

2.3.1. プロジェクトリストビュー

プロジェクトリストビューには、データベースにすでに挿入されているプロジェクトフォルダが表示されます。このデータベースビューは、データベースのプロジェクトビューに表示されます。



この図は、プロジェクトビューでの **[データベース]** ツールウィンドウの構成を略図で表したものです。

プロジェクトリスト (1) はツールウィンドウの左下にあります。

プロジェクトリストの表示内容

プロジェクトリスト

プロジェクトリストには、データベース内のすべてのプロジェクトが表示されます。

プロジェクトについての情報

プロジェクトリストはテーブルで表されます。プロジェクトリストには、各プロジェクトのデータベースフィールドが多数表示されます。各列には、プロ

プロジェクトごとに、データベースフィールド内の各フィールド値が表示されます。

プロジェクトリストに表示するデータベースフィールドの指定方法については、[こちらを参照してください](#)。

シートの表示スペースには制限があります。プロジェクトに関する補足情報や詳細情報を表示するには、プロジェクト情報ビューを使用します。

プロジェクトのツールヒント

プロジェクトの上にマウスカーソルを移動すると、情報ウィンドウが表示され、このプロジェクトに関する情報を確認できます。情報ウィンドウに表示する情報を指定できます。

1. それには、[\[データベース\]](#) > [\[ビュー\]](#) > [\[ビューのカスタマイズ\]](#) ダイアログボックスを表示します。
2. [\[ビュー\]](#) リストで [\[ツールヒントビュー\]](#) を選択します。
3. [\[レコードタイプ\]](#) リストで [\[プロジェクト\]](#) を選択します。
4. ヒントとして表示するデータベースフィールドを選択します。
5. [\[ビューのカスタマイズ\]](#) ダイアログボックスを閉じます。

プロジェクトリストでの操作

プロジェクトに属するデータを表示する

このプロジェクトのデータを表示、読み込み、または編集する場合は、プロジェクトをダブルクリックします。画面が自動的にドキュメントビューに切り替わります。

プロジェクトリストを並び替える

プロジェクトリストを並び替えることができます。プロジェクトビューに表示されているデータベースフィールドであれば、どれでも並び替えの基準に使用できます。それには、並び替えに使用するデータベースフィールドの列見出しをクリックし、データベースフィールドを基準にプロジェクトを降順または昇順に並び替えます。現在の並び替えの基準に使用されている列は、列見出しの横に付けられた矢印  で見分けが付きます。

もう一度クリックすると逆の順番に並び替わります。矢印の向きは、現在の並び替えの方向を示します。

プロジェクトリストをグループ化する

多くの場合、数回クリックするだけで興味のあるレコードにアクセスできるように、プロジェクトリスト内のレコードをグループ化することができます。

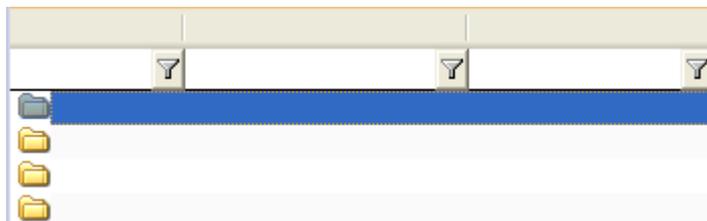
グループ化の基準として使用する列の見出しを右クリックします。コンテキストメニューから **[このフィールドでグループ]** コマンドを実行します。

たとえば、クライアントごとにプロジェクトをグループ化できます。これにより、リストビューがツリービューに変わります。すべてのレコードにグループ基準 (たとえば、データベースフィールド [クライアント]) が割り当てられています。すべてのフィールド値に、ツリービューで上位の値 (たとえば、「クライアント: プロダクション」) が付けられます。特定の基準に属している値を展開するには、基準の前にある小さなプラス記号をクリックします。

プロジェクトリストをフィルタする

任意の条件でプロジェクトリストをフィルタできます。表示されるプロジェクトの数を制限することで、検索が簡単になります。データベースフィールド [プロジェクトの状態] がデータベースで定義されている場合、たとえば「進行中」の状態を示すプロジェクトだけを表示できます。

列見出しに表示されているすべてのデータベースフィールドの下に、フィルタ条件として使用するテキストを入力するためのフィールドが表示されます。フィルタ条件として使用するテキストをそこに入力します。



本ソフトウェアの起動時にアクティブなデータフィルタがプロジェクトリストに自動的に使用されるようにするには、**[データベース] > [デフォルトのプロジェクトフィルタの設定]** コマンドを実行します。

コンテキストメニューを表示する

プロジェクトリストでレコードを選択して右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。コンテキストメニューには、レコードを編集するときなどに使用できる各種のコマンドが用意されています。

たとえば、**[ワークブックにエクスポート]** コマンドなどがあります。プロジェクトリストビューのコンテキストメニューからこのコマンドを実行することにより、プロジェクトリストをワークブックにエクスポートすることができます。

す。ワークブックは MS Excel ファイルとして保存することもできます。この場合、プロジェクトリストは **[データベース]** ツールウィンドウに現在表示されている状態のままエクスポートされます。つまり、フィルタがアクティブであれば、そのフィルタ条件に合致するプロジェクトのみがワークブックに含まれます。

プロジェクトリストのデータベースフィールドの割り当て

データベースフィールドをプロジェクトリストで使用できるようにする
プロジェクトリストに表示するデータベースフィールドを指定できます。それには、**[ビューのカスタマイズ]** ダイアログボックスの **[ビュー]** リストで、**[プロジェクトリストビュー]** を選択します。

データベースフィールドを表示 / 非表示にする

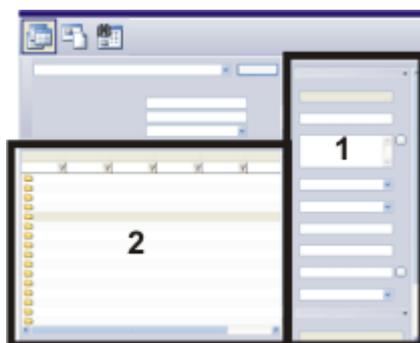
プロジェクトリストでデータベースフィールドを使用できるようにすると、データベースフィールドの表示 / 非表示をすばやく切り替えることができます。タイトル行を右クリックすると、利用可能なデータベースフィールドを含むリストが表示されます。必要なデータベースフィールドを選択します。表示されているデータベースフィールドにはチェックマークが付いています。

データベースビューの設定はユーザーによって異なります。したがって、同じデータベースを他のユーザーが自分のパスワードで開いた場合には、別の情報が表示されることがあります。

00040

2.3.2. プロジェクト情報ビュー

プロジェクト情報ビューでは、各プロジェクトについて、そのプロジェクトに指定されたデータベースフィールドを表示できます。このデータベースビューは、データベースのプロジェクトビューに表示されます。



この図は、プロジェクトビューでの **[データベース]** ツールウィンドウの構成を略図で表したものです。プロジェクト情報ビュー (1) はツールウィンドウの右側にあります。ここでは、プロジェクトリスト (2) で選択されたプロジェクトに関する情報が表示されます。

注: プロジェクト情報ビューは、データベースウィンドウが小さすぎる場合には表示できません。このビューが表示されるまで、**[データベース]** ツールウィンドウを大きくしてください。

プロジェクト情報ビューの外観のカスタマイズ

データベースフィールドを追加するか非表示にする

表示するデータベースフィールドを指定できます。また、見やすいように、データベースフィールドを複数のタブに分けて表示することもできます。それには、プロジェクト情報ビューでデータベースフィールドのいずれかを右クリックします。コンテキストメニューの **[ビューのカスタマイズ]** コマンドを実行します。**[ビューのカスタマイズ]** ダイアログボックスでは **[プロジェクト情報ビュー]** がアクティブになっており、希望のデータベースフィールドを選択できます。

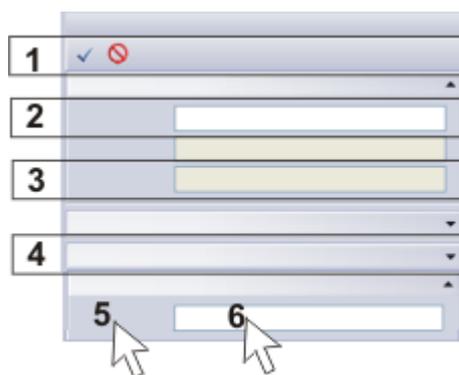
プロジェクト情報ビューでの操作

プロジェクト情報ビュー内の情報

プロジェクトリストビューでレコードを選択します。レコードを選択すると、そのレコードのさまざまなデータベースフィールドがフィールド値とともにプロジェクト情報ビューに表示されます。

データベースフィールド内の値を編集する

プロジェクト情報ビューを使用して、データベースフィールド内の既存の値を編集できます。ただし、変更できるのは、背景色が白のフィールド (2) だけです。背景色がグレーのフィールド (3) は、情報提供のみのフィールドです。



データベースフィールド内の既存の値は編集できます。図は、プロジェクト情報ビューで実行可能な操作を示しています。詳細は以下に説明します。

変更を確定する



データベースフィールドのフィールド値を変更すると、**[データベース]** ツールウィンドウのツールバーの2つのボタン **[変更の確定]** と **[変更の破棄]** (1) がアクティブになります。変更を適用するには、**[変更の確定]** ボタンをクリックします。

データベースフィールドの値を確認なしに変更できるように、データベースを設定することもできます。それには、**[レコードの変更を保存する前に確認する]** チェックボックスをオフにします。このチェックボックスは、**[ツール] > [オプション] > [データベース] > [全般]** ダイアログボックスにあります。

グループの表示を調整する

全体像を把握しやすいように、データベースフィールドをグループに割り当てることもできます。プロジェクト情報ビュー内のすべてのグループは、見出しのみにすることができます。そうすると、興味のないデータを非表示にできます。グループの見出し (4) をダブルクリックし、グループの表示サイズを縮小します。もう一度クリックすると、元のサイズに戻ります。

コンテキストメニューを表示する

プロジェクト情報ビューには、2種類のコンテキストメニューがあります。

データベースフィールド (5) を右クリックします。この操作では、データベースビューの外観を変更するコマンドなど、多数のコマンドを含むコンテキストメニューが表示されます。

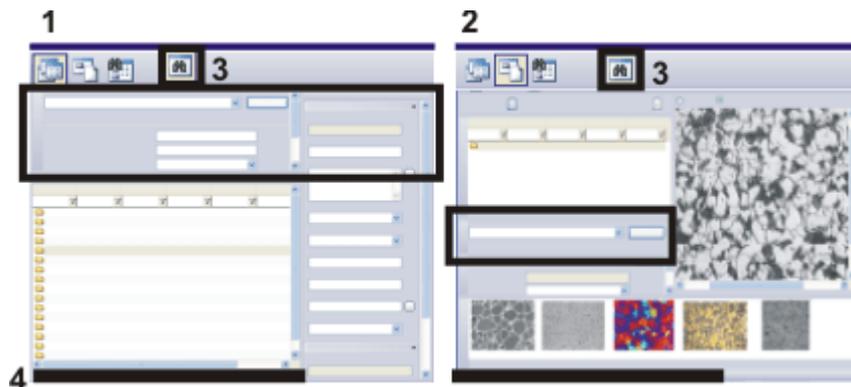
データベースフィールドの値 (6) を右クリックします。この操作では、フィールドの値の書式を変更するためのコマンドを多数含むコンテキストメニューが表示されます。

フィールドの値をコピーして挿入する

本ソフトウェアには、データベースフィールド内の値をクリップボードにコピーするための簡単な方法があります。それには、コピーしたいデータベースフィールドの内容 (6) を右クリックします。コンテキストメニューの **[コピー]** コマンドを使用して、このデータベースフィールドの内容すべてをクリップボードにコピーします。コピーしたテキストは、別のデータベースフィールドや、MS Word などの別のアプリケーションに貼り付けることができます。貼り付けるには、ショートカットキー **[Ctrl + V]** を押します。

2.3.3. プロジェクトフィルタビューとドキュメントフィルタビュー

[データベース] ツールウィンドウは、複数の領域に分かれています。各領域に、それぞれ異なるデータベースビューが表示されます。フィルタビューでは、レコードをフィルタするための、定義済みのデータフィルタを選択することができます。フィルタビューは、データベースのプロジェクトビューとドキュメントビューに表示されます。



この図は、プロジェクトビュー (1) とドキュメントビュー (2) での [データベース] ツールウィンドウの構成を示したものです。どちらの図でも、フィルタビューは黒の枠で囲まれています。フィルタビューの表示 / 非表示は、このボタン (3) を使用して切り替えることができます。データフィルタがアクティブな場合、フィルタ条件に一致するレコードの数が [データベース] ツールウィンドウの下端 (4) に表示されます。すべてのレコードが画面に再表示されると、この情報は表示されなくなります。

フィルタビューを表示 / 非表示にする



[データベース] ツールウィンドウのフィルタビューを切り替えるには、[フィルタビューの表示 / 非表示] ボタンをクリックします。このボタンは [データベース] ツールウィンドウの下側のツールバーにあります。フィルタビューが表示されると、このボタンは選択状態になります。これは、アイコンの背景がカラー表示されることで分かります。フィルタビューをオフにするには、選択状態のボタンをクリックします。

フィルタビューでの操作

データベースビューを選択する

レコードをフィルタするデータベースビューに切り替えます。プロジェクトビューにはプロジェクトフィルタビューが表示され、ドキュメントビューには

ドキュメントフィルタビューが表示されます。データフィルタは、いずれの場合も、データフィルタを適用するビューにのみ有効になることに注意してください。

たとえば、現在興味のあるプロジェクトのみを表示したい場合には、データベースの [プロジェクトビュー] に切り替えます。たとえば、([作成日] >= '01.04.2007') と設定されたデータフィルタでは、2007年4月1日以後に作成されたプロジェクトだけが表示されます。

プロジェクトに属する特定のドキュメントを検索する場合は、データベースの [ドキュメントビュー] に切り替えます。この場合、たとえば、プロジェクトに属している画像だけを表示し、それ以外のすべてのドキュメントを非表示にすることができます。

すべてのデータフィルタのリスト

フィルタビューの [適用] ボタンの隣で、アクティブなデータベースに定義されているすべてのデータフィルタの一覧を確認できます。

データフィルタを設定するには、[フィルタの設定] ダイアログボックスを使用します。データベースによく使用するデータフィルタを保存できます。データフィルタはユーザーによって異なります。したがって、他のユーザーからデータフィルタが見られることはなく、逆に他のユーザーのデータフィルタも見ることができません。

データフィルタを選択すると、そのデータフィルタに設定されているフィルタ条件が、フィルタビューに表示されます。

変数条件が設定されたデータフィルタ

データフィルタを設定する場合、フィルタ条件を完全に設定するか、または変数値を割り当てることができます。

データフィルタを完全に定義する例として、([クライアント] が次と等しい: "プロダクション") があります。この場合、データベースフィールド [クライアント] で "プロダクション" のフィールド値を持つすべてのレコードが検索されます。

変数フィルタ条件の例として、([クライアント] が次と等しい: "(変数)") があります。この場合、フィルタビューには、データベースフィールド [クライアント] がフィルタ条件として表示されます。ユーザーは、後からフィルタビューで、検索対象の具体的なクライアントを指定します。

データフィルタを適用する

フィルタビューの **[適用]** ボタンをクリックして、表示されているデータフィルタを適用します。

その結果、**[データベース]** ツールウィンドウには、フィルタ条件に一致するレコードのみが表示されます。たとえば、([クライアント] が次と等しい: "プロダクション") データフィルタがアクティブな場合は、指定されているクライアントのレコードだけが表示されます。他のレコードは表示されません。

データフィルタがアクティブな場合、フィルタ条件に一致するレコードの数が **[データベース]** ツールウィンドウの下端に表示されます。すべてのレコードが画面に再表示されると、この情報は表示されなくなります。

データフィルタを削除する



データフィルタがアクティブなときは、**[フィルタの削除]** ボタンが使用可能になっています。このボタンは **[データベース]** ツールウィンドウの下側のツールバーにあります。

このボタンをクリックすると、データフィルタが削除され、データベースのすべてのレコードが再表示されます。

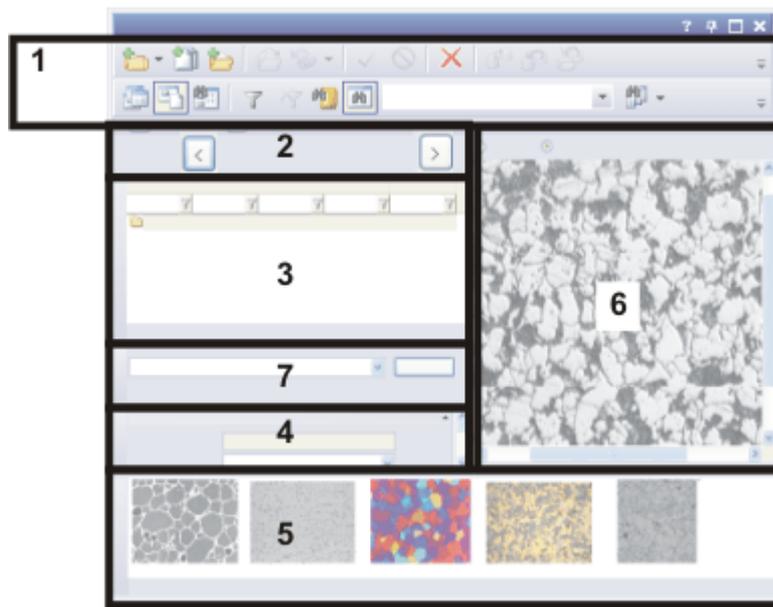
00195

2.4. データベースのドキュメントビュー

[データベース] ツールウィンドウでは、さまざまなメインビューを選択できます。ドキュメントビューは、データベースを普段操作するビューです。ドキュメントビューでは、プロジェクトの一部であるすべてのデータを表示、読み込み、編集することができます。プロジェクトの新しいデータをドキュメントビューで挿入することもできます。

ドキュメントビューのツールウィンドウの構成

[データベース] ツールウィンドウは、複数の領域に分かれています。各領域に、それぞれ異なるデータベースビューが表示されます。個々の領域のサイズは、マウスボタンを押したまま領域の境界線をドラッグすることにより変更できます。



この図は、ドキュメントビューでの **[データベース]** ツールウィンドウの構成を略図で表したものです。

ドキュメントビューには、データベースを使用するときに必要な最も重要な機能を含む 2 つのツールバー (1) があります。

ツールウィンドウは、プロジェクトヘッダービュー (2)、標本リストビュー (3)、ドキュメント情報ビュー (4)、ギャラリービュー (5)、およびドキュメント / ライブ画像ビュー (6) に分割されます。これに加え、ドキュメントフィルタビュー (7) ではドキュメントをフィルタして、必要なドキュメントだけを表示できます。

ドキュメントビュー内のデータベースビュー

ドキュメントビュー内の各データベースビューにはさまざまな情報が表示され、さまざまな操作を実行できます。

ドキュメントビューに切り替える

ドキュメントビューに切り替えるには以下の方法があります。

- プロジェクトビューでプロジェクトをダブルクリックし、ドキュメントビューに切り替えます。
-  **[ドキュメントの表示]** ボタンをクリックし、ドキュメントビューに切り替えます。このボタンは **[データベース]** ツールウィンドウの下側のツールバーにあります。ドキュメントビューではこのボタンは選択状態になります。これは、ボタンの背景がカラー表示されることで分かります。

ドキュメントビューでの操作

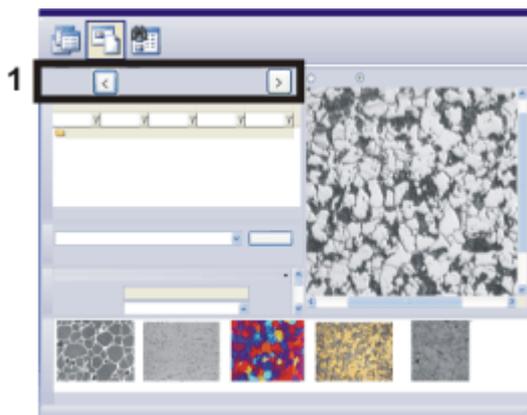
ドキュメントビューでは以下の操作を実行できます。

1. ドキュメントビューで新しい標本フォルダを作成します。それには、[\[データベース\]](#) > [\[挿入\]](#) > [\[標本...\]](#) コマンドを実行します。
2. 本ソフトウェアで画像を取り込み、その画像をデータベースに挿入します。
3. データベース内の標本フォルダに挿入された画像やその他のドキュメントを読み込みます。
4. データベースにすでに保存されている画像を編集します。たとえば、画像を再度計測したり、より適した画像をレポートに挿入できるように画像のコントラストを強めたりすることができます。

00029

2.4.1. プロジェクトヘッダービュー

プロジェクトヘッダービューは [\[データベース\]](#) ツールウィンドウのドキュメントビューのツールバーの真下にあります。ここにはアクティブなプロジェクトの名前などが表示されます。プロジェクトヘッダービューのボタンを使用すると、プロジェクトビューに切り替えることなくアクティブなプロジェクトを変更できます。



この図は、ドキュメントビューでの [\[データベース\]](#) ツールウィンドウの構成を略図で表したものです。

プロジェクトヘッダービュー (1) は、現在どのプロジェクトを開いているかを示します。

プロジェクトヘッダービューでの操作

ビューを調整する

プロジェクトヘッダービューには、1つのデータベースフィールドだけが表示されます。プロジェクトヘッダービューに表示するデータベースフィールドを指定できます。プロジェクト番号またはプロジェクトの説明など、プロジェクトを明確に識別するデータベースフィールドを選択します。

それには、プロジェクトヘッダービューを右クリックします。コンテキストメニューの [\[ビューのカスタマイズ\]](#) コマンドを実行します。[\[ビューのカスタマイズ\]](#) ダイアログボックスでは [\[プロジェクトヘッダービュー\]](#) がアクティブになっており、希望のデータベースフィールドを選択できます。

データベースビューの設定はユーザーによって異なります。したがって、同じデータベースを他のユーザーが自分のパスワードで開いた場合には、別の情報が表示されることがあります。

他のプロジェクトに切り替える

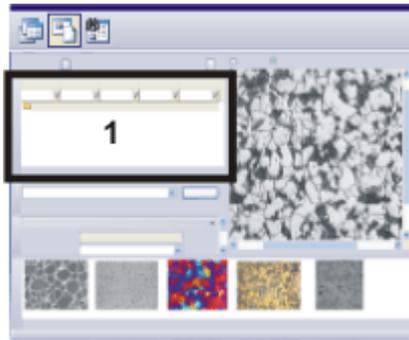
前のプロジェクトに切り替えるには、[<] ボタンをクリックします。次のプロジェクトに切り替えるには、[>] ボタンをクリックします。

プロジェクトは、プロジェクトリストビューでの並び順で整列されます。

00052

2.4.2. 標本リストビュー

標本リストビューには、データベースに既に挿入されている標本フォルダが表示されます。このデータベースビューは、データベースのドキュメントビューに表示されます。



この図は、ドキュメントビューの [データベース] ツールウィンドウの構成を略図で表したものです。

標本リスト (1) は、ツールウィンドウの左側に表示されます。

標本リストの表示内容

標本リスト

標本リストには、アクティブなプロジェクトに属するすべての標本が表示されます。データベースは階層構造をとります。「標本」は「プロジェクト」データベースレベルの直下に挿入することができる唯一のレコードです。これらのレコードは「標本」である必要はありません。研究所の組織形態によっては、他の基準 (たとえば、「取り込み方法」など) でプロジェクトを構築することもできます。

標本についての情報

標本ごとにさまざまなデータベースフィールドが表示されます。各列には、標本ごとに、データベースフィールド内の各フィールド値が表示されます。

当然、シートの表示スペースには制約があります。標本に関する補足情報や詳細情報を表示するには、ドキュメント情報ビューを使用します。

標本リストでの操作

標本に属するドキュメントを表示する

標本リストから標本を選択します。この標本に属するすべてのドキュメントが [データベースギャラリー] に表示されます。これらのドキュメントは、画像だけではなく、ワークブックや MS Excel シートなどのドキュメントの場合もあります。

コンテキストメニューを表示する

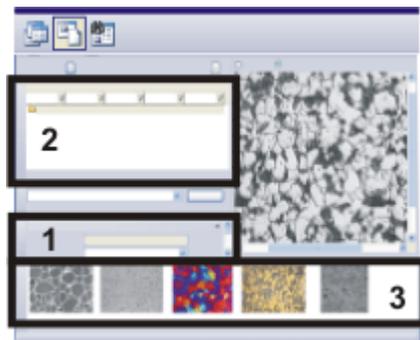
標本リストでレコードを選択して右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。複数のコマンドを含むコンテキストメニューが開きます。

たとえば、標本フォルダをリストではなくサムネイルとして表示するには、[\[ギャラリーの表示\]](#) コマンドを選択します。標本フォルダがアイコンとして表示されるようになります。

00048

2.4.3. ドキュメント情報ビュー

ドキュメント情報ビューでは、各ドキュメントについて、そのドキュメントに指定されたデータベースフィールドを表示できます。このデータベースビューは、データベースのドキュメントビューに表示されます。



この図は、ドキュメントビューでの [\[データベース\]](#) ツールウィンドウの構成を略図で表したものです。

ドキュメント情報ビュー (1) はツールウィンドウの左側にあります。表示される情報は、標本リスト (2) またはデータベースギャラリー (3) で選択されたレコードに関するものです。

レコードを選択します。レコードは標本リストまたはデータベースギャラリーで選択できます。

レコードを選択すると、そのレコードのさまざまなデータベースフィールドが

フィールド値とともにドキュメント情報ビューに表示されます。
選択したレコードタイプによって、表示されるデータベースフィールドは異なります。標本リストで標本を選択した場合、たとえば画像を選択したときのデータベースフィールドとは異なるデータベースフィールドが表示されます。

00049 30062011

2.4.4. データベースギャラリー

データベースギャラリーには、選択した標本フォルダ内のすべての画像がサムネイルで表示されます。他のドキュメント (テキスト、レポート、MS Excel シートなど) はアイコンで表示されます。



この図は、ドキュメントビューでの **[データベース]** ツールウィンドウの構成を略図で表したものです。

データベースギャラリー (1) はツールウィンドウの下部にあります。画像を選択すると、ドキュメント/ライブ画像ビュー (2) に、より詳細に表示されます。

データベースのギャラリービューでの操作

クリックでドキュメント/ライブ画像ビューにドキュメントを読み込む

ドキュメント/ライブ画像ビュー (2) で、**[現在のデータベース画像の表示]** を選択します。ギャラリービューのサムネイルを一度クリックすると、画像がドキュメント/ライブ画像ビューに読み込まれます。ドキュメント/ライブ画像ビューは **[データベース]** ツールウィンドウ内の領域で、データベースギャラリーよりも広いスペースで画像を表示できます。

画像をさらに詳しく見たい場合は、画像をダブルクリックすると「フルスクリーン画像」モードに切り替わります。

ダブルクリックでドキュメントを読み込み、「フルスクリーン画像」モードで表示する

サムネイルをダブルクリックすると、初期設定ではドキュメントは「フルスクリーン画像」モードで表示されます。このための前提条件は、選択されたド

ドキュメントの種類が本ソフトウェアで開けることです。「フルスクリーン画像」モードでは、アクティブなドキュメントが全画面表示されます。ユーザーインターフェースは非表示になります。

「フルスクリーン画像」モードでは、スケールバーと情報スタンプの両方を、画像上に表示することもできます。

「フルスクリーン画像」モードを終了して再び「標準」のユーザーインターフェースに戻るには、[Esc] キーを押すか、**[終了]** ボタンをクリックします。

本ソフトウェアで開けないドキュメントの種類 (MS Word や MS Excel ファイルなど) の場合、MS Windows でこれらのドキュメントの種類が割り当てられているアプリケーションが起動します。

ドキュメントをドキュメントグループに読み込む

画像をドキュメントグループに読み込んで計測などを実行するには、データベースギャラリーで画像を選択し、コンテキストメニューの **[ドキュメントの読み込み]** コマンドを実行します。表示が自動的に **[処理]** レイアウトに切り替わります。

データベースをもう一度操作する場合は、**[ビュー]** > **[レイアウト]** > **[データベース]** コマンドを実行します。

ドキュメントの読み込みの初期設定を変更する

ドキュメントをダブルクリックしたときのドキュメントの動作を指定している初期設定を変更することもできます。それには、**[ツール]** > **[オプション...]** コマンドを実行します。**[データベース]** > **[全般]** を選択します。**[ドキュメントレコードがダブルクリックされたとき]** リストから、**[ドキュメントの読み込み]** を選択します。この設定により、ダブルクリックしたドキュメントがデータベースギャラリーからドキュメントグループに読み込まれるようになります。

サムネイルのサイズを変更する

サムネイルには 2 つのサイズがあります。データベースギャラリーの背景を右クリックし、**[小さいサムネイル画像]** コマンドを実行すると、2 つのサムネイルサイズ間で切り替えることができます。サムネイルのサイズを小さくすると、データベースギャラリーに表示される画像の数を増やすことができます。

サムネイルのラベルを変更する

サムネイルのラベル表示に使用するデータベースフィールドを設定できます。それには、データベースギャラリーの背景を右クリックします。コンテキストメニューの **[ビューのカスタマイズ]** コマンドを実行します。**[ビューのカスタマイズ]** ダイアログボックスでは、**[ギャラリービュー]** がアクティブになっており、別のデータベースフィールドをラベル用に選択できます。ギャラリービューについては、**[レコードフィールド]** フィールドテーブルから必須フィールドを選択します。これにより、すべてのレコードに対してデータベースフィールド内に値が存在することになり、それによりサムネイルのラベル付けが可能になります。

データベースビューの設定はユーザーによって異なります。したがって、同じデータベースを他のユーザーが自分のパスワードで開いた場合には、別の情報が表示されることがあります。

ドキュメントの情報を表示する

データベースギャラリーでドキュメントを選択します。ドキュメントを選択すると、そのレコードのさまざまなデータベースフィールドがフィールド値とともにドキュメント情報ビューに表示されます。

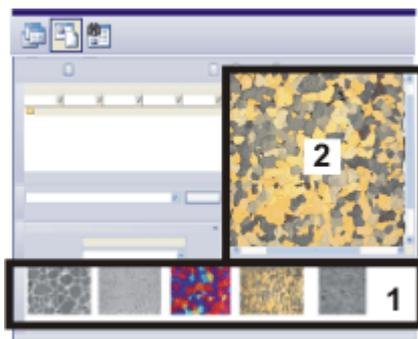
ドキュメントのツールヒント

サムネイルの上にマウスカーソルを移動すると、情報ウィンドウが表示され、このサムネイルに関する情報を確認できます。表示する情報は細かく指定できます。それには、**[ビューのカスタマイズ]** ダイアログボックスの **[ビュー]** リストで **[ツールヒントビュー]** を選択します。ツールヒントビューでは、レコードタイプごとに異なるデータベースフィールドを設定できます。

00050

2.4.5. ドキュメント/ライブ画像ビュー

ドキュメント/ライブ画像ビューは、ライブ画像を表示するか、またはデータベースギャラリーで現在選択されている画像を表示するために使用します。



この図は、ドキュメントビューの **[データベース]** ツールウィンドウの構成を略図で表したものです。

ドキュメント/ライブ画像ビュー (2) はツールウィンドウの上部にあります。データベースギャラリー (1) は、ツールウィンドウのドキュメントビューの底部に表示されます。

ライブ画像の表示

画像取り込みに使用できるワークステーションでの作業時には、ドキュメント/ライブ画像ビューを使用してライブ画像を表示します。それには、ドキュメント/ライブ画像ビュー (2) で、**[ライブ画像の表示]** を選択します。

ライブモードを切り替える



[カメラ制御] ツールバーの **[ライブ]** ボタンをクリックすると、ライブモードが開始されます。



[スナップショット] ボタンをクリックすると、ライブ画像が終了し、スナップショットが取り込まれます。

ライブ状態を表示する

ライブモードの状態は、**[ライブ画像の表示]** コントロールの背後のドキュメント/ライブ画像ビューに表示されます。

[ライブ画像の表示] オプションの名前は、カメラがライブモードのときは **[ライブ画像 (アクティブ) の表示]** に変わります。

ライブモードがオフのときは、**[ライブ画像 (停止中) の表示]** と表示されます。

現在のデータベース画像の表示

データベース画像を詳細に検討したい場合は、**[現在のデータベース画像の表示]** を選択します。データベースギャラリーで希望するサムネイルを選択します。

ライブ画像とデータベース画像を切り替える

データベースの現在の画像を表示している場合は、ライブモードの状態には何も影響を与えません。また、ライブモードをオンにしたまま、データベースの画像を表示することもできます。

したがって、必要に応じて、ライブ画像と任意のデータベースの画像を切り替えることができます。

ドキュメント/ライブ画像ビューでの操作

表示画像のズーム倍率を変更する

ドキュメント/ライブ画像ビューでズーム倍率を変更するには以下の方法があります。

- ドキュメント/ライブ画像ビューの上にマウスカーソルを移動するときに、マウスホイールを使って画像を拡大したり、縮小したりすることができます。マウスの左ボタンを押したまま画像の拡大した部分を移動すると、画像の別の部分が同じ倍率で表示されます。
- コンテキストメニューのコマンドを使ってズーム倍率を変更します。このコンテキストメニューは、右クリックして開きます。
ライブ画像では、コンテキストメニューを使用してズーム倍率を変更することはできません。

フルスクリーンモードで画像を詳細に表示する

データベースに既にレコードとして保存されている画像を、フル解像度で画面に表示することができます。ドキュメント/ライブ画像ビューで画像を右クリックし、コンテキストメニューから [\[フルスクリーンプレビュー\]](#) コマンドを選択します。

「フルスクリーン画像」モードでは、アクティブなドキュメントをディスプレイで全画面表示します。ユーザーインターフェースは非表示になります。

参考: 画像をフルスクリーンモードで表示するには、事前に読み込んでおく必要があります。つまり、画像データをファイルサーバーに要求し、データベースクライアントに転送してもらう必要があります。ネットワーク接続の速さ、画像のサイズ、使用しているドキュメント保管形式によっては、画像の読み込みに時間がかかることがあります。

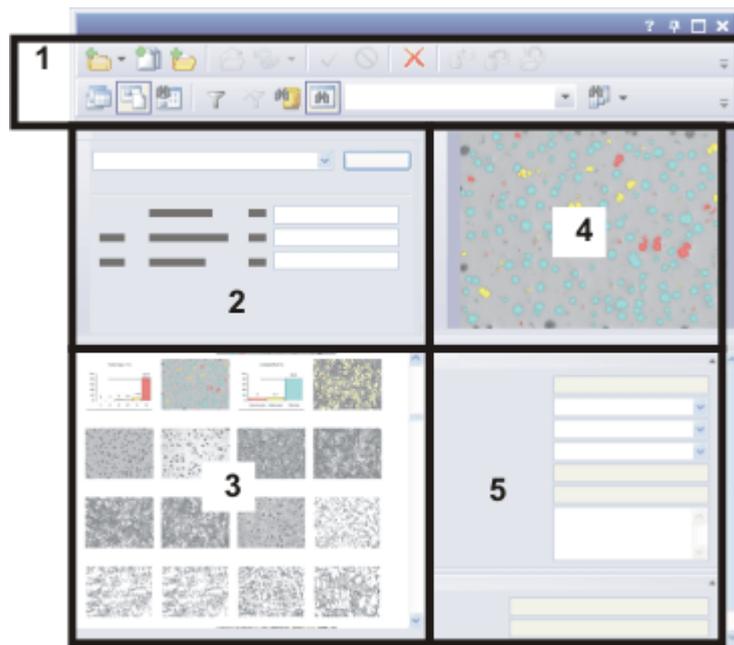
このフルスクリーンモードを終了して再び「標準」のユーザーインターフェースにリセットするには、[Esc] キーを押すか、あるいは [\[終了\]](#) ボタンをクリックします。

00051

2.5. データベースの検索結果ビュー

[データベース] ツールウィンドウでは、さまざまなメインビューを選択できます。検索結果ビューには、前回のデータベース検索で見つかったすべてのレコードが表示されます。データベース検索をまだ実行していない場合、検索結果ビューは空になります。検索結果ビューは、新しいデータベース検索を実行するたびに自動的に更新されます。

検索結果ビューのツールウィンドウの構成



この図は、検索結果ビューでの [データベース] ツールウィンドウの構成を略図で表したものです。

検索結果ビューには、データベースを使用するときに必要な最も重要な機能を含む 2 つのツールバー (1) があります。検索ビュー (2) では、現在のデータベース検索の検索条件を表示し、新しいデータベース検索を開始することもできます。ツールウィンドウは、検索結果 (ギャラリービュー) (3)、画像プレビュー (4)、およびレコード詳細ビュー (5) に分かれています。

検索結果ビュー内のデータベースビュー

検索結果ビュー内の各データベースビューにはさまざまな情報が表示され、さまざまな操作を実行できます。

検索結果をテーブルに表示する

検索結果を表形式で表示することもできます。検索結果ビューのギャラリーを右クリックしてコンテキストメニューを表示します。[テーブルビュー] コマン

ドを実行します。

検索結果ビューを終了する

検索結果ビューを終了するには以下の方法があります。

1. 検索結果ビューのギャラリーでレコードを選択します。
右クリックしてコンテキストメニューから **[レコードへ移動]** コマンドを実行します。
 - 選択したレコードが属する標本またはプロジェクトが自動的に表示されます。このプロセスでは、画面の表示が、適切なデータベースビューに自動的に切り替わります。



2. **[プロジェクトの表示]** ボタンをクリックし、データベースのプロジェクトビューに切り替えます。このボタンは **[データベース]** ツールウィンドウの下側のツールバーにあります。



3. **[ドキュメントの表示]** ボタンをクリックし、データベースのドキュメントビューに切り替えます。このボタンは **[データベース]** ツールウィンドウの下側のツールバーにあります。

検索結果ビューでの操作

検索結果ビューでは以下の操作を実行できます。

1. レコードをさらに検索する。
2. レコード詳細ビューで、レコードの詳細情報を確認する。ここで、レコードに関する項目を変更することもできます。
3. 検出したレコードから、その上位のデータベースフォルダに移動する。それには、ビュー (3) のコンテキストメニューにある **[レコードへ移動]** コマンドを使用します。
4. 画像をフル解像度で表示する。それには、画像プレビューのコンテキストメニューにある **[フルスクリーンプレビュー]** コマンドを使用します。

00194

2.5.1. 検索ビュー

検索ビューは、データベースの検索結果ビューに表示されます。

検索ビューの機能

- まず、検索ビューには単なる画面表示の機能があります。検索ビューで、最後に使用したデータベース検索の検索条件を確認することができます。画面上に表示されているドキュメントは、この検索条件に一致したドキュメントです。

- 単なる画面表示機能のほかに、保存されている検索設定を検索ビューに読み込んだり、新しいデータベース検索を実行したりすることもできます。



この図は、検索結果ビューでの **[データベース]** ツールウィンドウの構成を略図で表したものです。検索ビュー (1) は左上に表示されます。このボタン (2) を使用して、検索ビューの表示 / 非表示を切り替えることができます。

検索ビューを切り替える



[データベース] ツールウィンドウに検索ビューを表示するには、**[検索ビューの表示/非表示]** ボタンをクリックします。このボタンは **[データベース]** ツールウィンドウの下側のツールバーにあります。検索ビューが表示されると、このボタンは選択状態になります。これは、アイコンの背景がカラー表示されることで分かります。

画面にレコードを表示するスペースが足りない場合は、**[検索ビューの表示/非表示]** ボタンをクリックして選択状態を解除し、検索ビューを非表示にします。

検索ビューでの操作

検索ビューを使用して新しいデータベース検索を実行することができます。

保存されているすべての検索設定のリスト

検索ビューでは、**[検索]** ボタンの左側に、アクティブなデータベースに設定されたすべての検索設定のリストが表示されます。データベース検索にはいつでもデータフィルタを使用することができるため、検索リストにはデータフィルタも表示されます。

検索設定を選択すると、そこで設定された検索条件が検索ビューに表示されます。

検索条件を設定してファイルとして保存するには、**[検索の設定]** ダイアログボックスを使用します。

変数検索条件を使用する

検索条件を設定する場合、具体的な値を設定するか、または値を変数のままにしておくかの2通りの方法があります。変数検索条件の場合、データベース検索を開始する前に、検索する具体的な値を補足する必要があります。

例: 具体的な値が設定された検索条件の例として、([クライアント]が次と等しい: 'プロダクション')があります。この場合、データベースフィールド [クライアント] で 'プロダクション' のフィールド値を持つすべてのレコードが検索されます。

変数検索条件の例として、([クライアント]が次と等しい: '(変数)')があります。この場合、検索ビューには、データベースフィールド [クライアント] が検索条件として表示されます。ユーザーは、最初に検索ビューで、検索対象の具体的なクライアントを指定します。

>検索を実行する

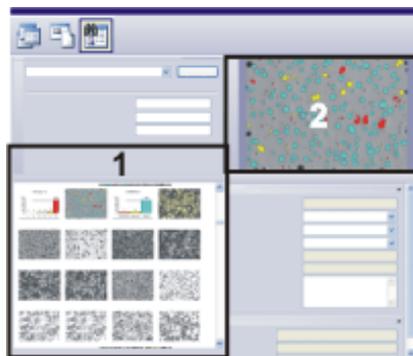
検索ビューの **[検索]** ボタンをクリックすると、検索が開始されます。

データベース検索を実行すると、検索ビューが更新されます。設定した検索条件を満たすレコードのみが表示されます。たとえば ([クライアント]が次と等しい: 'プロダクション') の検索条件を選択した場合、特定のクライアントのレコードのみが表示されます。

00042

2.5.2. 検索結果 (ギャラリービュー)

検索結果ビューにはデータベース検索結果が表示されます。このデータベースビューは、データベースの検索結果ビューに表示されます。



この図は、検索結果ビューでの **[データベース]** ツールウィンドウの構成を略図で表したものです。

ギャラリービュー (1) には、前回のデータベース検索で見つかったすべての画像がサムネイルで表示されます。他のドキュメント (テキスト、レポート、MS

Excel シートなど) はアイコンで表示されます。
右上には、画像プレビュー (2) が表示されます。

ギャラリービューとテーブルビューの切り替え

データベースの検索結果ビューでは、データベース検索結果をギャラリービューでサムネイルとして表示することや、結果シートとして表示することができます。シートに結果を出力するには、**[データベース]** ツールウィンドウの領域 (1) を右クリックします。コンテキストメニューから **[ギャラリーの表示]** コマンドを実行します。

検索結果 (ギャラリービュー) での操作

1 回のクリックでドキュメントをプレビューに読み込む

ギャラリービューでサムネイルを 1 回クリックすると、画像がプレビューに読み込まれます。プレビューは、画像表示のために画面の領域をギャラリービューよりもかなり広くとっています。

ダブルクリックして対応するレコードに移動する

レコードをダブルクリックすると、選択したレコードが属する標本またはプロジェクトが自動的に表示されます。このプロセスでは、画面の表示が、適切なデータベースビューに自動的に切り替わります。

ドキュメントをドキュメントグループに読み込む

画像をドキュメントグループに読み込んで計測などを実行するには、ギャラリービューで画像を選択し、コンテキストメニューの **[ドキュメントの読み込み]** コマンドを実行します。表示が自動的に **[処理]** レイアウトに切り替わります。

データベースをもう一度操作する場合は、**[ビュー] > [レイアウト] > [データベース]** コマンドを実行します。

レコードの情報を表示する

ギャラリービューでレコードを選択します。

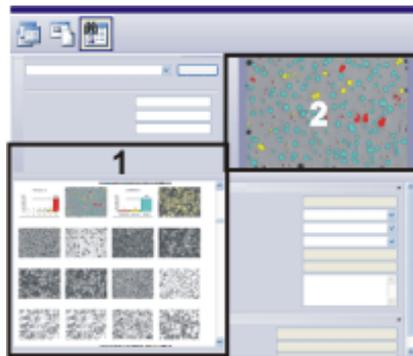
レコードを選択すると、そのレコードのさまざまなデータベースフィールドがフィールド値とともに、レコード詳細ビューに表示されます。

ドキュメントのツールヒント

ギャラリービューでレコードの上にマウスカーソルを移動すると、情報ウィンドウが表示され、このサムネイルに関する情報を確認できます。表示する情報は細かく指定できます。それには、**[ビューのカスタマイズ]** ダイアログボックスの **[ビュー]** リストで、**[ツールヒントビュー]** を選択します。

2.5.3. 画像プレビュー

検索結果ビューには、前回のデータベース検索で見つかったすべてのレコードが表示されます。このビューにある画像プレビューには、データベース検索で検出された検索結果の画像が表示されます。

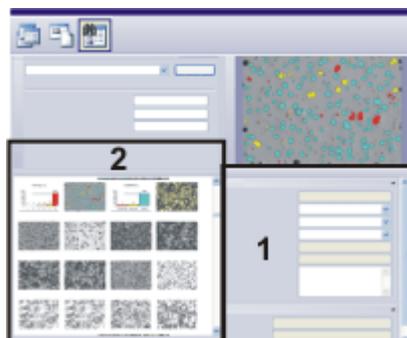


この図は、検索結果ビューでの **[データベース]** ツールウィンドウの構成を略図で表したものです。

画像プレビュー (2) はツールウィンドウの右上にあります。左下にデータベースギャラリー (1) があります。

2.5.4. レコード詳細ビュー

検索結果ビューには、前回のデータベース検索で見つかったすべてのレコードが表示されます。レコード詳細ビューでは、各レコードについて、そのレコードに指定されたデータベースフィールドを表示できます。このデータベースビューは、データベースの検索結果ビューに表示されます。



この図は、検索結果ビューでの **[データベース]** ツールウィンドウの構成を略図で表したものです。検出されたレコードに関する情報 (1) は、右側のレコード

詳細ビューに表示されます。この情報は、データベースギャラリー (2) または結果シートで選択されたレコードに関するものです。

[レコードの詳細] ツールウィンドウの外観を指定する

ドキュメントの編集または計測を行うためにデータベースからドキュメントを読み込む場合、データベース内に保存された、このドキュメントの詳細を表示するには、**[レコードの詳細]** ツールウィンドウを使用します。**[レコードの詳細]** ツールウィンドウに表示される情報は、**[データベース]** ツールウィンドウのレコード詳細ビューに表示される情報とまったく同じです。つまり、レコード詳細ビューの外観を指定すると、**[レコードの詳細]** ツールウィンドウの外観も指定することになります。

00202

3. データベースの操作

3.1. データベースを開く

データベースを操作する場合は、**[データベースを開く]**ダイアログボックスを使用します。データベースに含まれているドキュメント (画像、グラフ、ワークブックなど) を読み込むときや、データベースに新規のレコードを挿入するときは、データベースを開く必要があります。

一度に開けるデータベースは 1 つのみです。別のデータベースを開くと、現在開いているデータベースは自動的に閉じます。

前提条件: データベースを開くには、データベースのユーザーとしてデータベースサーバーに登録されている必要があります。この登録はデータベース管理者が管理しています。

データベースを開くにはさまざまな方法があります。

1. **[データベース]** > **[開く...]** コマンドを実行します。
2. **[ファイル]** > **[開く]** > **[画像...]** コマンドを実行します。



3. **標準のツールバーの [開く]** ボタンの横にある小さな矢印をクリックすると、ファイルの読み込みに使用できるすべてのコマンドを含むコンテキストメニューが表示されます。コンテキストメニューから **[データベース]** を選択します。
4. **[データベース]** メニューには最近使用したデータベースのリストが表示されます。そのリストからデータベースを選択します。
5. データベースを開いていない場合は、空の **[データベース]** ツールウィンドウにも、最近開いたデータベースのリストが表示されます。開きたいデータベースの名前をクリックして開きます。

接続モードの選択

データベースを開くには、まずデータベースサーバーに PC を登録する必要があります。選択した接続モードによって、**[データベースを開く]**ダイアログボックスの外観が変わります。接続モードを選択するには、**[データベースを開く]**ダイアログボックスの **[オプション...]** ボタンをクリックします。接続モードによって、データベース接続ファイルを使用する (ケース 1) か、接続データを手動で入力できます (ケース 2)。

ケース 1: データベース接続ファイルを使用する

[データベースを開く] ダイアログボックスの [オプション...] ボタンをクリックします。

データベースにログオンするために必要なすべての情報をテキストファイルから適用するには、[データベース接続ファイルを使用する] を選択します。このテキストファイルのファイル名には、DBC という拡張子が付いています。このファイルを使用することにより、入力する情報の量を大幅に減らせます。

[OK] をクリックして [オプション] ダイアログボックスを閉じます。

[データベースを開く] ダイアログボックスに [データベース接続ファイル] グループが表示されるようになります。

[データベース接続ファイル] > [ファイル名] リストで、開きたいデータベースに対するデータベース接続ファイルを選択します。初期設定では、最後に使用されたデータベース接続ファイルが [ファイル名] フィールドで選択されています。

[ファイル名] リストに表示されていないデータベース接続ファイルを開くには、[...] ボタンをクリックします。

[データベース接続ファイル] > [説明] フィールドに、選択したデータベースの説明が表示されます。この短い説明は、データベース管理者が、データベース接続ファイルを作成するときに入力します。データベース接続ファイルの作成時に説明が保存されなかった場合、このフィールドは空になります。

ケース 2: 接続データを手動で入力する

[データベースを開く] ダイアログボックスの [オプション...] ボタンをクリックします。

サーバーへのログオンに必要なすべての情報を手動で入力するには、[接続データを手動で入力する] を選択します。このオプションを使用するのは、たとえば、データベースに 1 回しかログオンしない場合などです。手動でログオンするには、データベース管理システム、データベースの名前、およびデータベースが置かれているサーバーの名前が必要です。このうちのいずれかの情報が不明な場合は、データベース管理者に問い合わせてください。

[OK] をクリックして [オプション] ダイアログボックスを閉じます。

[データベースを開く] ダイアログボックスに [データベース] グループが表示されるようになります。

[データベース] > [データベース名] フィールドにデータベースの名前を入力します。サーバーがすでに選択されている場合は、選択したデータベースサーバー上にあるすべてのデータベースのリストが自動的に表示されます。

[データベース] > [サーバー] フィールドに、データベースが置かれているサーバーの名前を入力します。サーバーの正確な名前が不明な場合は、[...] ボタンをクリックして [サーバーの選択] ダイアログボックスを表示します。利用可能なデータベースサーバーのリストでサーバーを選択し、[追加 >>] ボタンをクリックします。[OK] ボタンをクリックしてこのダイアログボックスを閉じ、[データベースを開く] ダイアログボックスに戻ります。

[データベース] > [データベースシステム] リストでデータベース管理システムを選択します。たとえばデータベースサーバーとして SQL サーバーを使用している場合は、[Microsoft SQL Server] を選択します。

ユーザーの詳細

データベースを開くときには、データベースを開くことが許可されていることを証明する必要があります。それには、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザー名とパスワードで、データベースにユーザーとして登録されている必要があります。

シングルサインオン

本ソフトウェアが実行されている PC に自分のユーザー名でログオンしている場合は、[ユーザー] > [認証] リストで [シングルサインオン] を選択します。MS Windows オペレーティングシステムに対する現在のログオンデータが、データベースへのログオンにも使用されます。このユーザー認証では、パスワードとユーザー名の入力はありません。

[シングルサインオン] 認証を行うには、MS Windows オペレーティングシステム上で自分のユーザープロファイルが設定されている必要があります。また、データベースにこのユーザーとして登録されていなければなりません。

Windows ログイン

データベースへのログオンに、MS Windows オペレーティングシステムへのログオンに使用するログオンデータを使用する場合は、[ユーザー] > [認証] リストで [Windows ログイン] を選択します。シングルサインオン認証と異なり、ユーザー名、パスワード、ドメインを明示的に入力する必要があります。

この認証では、自分のユーザー名でログオンしていない PC からデータベースを開くことができます。

[Windows ログイン] 認証を行うには、MS Windows オペレーティングシステム上で自分のユーザープロファイルが設定されている必要があります。また、データベースにこのユーザーとして登録されていなければなりません。

SQL 認証

データベース独自のログオンデータを使用する場合は、[ユーザー] > [認証] リストで [SQL 認証] を選択します。このユーザー認証では、ログオン時に必ずパスワードとユーザー名の入力が求められます。ユーザー名とパスワードは、データベース管理システム (SQL サーバーなど) 内でデータベース管理者によって割り当てられます。

[SQL 認証] を行うには、データベース管理システムで自分のユーザープロファイルが設定されている必要があります。この場合、ログオンデータは MS Windows のログオンデータにはまったく依存しません。

デフォルトデータベースの設定

現在のデータベースをデフォルトデータベースに設定するには、[デフォルトデータベースとして使用する] チェックボックスをオンにします。

デフォルトデータベースは、通常、本ソフトウェアを起動したときに自動的に開かれます。本ソフトウェア起動時のデフォルトデータベースの動作を変更するには、[オプション] > [データベース] > [デフォルトデータベース] ダイアログボックスを使用します。

注: デフォルトデータベースの設定は、ユーザーによって異なります。このため、他のユーザーによって別のデータベースがデフォルトデータベースに設定されていることがあります。

5621 23062017

3.2. データベースにデータを挿入する

3.2.1. 概要

必要な権限を持っているユーザーは誰でもデータベースにレコードを挿入できます。ここでレコードとは、プロジェクトフォルダや標本フォルダなどの構成レコードのほか、データベースに保存する画像、レポート、グラフ、およびその他すべてのドキュメントを指します。

レコードの挿入時には、レコードタイプに対応するデータベースフィールドに情報を入力します。つまり、画像とグラフでは、入力する情報が異なります。

重要な用語

構成レコードとは？

構成レコードタイプはデータベースをより適切に構成するためのもので、データベース内でフォルダアイコンで表示されます。このレコードタイプに属するレコードはドキュメントを参照せず、データベースフィールドに入力された情報のみを含みます。

構成レコードは「プロジェクト」などです。これらは、データベースのプロジェクトビューに表示されます。

ドキュメントとは？

ドキュメントの種類には、画像、ワークブック、ダイアグラムなどがあります。

本ソフトウェアで作成したすべての種類のドキュメントをデータベースに挿入したり、また読み込んだりすることができます。

外部ドキュメントとは？

ソフトウェアに読み込んだドキュメントのほか、データ記憶媒体に保存されているその他のあらゆるファイルを挿入することもできます。これは外部ドキュメントにも当てはまります。外部ドキュメントとは、拡張子が DOC 形式の MS-Word ドキュメントのファイルなど、ソフトウェアでサポートされていないドキュメントの種類です。

データベースへのデータのさまざまな挿入方法

データベースにデータを挿入するには、さまざまな方法があります。データベースへのデータの挿入は、**[データベース]**メニューや各種コンテキストメニューのコマンドを使用するか、または **[データベース]** ツールウィンドウのボタンをクリックすることで実行できます。または、ドラッグ&ドロップ操作によってドキュメントを挿入することもできます。

それぞれの操作については、下記をご覧ください。

メニューコマンド

[データベース] > [挿入] コマンドを実行します。以下のコマンドを使用できます。

- 開いているドキュメントの挿入
- すべての開いているドキュメントの挿入
- ファイルから挿入
- 構成レコードの挿入

ボタン

[データベース] ツールウィンドウの上側のツールバーにあるいずれかのボタンを使用します。

コンテキストメニューのコマンド

コンテキストメニューの [挿入] メニューを使用します。このコンテキストメニューは、[データベース] ツールウィンドウで次のビューのいずれかを右クリックすると開きます。

- プロジェクトリストビュー
- 標本リストビュー

画像などのドキュメントを、ドキュメントグループから直接データベースに挿入することもできます。ドキュメントバーでドキュメントのタイトルを右クリックして、コンテキストメニューを開きます。コンテキストメニューには、[データベースに挿入] コマンドが表示されます。

ドラッグ&ドロップ操作

データベースギャラリーに MS-Windows エクスプローラからドキュメントをドラッグします。

それには、データベースのドキュメントビューに切り替えます。次に、ドキュメントを挿入するデータベース内のレコードを選択します。それから、データベースギャラリーに MS-Windows エクスプローラからドキュメントをドラッグします。

画像を取り込む

データベースが開かれている場合は、本ソフトウェアで取り込んだすべての画像がアクティブなデータベースに自動的に保存されます。

データベースにデータを挿入する方法に関する注意

データベースにレコードを挿入する際には、次の点に注意してください。

データベースは階層構造をとる

データベースのすべての階層レベルにレコードを挿入できるとはかぎりません。

変更されたドキュメントの挿入

データベースからソフトウェアにドキュメントを読み込んで編集し、その後ドキュメントを閉じるときには、ソフトウェアはさまざまな動作を行うことができます。データベース管理者は、たとえば既存のドキュメントを置き換えること、または変更されたドキュメントは新規のレコードとしてのみデータベースに挿入できることなどを指定できます。

別のデータベースフォルダへの画像の移動

ドキュメントを誤って間違った場所に挿入してしまった場合、後から正しいデータベースフォルダに移動することができます。それには [\[切り取り\]](#) と [\[貼り付け\]](#) コマンドを使用します。これらのコマンドは、データベースウィンドウのコンテキストメニューにあります。

00393 30062011

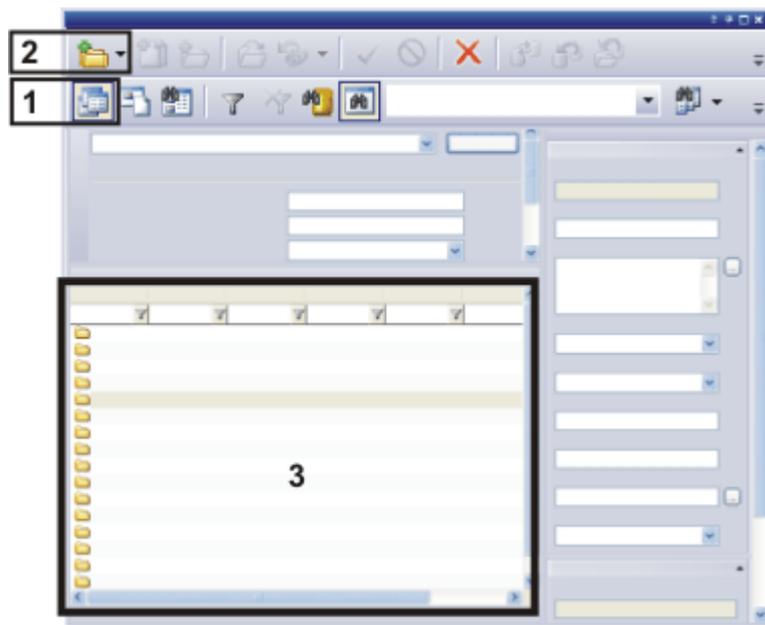
3.2.2. データベースにプロジェクトと標本を挿入する

データベースは階層構造をとります。本ソフトウェアに付属のデータベースは、主に「プロジェクト」と「標本」の2階層で構成されています。

新規のプロジェクトを挿入する

「プロジェクト」フォルダはデータベースの最上位レベルに位置し、プロジェクトビューに表示されます。

1. 新規のプロジェクトを挿入するには、データベースのプロジェクトビューに切り替えます。プロジェクトを設定できるのはプロジェクトビューでのみです。



図は、データベースのプロジェクトビューを略図で表したものです。このプロジェクトビューでは、**[プロジェクトの表示]** ボタン (1) が押された状態で表示されています。**[レコードの挿入]** ボタン (2) をクリックすると、新規のプロジェクトが作成されます。作成したプロジェクトがプロジェクトリスト (3) に表示されます。

2. **[レコードの挿入]** ボタンをクリックします。このボタンは、**[データベース]** ツールウィンドウのツールバーにあります。
 - ピックリストが表示されます。
3. **[プロジェクト...]** を選択します。
 - **[プロジェクトの挿入]** ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、プロジェクトに関係のあるデータベースフィールドが表示されます。
 - **[プロジェクトの挿入]** ダイアログボックスで入力するデータベースフィールドは、データベースの管理者によって指定されています。
 - 後で、プロジェクト情報ビューで、プロジェクトに関連する項目を追加したり、編集したりすることができます。
4. 「エンタープライズエディション」のデータベースを使用する場合、**[権限セット]** グループが **[プロジェクトの挿入]** ダイアログボックスに表示されます。このグループで、このプロジェクトを表示できるユーザーや変更できるユーザーを指定します。
 - 初期設定では、この項目には **[全員]** という名前が付けられています。初

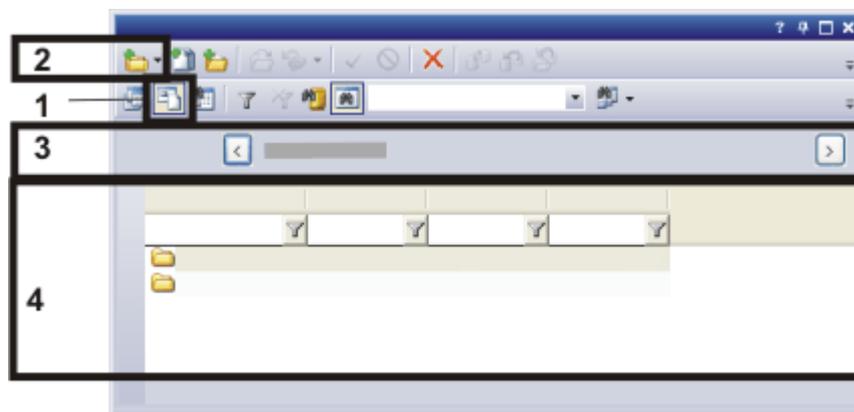
期設定で、すべてのデータベースユーザーが新しいプロジェクトを表示および変更できます。

- 現在の権限セットを変更して、新しい権限セットを、今後の新規プロジェクト作成時のデフォルトとして使用する場合には、[\[デフォルトの権限セットとして設定\]](#) ボタン  をクリックします。
 - この新規レコードに対して使用される権限セットは、このプロジェクトで作成するすべての子レコードに対しても使用されます。このレコードのもとで保存されたすべてのドキュメントも、同じ権限セットを持ちます。
- 他の入力フィールドに入力し、[\[挿入\]](#) ボタンをクリックして、このプロジェクトを設定します。
 - 新しいプロジェクトはデータベースのプロジェクトリストビューに表示されます。
 - データベースのこのプロジェクトに標本フォルダを設定し、このプロジェクトに関係のある画像とドキュメントを挿入できます。

新規の標本フォルダを挿入する

データベースの最上位レベルにあるプロジェクトフォルダ内に、任意の数の標本フォルダを作成できます。標本フォルダは、データベースのドキュメントビューに表示されます。プロジェクトフォルダとまったく同じく、標本フォルダは構成レコードです。標本を挿入すると、その標本に関係するすべてのドキュメントを挿入できるデータベースフォルダが作成されます。

- 新しい標本フォルダを挿入できるのはプロジェクトにのみです。このため、まずデータベース内の標本を挿入するプロジェクトを選択します。
- データベースのドキュメントビューに切り替えます。標本フォルダを設定できるのはドキュメントビューでのみです。



図は、データベースのドキュメントビューの一部を示したものです。このドキュメントビューでは、**[ドキュメントの表示]** ボタン (1) が押された状態で表示されています。

[レコードの挿入] ボタン (2) をクリックすると、新規の標本フォルダが作成されます。挿入した標本フォルダを含むプロジェクトがデータベースウィンドウ (3) に表示されます。

新しい標本フォルダが標本リストビュー (4) に表示されます。



3. **[レコードの挿入]** ボタンをクリックします。このボタンは、**[データベース]** ツールウィンドウのツールバーにあります。
 - ピックリストが表示されます。
4. **[標本...]** を選択します。
 - **[標本の挿入]** ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、標本に関係のあるデータベースフィールドが表示されます。
5. 各入力フィールドに入力し、**[挿入]** ボタンをクリックして、この標本を設定します。
 - 新しい標本はデータベースのドキュメントビューに表示されます。
6. 同様な複数の標本をデータベースに挿入する場合には、この標本に対して行ったすべての設定を特別なクリップボードに保存することができます。それには **[コピー]** ボタンをクリックします。次の標本をデータベースに挿入するときに、挿入ダイアログの **[コピー]** ボタンの下にある **[貼り付け]** ボタンをクリックして、この特別なクリップボードの内容を、**[標本の挿入]** ダイアログボックスの対応するフィールドにコピーします。

3.2.3. 取り込んだ画像をデータベースに自動保存する

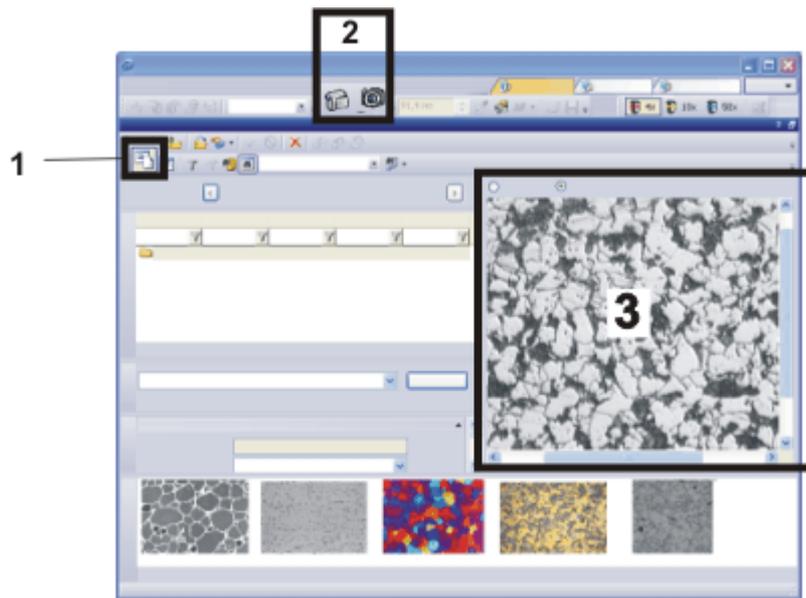
データベースが開かれている場合は、本ソフトウェアで取り込んだすべての画像がアクティブなデータベースに自動的に保存されます。この動作はいつでも変更できます。

1. 使用するデータベースを開きます。
2. ドキュメントを挿入するデータベース内のレコードを選択します。
 - 本ソフトウェアに付属のデータベーステンプレートに基づくデータベースの場合、まずプロジェクトフォルダを選択します。次に、データベースのドキュメントビューに切り替えて、標本フォルダを選択します。

ライブ画像をオンにする



3. **[カメラ制御]** ツールバーの **[ライブ]** ボタンをクリックします。データベースレイアウトでは、このツールバーはデータベースウィンドウの上側に表示されます。
 - ライブ画像に切り替わります。データベースウィンドウにライブ画像が表示されない場合があります。
4. **[データベース]** ツールウィンドウのドキュメントビューの右上にある **[ライブ画像 (アクティブ) の表示]** を選択します。
 - これで、データベースウィンドウにライブ画像が表示されるようになります。
5. ドキュメントビューの右側に表示されるライブ画像を観察します。
6. 標本に焦点を当て、必要な露出時間を選択します。
7. **[顕微鏡制御]** ツールバーで、画像の取り込みに使用する対物レンズのボタンをクリックします。データベースレイアウトでは、このツールバーはデータベースウィンドウの上側に表示されます。



図は、データベースのドキュメントビューを略図で表したものです。このドキュメントビューでは、**[ドキュメントの表示]**ボタン (1) が押された状態で表示されています。**データベースレイアウト**で **[ライブ]**ボタンと **[スナップショット]**ボタン (2) を使用して、ライブ画像に切り替えたり、画像の取り込み時に、取り込んだ画像をデータベースに保存したりします。ライブ画像 (3) はデータベースのドキュメントビューに表示されます。

データベースに画像を挿入する

- 正しいプロジェクトフォルダと標本フォルダを選択していることを確認します。別のデータベースフォルダを選択することもできます。
-  **[カメラ制御]** ツールバーの **[スナップショット]** ボタンをクリックするとライブモードが終了し、画像の取り込みを行い、取り込んだ画像が自動的にデータベースに挿入されます。
 - [画像の挿入]** ダイアログボックスが表示されます。
- 画像に関するデータはデータベースフィールドに入力します。
- [挿入]** ボタンをクリックします。

3.2.4. 取り込んだ画像を自動保存する機能をオフにする

データベースが開かれている場合は、本ソフトウェアで取り込んだすべての画像がアクティブなデータベースに自動的に保存されます。この動作はいつでも変更できます。

-  **[取り込み設定]** ダイアログボックスを表示します。
このダイアログボックスを表示するには、**[取り込み設定]** ボタンをクリッ

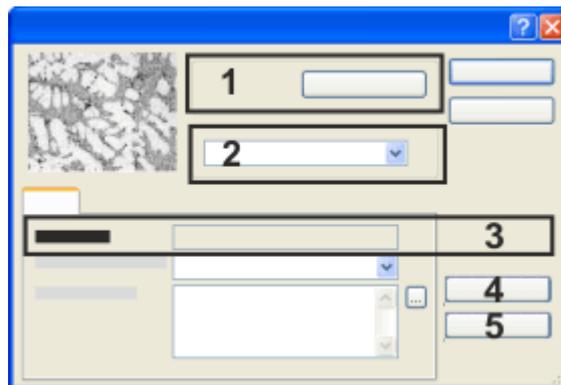
- クします。このボタンは、[\[カメラ制御\]](#) ツールバーなどにあります。
- ツリー構造で [\[保存\]](#) を選択します。
 - この設定を行う取り込みプロセスを選択します。
 - たとえば、取り込んだ画像をすべてデータベースに自動的に保存したい場合には、[\[スナップショット\]](#) を選択します。
 - [\[自動保存\]](#) グループの [\[保存先\]](#) リストで、[\[データベース\]](#) を選択します。これで、取り込んだときに、画像が自動的にデータベースに保存されるようになります。
 - 画像を取り込むときのソフトウェアの動作を変更するには、[\[自動保存\]](#) グループの [\[保存先\]](#) リストで別の項目を選択します。たとえば、画像の自動保存機能を使用しない場合は、[\[自動保存無し\]](#) を選択します。
 - [\[OK\]](#) をクリックして [\[取り込み設定\]](#) ダイアログボックスを閉じます。

3.2.5. データベースに画像を挿入する

本ソフトウェアで作成したすべての種類のドキュメントをデータベースに挿入することができます。また、同様に、データ記憶媒体に既に保存済みの他のファイルもデータベースに挿入することができます。
この操作手順では、本ソフトウェアで現在開いている画像を挿入します。

- 使用するデータベースを開きます。
- 現在のデータベースに挿入する画像を本ソフトウェアに読み込みます。新規のドキュメントを作成することもできます。この場合、挿入するドキュメントが既にファイルとして保存されているかどうかは関係ありません。たとえば [\[取り込み\]](#) レイアウトに切り替え、画像を取り込むか、ハードディスクから画像を読み込みます。
- [データベース](#) レイアウトに切り替えます。
- ドキュメントを挿入するデータベース内のレコードを選択します。
 - データベースの階層によってはドキュメントを挿入できない場合もありますので注意してください。
 - 本ソフトウェアに付属のデータベーステンプレートに基づくデータベースの場合、まずプロジェクトフォルダを選択します。次に、データベースのドキュメントビューに切り替えて、標本フォルダを選択します。
 - データベースの構成の詳細については [こちら](#) を参照してください。
- [\[データベース\]](#) > [\[挿入\]](#) > [\[開いているドキュメント...\]](#) コマンドを実行します。

- ドキュメントグループに複数の画像を読み込むと、**[開いているドキュメントの挿入]**ダイアログボックスが表示されます。データベースに挿入する画像の前にあるチェックボックスをオンにし、**[OK]**をクリックして確定します。
- [画像の挿入]**ダイアログボックスが表示されます。
- 画像を取り込んでいた場合は、データベースを開いたときに **[画像の挿入]**ダイアログボックスが自動的に表示されます。



[挿入] ダイアログボックスには、上位のデータベースフォルダ (1) が表示されます。

ここ (2) で、この画像の表示を許可するユーザーを指定します。

[挿入] ダイアログボックスで、この画像についてデータベースに保存したい情報をすべて入力します。レコード名 (3) は自動的に割り当てられるため、入力できないようになっています。

画像に関する情報を入力する

- 画像を挿入するデータベースフォルダが適切であることを確認します。**[挿入先]**グループ (1) には、画像を挿入するデータベースフォルダの名前が表示されます。
データベースフォルダを変更する場合は、**[参照...]**ボタンをクリックします。
 - [挿入先]**ダイアログボックスが表示されます。**[保存先]**フィールドで、データベースのツリービューにアクセスできます。ツリービューで適切なデータベースフォルダを選択し、**[OK]**をクリックして確定します。
- 「エンタープライズエディション」のデータベースを使用する場合には、[挿入] ダイアログボックスに **[権限セット]** (2) グループが表示されます。ここで、この画像の表示を許可するユーザーを指定します。たとえば、このデータベースにログインできるユーザー全員がこの画像を表示できるようにするには、**[全員]**を選択します。

8. 画像に関するデータはデータベースフィールドに入力します。太字で表示されるデータベースフィールドは、必須フィールドであり、入力する必要があります。
 - すべてのデータベースに必須フィールドがあるわけではありません。したがって、データベースによっては、太字で表示されるデータベースフィールドがないこともあります。
 - レコード名 (3) はデータベースによって自動的に割り当てられるため、このフィールドを編集することはできません。
 - ここで設定する項目の多くは、後で、レコード詳細ビューで変更したり、追加したりすることができます。
9. 同様な複数の画像をデータベースに挿入する場合には、この画像に対して行ったすべての設定を特別なクリップボードに保存することができます。それには **[コピー]** ボタン (4) をクリックします。次の画像をデータベースに挿入するときに、**[貼り付け]** ボタン (5) をクリックして、この特別なクリップボードの内容を、**[画像の挿入]** ダイアログボックスの対応するフィールドにコピーします。
10. **[挿入]** ボタンをクリックして、表示されている情報と現在の画像をデータベース内に一緒に保存します。

画像が保存されるタイミング

- 挿入された画像は、現在はデータベースに保存されています。
- 画像がデータベースに挿入された場合、その画像はドキュメントグループ内で開いたままになります。その画像がなくなったり必要なくなった場合は、再度保存せずに閉じてください。
- 挿入された画像は、既にファイルとして保存されています。挿入時に、その画像のコピーがデータベースに保存されます。データベースへの挿入時に、データ自体が変更されることはありません。

3.2.6. データベースに複数のドキュメントを同時に挿入する

データベースには、同時に多数のドキュメントを挿入できます。この操作手順では、本ソフトウェアで現在開いているドキュメントを挿入します。

1. 使用するデータベースを開きます。
2. 現在のデータベースに挿入するドキュメントを本ソフトウェアに読み込みます。
3. まず、ドキュメントを挿入するデータベース内のレコードを選択します。

- 本ソフトウェアに付属のデータベーステンプレートに基づくデータベースの場合、まずプロジェクトフォルダを選択します。次に、データベースのドキュメントビューに切り替えて、標本フォルダを選択します。
4. **[データベース]** > **[挿入]** > **[開いているドキュメント...]** コマンドを実行します。
 - **[開いているドキュメントの挿入]** ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、開いているすべてのドキュメントのリストが表示されます。ドキュメントの前には、ドキュメントの種類を示すアイコンが表示されます。
 5. **[開いているドキュメントの挿入]** ダイアログボックスでは、開いているドキュメントのうちいくつか、あるいはすべてをデータベースに挿入するかどうかを決めます。データベースに挿入するドキュメントの前にあるチェックボックスをオンにします。
 6. **[OK]** ボタンをクリックします。
 - 最初に挿入するドキュメントに対して **[<ドキュメントの種類> の挿入]** ダイアログボックスが開かれます。ダイアログボックスの外観は、データベースに挿入するドキュメントの種類によって異なります。
 7. ドキュメントに関するデータはデータベースフィールドに入力します。

ケース 1: 個々のドキュメントに対して情報を挿入する

8. **[挿入]** ボタンをクリックして、表示されている情報と現在のドキュメントをデータベース内に一緒に保存します。
 - 次のドキュメント用に **[<ドキュメントの種類> の挿入]** ダイアログボックスが表示されます。
9. すべてのドキュメントに対し、**[<ドキュメントの種類> の挿入]** ダイアログボックスのデータ入力を行います。

ケース 2: すべてのドキュメントに同じ情報を挿入する

10. すべてのドキュメントについて同じ情報を挿入する場合、**[すべて挿入]** ボタンをクリックします。
 - 選択しているすべてのドキュメントが、1 つずつ順番にデータベースに保存されます。**[<ドキュメントの種類> の挿入]** ダイアログボックスが再度表示されることはありません。
 - 選択されているすべてのドキュメントについて、データベースフィールドに同じ情報が入力されます。入力される情報は、最初のレコードの情報です。
 - 自動的に割り当てられるレコード名は、レコードごとに異なります。

3.2.7. レコードフィールドをコピーする

データベースレコードのフィールドの内容を、1つ以上の既存のデータベースレコードにコピーすることができます。これは、レコードタイプが同じ場合にのみ可能です。**[レコードフィールドをコピー]**ダイアログボックスで、内容をコピーするフィールドを選択することができます。

ダイアログボックスの表示

準備: **[ツール]** > **[オプション...]** コマンドを実行し、ツリービューで **[データベース]** > **[全般]** を選択します。**[データベースレコードをコピーするときに[レコードフィールドをコピー]ダイアログを表示する]** チェックボックスをオンにします。

その後、データベースを開き、必要なデータベースビューに切り替えます。フィールドをコピーするレコードを選択します。右クリックして、**[レコードフィールドをコピー]** コンテキストメニューコマンドを選択し、ダイアログボックスを表示します。

例: データベースに 10 個の標本を挿入したとします。これから、これらの標本に関するいくつかの追加情報を追加します。たとえば、標本についてのコメントや標本の準備方法についての情報などです。この追加情報は挿入した 10 個のすべてのレコードに対して同じなので、最初の標本に対してのみデータを入力すれば十分です。その後、(本ソフトウェアの特別なクリップボードを使用して) 残りの 9 個の標本にデータをコピーします。

1. 必要なデータベースビューに切り替え、内容をコピーするレコードを選択します。
2.  コンテキストメニューを開き、**[レコードフィールドをコピー]** コマンドを選択します。
 - **[レコードフィールドをコピー]** ダイアログボックスが表示されます。
3. 本ソフトウェアのクリップボードに内容をコピーするフィールドを選択します。
 - フィールドによっては選択できないものもあります。内容をコピーできないフィールドは、小さな錠前のアイコン   付きで表示されます。
4. 内容をコピーしないフィールドが選択されている場合には、選択を取り消すことができます。
5. **[OK]** をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

6. 現在のデータベースビューで、特別なクリップボードに内容をコピーするレコードを選択します。複数のレコードを設定することもできます。選択したレコードは、同じタイプであることを確認します。



7. コンテキストメニューを開き、**[レコードフィールドを貼り付け]** コマンドを選択します。

- 情報をコピーするコピー先のレコードフィールドが空でない場合には、既存のレコードフィールドが上書きされることを通知する警告メッセージが表示されます。
- 警告メッセージに対して **[はい]** を選択すると、特別なクリップボードの内容が選択したフィールドにコピーされます。

注: 同じタイプの複数のレコードを挿入する場合には、最初のレコードに対して入力した情報をコピーしておき、それ以降のレコードを挿入するときに、対応するフィールドに貼り付けることができます。それには、**[<ドキュメントの種類>の挿入]** ダイアログボックスに表示される **[コピー]** および **[貼り付け]** ボタンを使用します。

4887 23062017

3.3. レコードを並び替え、フィルタ、およびグループ化する

[データベース] ツールウィンドウのさまざまなビューにレコードを表示できる方法がいくつかあります。

3.3.1. レコードを並び替える

多くの場合、興味のあるレコードがリストの一番上に表示されるようにリストビューのレコードを並び替えることができます。これにより、すぐにレコードを見つけられます。

1. レコードを並び替えるビューに切り替えます。並び替えは、プロジェクトリストビュー、標本リストビューおよび検索結果 (テーブルビュー) で実行できます。
 - 列見出しには、現在のリストビューに表示されるデータベースフィールドが表示されます。

レコードを昇順または降順に並び替える

2. 並び替えるデータベースフィールドの列見出しをクリックします。

例: 現在のリストビュー内に、データベースフィールド [発注者] が表示されています。列見出しをクリックすると、発注者の名前のアルファベット順にすべてのレコードが並び替えられます。

- 並び替えプロセスが設定されます。データベースが大きい場合、すべてのレコードが希望どおりに並び替えられるまでに時間がかかる場合があります。
 - データベースウィンドウのステータスバーに、現在のレコードの並び順が示されます。
また、列見出しにある小さな矢印でも、リストの現在の並び替えの基準に使用されているデータベースフィールドを見分けることができます。
3. 並び替えの順序を逆にする (たとえば、数値データを降順ではなく、昇順にする) には、列の見出しでもう一度マウスの左ボタンをクリックします。
 - 列見出しにある小さな矢印の方向で、値の並び順の方向がわかります。
 - 並び替え順序の設定が保存されます。次回、プログラムを起動するとき、同じ並び替え順序が設定されます。
 4. 並び替えを解除するには、並び替えの基準に現在使用されている列の見出しを右クリックします。コンテキストメニューから **[並び替えなし]** コマンドを実行します。
 - これで、レコードは挿入順または手動で操作した順に並び替えられます。

挿入順にレコードを並び替える

1. データベースのいずれかのリストビューを右クリックします。これにより、複数のコマンドを含むコンテキストメニューが開きます。
 - このコンテキストメニューには、常に、**[手動で並び替え]** および **[挿入順に並び替え]** のコマンドがあります。このコンテキストメニューに、他どのコマンドが表示されるかは、現在のリストビューの設定により異なります。**[<データベースフィールド> で並び替え]** コマンドは、表示されているすべてのデータベースフィールドに提供されます。
 - レコードの並び替え機能はリストビューだけでなく、ギャラリービューでも提供されます。
2. コンテキストメニューから **[並び替え]** を選択すると、リストの並び替えに使用するコマンドを含んだメニューが表示されます。
3. **[挿入順に並び替え]** コマンドを実行します。
 - 最も新しいレコードが一番上になるように、レコードが並び替えられます。

レコードを任意に並び替える

例: 使用する標本フォルダに多くの画像が含まれているとします。その中に標本のオーバービュー画像も含まれています。このオーバービュー画像がギャラリービューの左上に表示されるようにしたいとします。

1. データベースのドキュメントビューに切り替えて、標本フォルダを選択します。
2. ギャラリービューのコンテキストメニューから、**[並び替え]** > **[手動で並び替え]** コマンドを実行します。
 - 手動による並び替えオプションがデータベースウィンドウのステータスバーに表示されます。
 - マウスカーソルを使用してドラッグ&ドロップ操作でサムネイルを移動することができるようになりました。
3. ドラッグ&ドロップ操作でオーバービュー画像をドラッグして、ギャラリービューの左上に置きます。
 - 別の並び替え方法を選択した場合でも、手動による並び替えの順番がソフトウェアによって記憶されます。**[手動で並び替え]** コマンドを再度実行すると、手動で並び替えた元の順番にレコードが並び替えられます。

3.3.2. レコードをフィルタする

データベースビューのプロジェクトビューとドキュメントビューでは、現在興味のないレコードを非表示にするようにデータフィルタを設定できます。これにより、表示されるレコードが適切な数に限定されます。

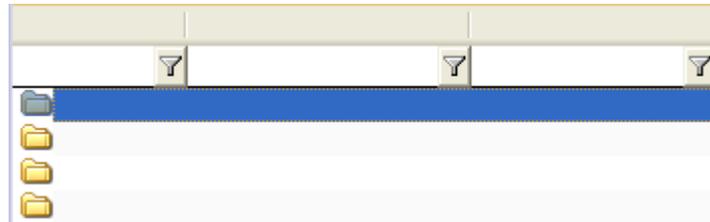
データベースフィールドによるフィルタ

例: 以下の操作手順では、データベースに **[プロジェクトの状態]** データベースフィールドが含まれていることを前提とします。**[プロジェクトの状態]** データベースフィールドにフィルタを適用することで、現在作業中のプロジェクトのみを表示できます。

1. レコードをフィルタするデータベースビューに切り替えます。プロジェクトリストをフィルタする場合は、プロジェクトビューに切り替えます。
 - ドキュメントビューでフィルタすることもできます。これを行うと、現在のプロジェクトで、そのフィルタ条件に合致する標本フォルダのみが表示されます。
2. フィルタ基準が適用されるデータベースフィールドがプロジェクトリストビューに表示されているかどうか確認します。表示されていない場合は、表

示されるように、プロジェクトリストビューを変更します。

- 列見出しに表示されているすべてのデータベースフィールドの下に、フィルタの基準として使用するテキストを入力するためのフィールドが表示されます。



3. フィルタの基準として使用するテキストを入力フィールドに入力します。たとえば、[プロジェクトの状態] データベースフィールドの下に「In Progress」のテキストを入力します。

- テキストを最後まで入力する必要はありません。フィルタするデータベースフィールド内で、入力したテキストで始まるようなすべてのレコードが、データベースによって検索されます。たとえば、「In」と入力するだけで、「In」で始まるプロジェクトの状態（「In progress」または「In process」など）のレコードをすべて検索します。
- 現在のフィルタ条件に合致しないレコードはプロジェクトリストビューから削除されます。
- データフィルタがアクティブな場合は、データベースウィンドウのステータスバーの左下に、小さいフィルタアイコン  が表示されます。現在のフィルタ条件を満たすレコードの数も一緒に表示されます。たとえば「12000 レコード中 26」の表示は、プロジェクトビューで、データベースに合計 12,000 のプロジェクトがあり、そのうちの 26 件がフィルタ条件に一致したことを意味します。



- データフィルタがアクティブのときは [\[フィルタの削除\]](#) ボタンもアクティブになっています。このボタンは [\[データベース\]](#) ツールウィンドウの下側のツールバーにあります。

4. 複数のデータベースフィールドの項目を同時にフィルタすることができます。たとえば、[従業員] データベースフィールドの下の入力フィールドに追加で「Miller」の従業員名を入力します。

- これで、「In Progress」の状態のプロジェクトで、かつ「Miller」という従業員が携わっているプロジェクトのみが表示されるようになります。



5. [\[フィルタの削除\]](#) ボタンをクリックすると、データフィルタが削除され、データベースのすべてのレコードが再表示されます。

スタートアップ時に自動的にデータフィルタを適用する

1. プロジェクトリストをフィルタするためにデータフィルタを選択します。たとえば、プロジェクトの状態でフィルタします。
2. **[データベース]** > **[デフォルトのプロジェクトフィルタの設定]** コマンドを実行します。
 - ここで本ソフトウェアを終了して再起動すると、選択したデータフィルタが自動的に適用されます。ソフトウェアの終了時に設定されていたデータフィルタは適用されません。

複雑なデータフィルタを操作する

データフィルタによっては、列見出しに表示される定義済みの入力フィールドでは設定できないものがあります。たとえば、OR 条件を作成したり、標本フォルダ内のドキュメントにデータフィルタを設定することができません。

例: 標本フォルダ内の画像のみを表示し、それ以外の形式のドキュメントは表示されないようにしたいとします。

1. この標本に関するデータベース内のドキュメントをフィルタする場合は、ドキュメントビューに切り替えて、標本フォルダを選択します。
2. **[データベース]** > **[フィルタの設定...]** コマンドを実行します。
 - **[フィルタの設定]** ダイアログボックスが表示されます。ここでフィルタ条件を設定します。最後に適用したデータフィルタが表示されます。
3. **[検索対象]** グループで、データフィルタを有効にするレコードタイプを指定します。この場合、**[画像]** チェックボックスのみをオンにします。
 - 提供されるレコードタイプは現在のビューによって異なります。たとえばドキュメントビューを表示している場合、ドキュメントビューにはプロジェクトは表示されないため、**[プロジェクト]** のレコードタイプは提供されません。
4. 標本フォルダ内の画像のみを表示するだけの場合は、**[条件]** グループにさらに条件を追加する必要はありません。
もちろん、**[条件]** グループに別のフィルタ条件を追加することはできます。たとえば、特定のユーザーが取得した標本画像のみを表示させることができます。
5. **[検索]** ボタンをクリックすると、**[フィルタの設定]** ダイアログボックスが閉じ、データフィルタが適用されます。
 - ギャラリービューには、設定されたフィルタ条件を満たす画像のみが表示されます。ワークブックなど、他の種類のドキュメントは表示されません。

複雑なフィルタ形式を 1 回または繰り返し適用する

データフィルタを操作するには、さまざまな方法があります。

1. データフィルタを 1 回のみ適用する場合は、**[データベース] > [フィルタの設定...]** コマンドを実行してフィルタを設定すると、直ちにフィルタが適用されます。
2. データフィルタを繰り返し使用する場合は、データフィルタを保存して、プロジェクトフィルタビューまたはドキュメントフィルタビューで使用できます。

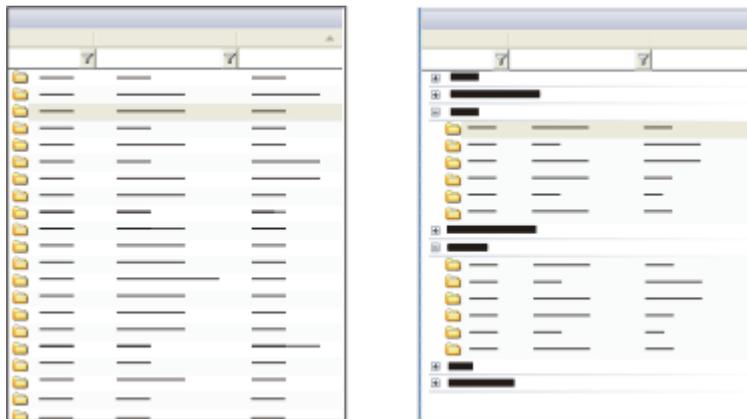
フィルタビューを操作する

1. **[データベース] > [フィルタの設定...]** コマンドを実行します。
2. **[条件]** グループでフィルタ条件を設定します。
[フィールド] ピックリストから、たとえば、**[プロジェクトの状態]** データベースフィールドを選択します。
[比較] 列で、比較演算子を選択します。たとえば、比較演算子「含む」を選択します。
[値] ピックリストで、エントリ「(変数)」を選択します。
3. データフィルタを保存します。それには、**[フィルタ設定の保存]** ボタンをクリックします。
 - **[フィルタ設定に名前を付けて保存]** ダイアログボックスが表示されます。
4. 自分以外のユーザーにもフィルタ条件を簡単に識別できるように、分かりやすい名前を付けます。新しいデータフィルタに、たとえば、「プロジェクトの状態」という名前を付けます。
5. **[OK]** をクリックしてすべてのダイアログボックスを閉じます。
 - これで、データフィルタが保存され、プロジェクトフィルタビューでこのデータフィルタを使用できます。
6.  プロジェクトフィルタビューが表示されていることを確認します。この場合、**[フィルタビューの表示/非表示]** ボタンが押された状態になっています。このボタンは **[データベース]** ツールウィンドウの下側のツールバーにあります。
7. **[検索]** ボタンの横のリストから新しく設定したデータフィルタを選択します。
 - これで、選択したデータフィルタに設定したすべてのフィルタ条件がプロジェクトフィルタビューに表示されます。この例では、フィルタ条件「プロジェクトの状態を含む」が完全に設定されていません。

8. 「終了」などの値を入力フィールドに入力して、変数フィルタ条件を完成します。
 - これでフィルタが完全に設定されました。
9. **[検索]** ボタンをクリックします。
 - プロジェクトリストがフィルタされます。設定したフィルタ条件を満たすプロジェクトのみ表示されます。

3.3.3. レコードをグループ化する

多くの場合、数回クリックするだけで興味のあるレコードにアクセスできますが、それと似た方法でプロジェクトリストビューまたは標本リストビュー内のレコードをグループ化することができます。たとえば、調査の方法を基準に、プロジェクト内の標本をグループ化できます。



左側にデータベースのリストビューが表示されます。すべてのレコードが1個ずつ同じように表示されます。右側には、データベースフィールドの条件に従ってレコードがグループ化された後のリストビューが表示されます。各レコードは、ツリー構造で表示されたグループに割り当てられています。すべてのグループを閉じると、通常は、グループ化されていないときよりもすっきりしたレイアウトの表示になります。

レコードをグループ化する

1. レコードをグループ化するビューに切り替えます。プロジェクトリストビューまたは標本リストビューでレコードをグループ化できます。
2. グループ化したい列の見出しを右クリックします。
 - コンテキストメニューが表示されます。
 - 任意のデータベースフィールドでグループ化できます。ただし、グループ化が役に立つのは、データベースフィールドの項目の数がある程度多くない場合です。レコードごとに、データベースフィールドに別のタイ

プの項目 (たとえば [レコード名] や [挿入日] などのデータベースフィールド) が作成されている場合、このデータベースフィールドを基準にグループ化してもレコードの明確化にはなりません。

3. **[このフィールドでグループ]** コマンドを選択します。

- グループ化が行われます。これで、レコードはリストでは表示されなくなり、代わりにツリー表示で表示されます。
すべてのレコードに特定のグループ条件 (たとえば、データベースフィールド「オペレータ」) が割り当てられています。すべてのフィールド項目に、ツリー表示で上位の項目 (たとえば、「オペレータ: Mr. Smith」) が付けられます。特定の基準に属している項目を展開するには、基準の前にある小さなプラス記号をクリックします。
- グループ化によって作成されるグループの数は、グループ化で使用されたデータベースフィールド内の異なる項目の数と一致します。たとえば、[プロジェクトの状態] データベースフィールドに「In Progress」、「Postponed」、および「Finished」の3つの項目がある場合は、3つのグループが作成されます。各レコードは、プロジェクトの状態に応じて、これらのいずれかのグループに仕分けられます。

4. 必要に応じて、グループ化されたレコードを昇順または降順に並び替えることができます。

設定されたグループ化をキャンセルする

1. グループ化をキャンセルするビューに切り替えます。プロジェクトリストビューまたは標準リストビューでレコードをグループ化できます。
2. レコードが現在グループ化されている列の見出しを右クリックします。
現在グループ化されているレコードがわからない場合には、ツリー構造で、グループ条件として使用されているデータベースフィールドを確認できます。
 - コンテキストメニューが表示されます。このデータベースフィールドが現在グループ条件として使用されている場合、**[このフィールドでグループ]** コマンドがチェックマークで示されます。
3. このグループ化を削除するには、**[このフィールドでグループ]** コマンドを選択します。
 - ツリー表示がキャンセルされ、レコードはもう一度リストで表示されます。
4. すべてのグループ化を一斉に解除することもできます。それには、列の見出しを右クリックしてコンテキストメニューから **[テーブルのグループ解除]** コマンドを実行します。

マルチレベルでグループ化を作成する

1. レコードをグループ化します。グループ条件として、[オペレータ] データベースフィールドなどを選択します。
2. グループ化したい追加の列の見出しを右クリックします。追加のグループ条件として [解析方法] データベースフィールドなどを選択します。
 - レコードはまずオペレータでグループ化されます。次に、同じオペレータに属するすべてのレコードが、調査の方法でもう一度グループ化されます。

00192

3.3.4. データフィルタの例

ここではデータフィルタの例を紹介します。データフィルタはデータベース検索にも常に使用することができます。

検索設定の作成方法

データフィルタには、フィルタ条件が 1 つ以上含まれます。フィルタ条件は、次のように記述します。

([データベースフィールド] 比較演算子 'フィールド項目')

データベースフィールドは角括弧で囲み、フィールド項目は引用符で囲みます。比較演算子には、[\[フィルタ\]](#) ダイアログボックスで指定された演算子を使用します。

ここで指定したデータフィルタは、あくまでもひとつの例です。実際のデータベースでは、他のデータベースフィールドが設定されている場合があります。

データフィルタ	フィルタ結果
[準備] が次と等しい '薄片'	[準備] データベースフィールドに「薄片」の文字が入力されているすべてのレコード。フィールド項目が「薄片」ではなく、たとえば「薄」になっている場合、このデータフィルタではそのレコードは表示されません。
[挿入日] >= '03.03.2007'	2007 年 3 月 3 日以降に挿入されたすべてのレコード。
[子カウント] <> '0'	データベースのプロジェクトビューでこのデータフィルタを使用すると、追加データが既に追加されているすべてのプロジェクトフォルダが表示されます。空のプロジェクトフォルダはすべて表示

	されません。
[挿入日] >= '03.03.2007' AND [挿入日] < '01.05.2007'	2007年3月3日から2007年5月31日までの間に挿入されたすべてのレコード。
[コメント] が次を含む: '未加工'	像のコメントに「未加工」の語を含むすべてのレコード。「未加工」の語が画像コメント内のどの位置にあるかは考慮されません。画像コメントのテキスト全体が検索されます。
[ユーザー] が次と等しい 'スミス' AND [プロジェクト] が次と等しい '340698'	スミスがプロジェクト 340698 に挿入したすべてのレコード。
[ユーザー] が次と等しい 'スミス' OR [ユーザー] が次と等しい 'ジョーンズ'	スミスまたはジョーンズがデータベースに挿入したすべてのレコード。
[プロジェクト] が次と等しい 'プロジェクト A' AND ([ユーザー] が次と等しい 'トンプソン' OR [ユーザー] が次と等しい 'リチャード')	トンプソンまたはリチャードがデータベースに挿入したプロジェクト A に関するすべてのレコード。この場合、括弧の使用は必須です。 括弧で囲まない場合、トンプソンがデータベースに挿入したプロジェクト A に関するすべてのレコードに加え、プロジェクト A に関するレコードだけでなくリチャードがデータベースに挿入したすべてのレコードが返されます。このようになるのは、括弧がないため、論理演算子 AND が、演算子 OR より先に計算されるからです。

00064 28062011

3.3.5. データベース検索 / データフィルタ

データベース内でのデータ検索に加え、特定のデータベースビューでデータをフィルタリングすることもできます。ここでは、データベース検索とデータベースフィルタの違いを説明します。

データベース検索は、以下の点でデータフィルタの適用と異なります。

	データベース検索	データフィルタ
対象データ	データベースの検索は常に、データベース全体に対して行われます。	データベースフィルタは常に、現在のデータベースビューに関係します。

<p>例</p>	<p>2つの異なるプロジェクトに含まれるすべての画像を表示したいとします。</p> <p>[データベース] > [検索の設定...] コマンドはどのデータベースビューでも実行できます。つまり、データベースのプロジェクトビューで適切な検索設定を定義して検索を実行することができます。</p>	<p>プロジェクトビューでは、データフィルタは表示されているプロジェクトフォルダに常に適用されます。たとえば、プロジェクトの状態が「開始」であるプロジェクトのみを表示することができます。</p> <p>ドキュメントビューでは、データフィルタは、選択されている標本フォルダに含まれるドキュメントに常に適用されます。</p> <p>データベースの検索結果ビューでは、[データベース] > [フィルタの設定...] コマンドは使用できません。</p>
<p>結果の表示場所</p>	<p>データベースの検索結果は、検索結果ビューという特別なデータベースビューで確認できます。</p>	<p>データベースフィルタを適用すると、現在のデータベースビュー内のレコードが非表示になります。</p>
<p>データベース検索のキャンセルまたはデータフィルタの削除方法</p>	<p>検索結果ビューのデータは新しいデータベース検索により自動的に上書きされます。</p>	<p>アクティブなデータベースフィルタを削除するには、[データベース] > [フィルタの削除] コマンドを実行します。これで、すべてのレコードが再度表示されます。</p>

00196 07072011

3.4. レコードを検索する

データベース内のデータ検索はいつでも行うことができます。データベース内を検索する場合は、以下の点に注意してください。

- レコードを検索するには、検索条件を定義する必要があります。
- データベースの検索結果は、検索結果ビューという特別なデータベースビューで確認できます。
- 新しいデータベース検索を行うたびに、前の検索結果が上書きされます。

さまざまな検索方法

レコードを検索するには 2 つの方法があります。

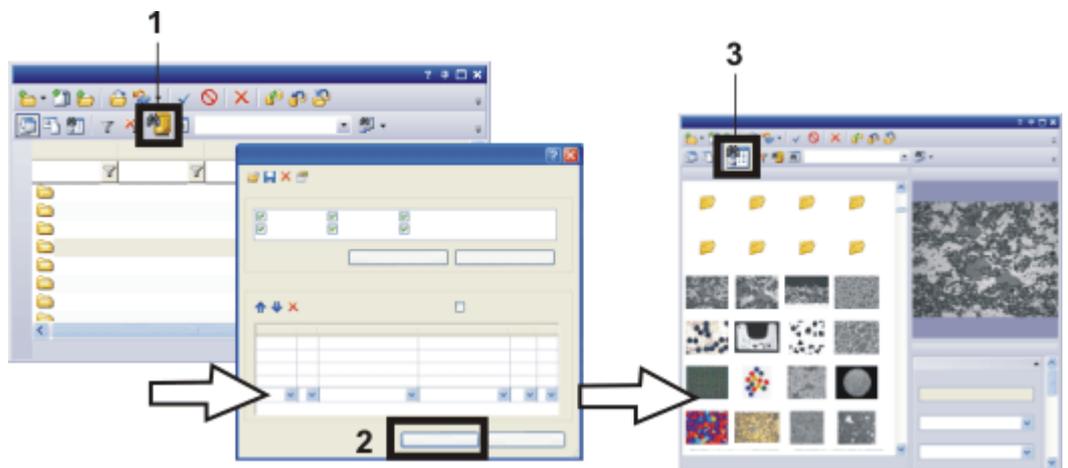
- [レコードを直接検索する](#)
検索設定を 1 回しか使用しない場合は、[\[データベース\] > \[検索の設定...\]](#) コマンドを実行して検索条件を指定し、それを直接適用します。
- [検索ビューで検索する](#)
同じ検索設定を何度も使用する場合は、その検索設定を保存し、保存した検索設定を検索ビューで使用します。

データベース全体でのテキストの検索

先に検索設定を定義せずに、データベース内でテキストを直接検索することができます。全文検索では、データ形式が [テキスト](#) または [備考](#) の、すべてのデータベースフィールド内のすべての項目が検索されます。

3.4.1. レコードを直接検索する

1. **[データベース]** > **[検索の設定...]** コマンドを実行します。
 - **[検索の設定]** ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで検索条件を設定します。
 - **[検索の設定]** ダイアログボックスは、いずれのデータベースビューでも使用できます。つまり、データベースのプロジェクトビューで画像を検索したり、逆にドキュメントビューでプロジェクトを検索したりすることもできます。
2. **[検索対象]** グループで、検索対象とするレコードタイプを絞ることができます。たとえば、画像またはプロジェクトのみを検索対象にすることができます。
3. **[条件]** グループでは、検索条件を 1 つ以上設定できます。
4. **[検索]** ボタンをクリックして、データベースの検索を開始します。
 - 画面の表示が、データベースのに自動的に切り替わります。現在の検索条件を満たすレコードのみが表示されます。



レコードを直接検索する方法:

[検索の設定] ダイアログボックスを表示します。それには、たとえば **[検索の設定]** ボタン (1) をクリックします。

[検索の設定] ダイアログボックスで検索条件を設定してから、**[検索]** ボタン (2) をクリックして検索を実行します。

検索結果がデータベースの検索結果ビュー (3) に表示されます。

検索結果ビューを終了する

検索結果ビューを終了するには以下の方法があります。

1. 検索結果ビューでレコードを選択します。
右クリックしてコンテキストメニューから **[レコードへ移動]** コマンドを実

行します。

- 選択したレコードが属する標本またはプロジェクトが自動的に表示されます。このプロセスでは、画面の表示が、適切なデータベースビューに自動的に切り替わります。

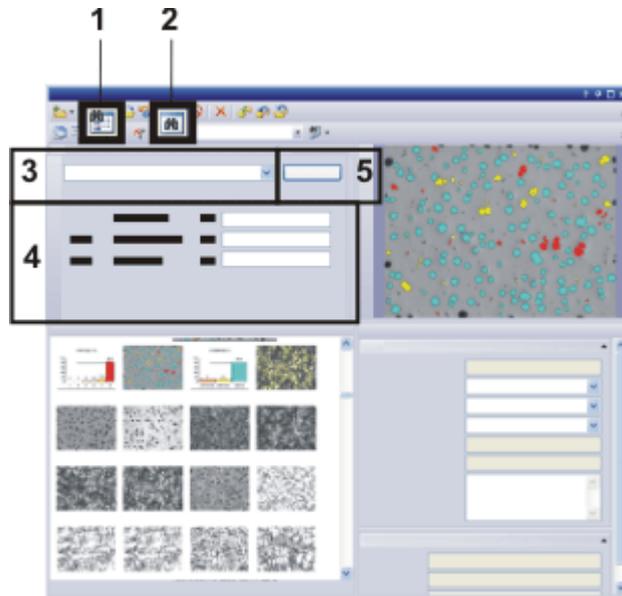
-  2. **[プロジェクトの表示]** ボタンをクリックし、データベースのプロジェクトビューに切り替えます。このボタンは **[データベース]** ツールウィンドウの下側のツールバーにあります。
-  3. **[ドキュメントの表示]** ボタンをクリックし、データベースのドキュメントビューに切り替えます。このボタンは **[データベース]** ツールウィンドウの下側のツールバーにあります。

3.4.2. 検索ビューで検索する

ここで説明する手順では、保存された検索設定が既に存在することを前提としています。まだ検索結果を保存していない場合には、こちらの操作手順を参考にして、検索設定を作成し、保存しておいてください。

-  1. データベースの検索結果ビューに切り替えるには、**[検索結果の表示]** ボタンをクリックします。このボタンは **[データベース]** ツールウィンドウの下側のツールバーにあります。
-  2. 検索ビューが表示されていることを確認します。この場合、**[検索ビューの表示/非表示]** ボタンは選択状態になります。このボタンは **[データベース]** ツールウィンドウの下側のツールバーにあります。
3. **[検索]** ボタンの横にあるリストから、使用したい検索設定を選択します。
 - 検索ビューに、検索条件が表示されます。
4. 変数検索条件として必須の項目を設定する必要があります。通常、この設定はデータベースの検索ごとに異なります。
 - データはさまざまな方法で入力できます。ピックアップリストや日付を選択できるカレンダーフィールドがある場合もあります。コメントを検索する場合、場合によっては、検索するコメント (またはその一部) を手動で入力する必要があります。
5. **[検索]** ボタンをクリックします。
 - 検索が実行されます。データベース検索の結果、設定した検索条件を満たすレコードのみが表示されます。
 - データベースの検索を実行すると、検出されたレコードの数がデータベースウィンドウの左下に表示されます。
たとえば、プロジェクトビューの「12000 レコード中 26」の表示は、

データベースに合計 12,000 個のプロジェクトがあり、そのうちの 26 個が検索条件を満たしたことを意味します。



変数検索条件は、データベースの検索結果ビュー内でレコードを検索するために使用します (1)。検索ビューを表示します (2)。検索設定を選択し (3)、検索条件を設定してから (4)、検索を実行します (5)。

3.4.3. データベース検索の検索条件を指定する

1. **[データベース]** > **[検索の設定...]** コマンドを実行します。
 - **[検索の設定]** ダイアログボックスが表示されます。
2. **[検索対象]** グループで、検索対象のレコードタイプを指定します。
3. **[条件]** グループの最初の行に、最初の検索条件を設定します。
 - 最初の検索条件の設定が完了すると、次の検索条件を設定するための行が新たに表示されます。
 - 検索ビューで検索設定を使用する場合には、可能であれば変数検索条件を使用してください。たとえば次の検索条件を指定します。
[レコード名] が次を含む "(変数)"
このように指定することにより、必要なレコード名を検索ビューで簡単に検索することができます。
4. 必要に応じて、2 番目の行にさらに検索条件を設定します。このとき、2 つの検索条件の間に論理的な関係を指定する必要があります。
これを指定するには、行の最初のフィールドで、論理演算子 AND または OR のいずれかを選択します。

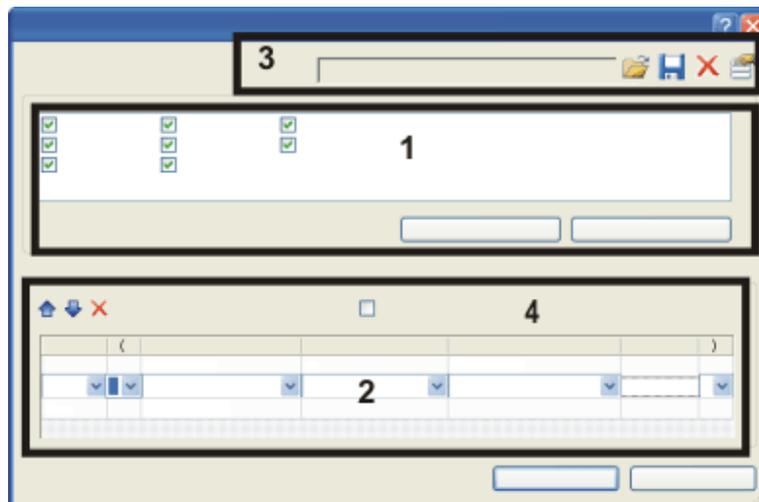
- 論理演算子 AND の場合、2 つの検索条件を同時に満たすレコードのみが見つかります。
- 論理演算子 OR の場合、2 つの検索条件のうちいずれかを満たすレコードが見つかります。

5. 検索設定を保存します。それには、**[検索設定の保存]** ボタンをクリックします。
 - **[検索設定に名前を付けて保存]** ダイアログボックスが表示されます。
6. 自分以外のユーザーも検索設定を簡単に識別できるよう、分かりやすい名前を付けます。
7. **[保存]** ボタンをクリックして検索設定を保存します。
 - **[検索設定に名前を付けて保存]** ダイアログボックスが閉じ、**[検索の設定]** ダイアログボックスに戻ります。
8. **[検索の設定]** ダイアログボックスを閉じます。
9. [検索ビュー] に切り替えて、データベース検索を実行します。

00053

3.4.4. [検索の設定] ダイアログボックス

データベース検索の検索条件を設定するには、**[データベース] > [検索の設定...]** コマンドを実行します。



- (1) 検索内容を特定のレコードタイプに制限する
- (2) 検索条件を設定する
- (3) 検索設定を保存する、読み込む、削除する
- (4) 子レコードを検索する

(1) 検索内容を特定のレコードタイプに制限する

検索対象を特定のレコードタイプに絞ることができます。**[検索対象]**グループには、現在のデータベースに設定されたすべてのレコードタイプが表示されます。つまり、データベースによっては、表示される項目が異なることがあるということです。

データベース検索の対象とするレコードタイプのチェックボックスをすべてオンにします。

画像のみを検索する

例: 特定の画像を探しているとします。たとえば、データベースへの挿入が2013年の7月1日以降に行われた画像を検索します。

1. **[データベース]** > **[検索の設定...]** コマンドを実行します。
 - **[検索の設定]** ダイアログボックスが表示されます。
2. **[検索対象]** グループで **[全選択の解除]** ボタンをクリックします。
 - **[検索対象]** グループのすべてのチェックボックスがオフになります。
3. **[画像]** チェックボックスをオンにします。
4. **[条件]** グループで、次の検索条件を設定します。
[作成時刻] >= '1.7.2013 00:00'
 - 注: **[検索対象]** グループで1つ以上のレコードタイプが選択されている場合にのみ検索条件を入力できます。
5. **[検索]** ボタンをクリックして、データベースの検索を開始します。
 - 画面の表示が、データベースの検索結果ビューに自動的に切り替わります。ここに、2013年7月1日以降データベースに挿入されたすべての画像が表示されます。
 - これで画像のみが検索対象となります。このデータベース検索では、それ以外のレコードタイプ(ワークブック、データベースフォルダ、レポート構成など)は検索されません。

(2) 検索条件を設定する

[条件]グループでは、データベース検索の条件を設定します。ここでは、検索条件が1つだけの非常に単純なものから、複数の検索条件からなる複雑なものまで検索設定を構成できます。

単一の検索条件を設定する

単一の検索条件は、次のように設定します。

([データベースフィールド] 比較演算子 'フィールド項目')

検索条件を設定するには、**[フィールド]**、**[比較]**、**[値]** および **[単位]** フィールドの指定が必要です。それには、**[検索の設定]** ダイアログボックスの **[条件]** グループのテーブルで、該当するフィールドをクリックします。フィールドのいずれかをクリックすると、直ちにそのフィールドについて可能な範囲の項目を含むピックリストが表示されます。

フィールド	比較	値	単位

フィールド

[フィールド] ピックリストには、選択したレコードタイプに設定されているすべてのデータベースフィールドが含まれます。そのデータベースフィールド内の項目を検索する、データベースフィールドを選択します。

[フィールド] ピックリストのデータベースフィールドは、アルファベット順に並べられています。簡単に検索を行うには、フィールドをクリックし、検索するデータベースフィールドの最初の文字を入力します。名前がこの文字で始まる最初のデータベースフィールドが、自動的に表示されます。

キーボードの矢印キーを使って、データベースフィールドのリストをスクロールします。表示されているデータベースフィールドから始めます。

例: 特定の期日の前後に取り込まれた画像を探すには、データベースフィールド **[作成日時]** を選択します。

比較

[比較] ピックリストには、検索条件の比較演算子が含まれます。ピックリストに含まれる比較演算子は、選択されているデータベースフィールドのデータ形式によって異なります。

例: データ形式 **[整数]** のデータベースフィールドには、比較演算子 **[<>]** を使用できます。比較演算子 **[<>]** は、この場合「等しくないこと」を示します。検索を **[画像]** レコードタイプに限定します。検索条件 (**[ビット深度] <> '8'**) の場合、ビット深度が 8 ビット以外の画像 (24 ビットのトウルーカラー画像など) が検索されます。

検索を **[プロジェクト]** レコードタイプに限定します。 (**[子カウント] <> '0'**)

検索条件の場合、標本が既に挿入されているすべてのプロジェクトが検索されます。これらのプロジェクトに対してのみ、子カウントが 0 ではないからです。

値

[値] フィールドには、データベース検索に用いるフィールドの具体的な内容を入力します。選択したデータベースフィールドにピックリストが設定されている場合には、[値] リストにそのピックリストのすべての選択肢が表示されます。

[値] リストには、[(空白)] や [(変数)] という選択肢もあります。詳細についてはこの後の説明を参照してください。

例: データベースに、データベースフィールド [準備] が設定されているとします。レコードの挿入時に、使用した準備を入力します。これにより、データベースに対する値を指定します。

これで、検索条件 ([準備] が次と等しい '薄い部分') により、「薄い部分」として準備された標本のみが検索されます。

単位

選択したデータベースフィールドに単位が設定されている場合、[単位] フィールドに単位が自動的に入力されます。

例: [t 間隔] データベースフィールドには、必ず時間の単位 (秒など) が設定されます。タイムラプス画像の場合、データベースフィールドには 2 つのフレーム間の時間が表示されます。

変数検索条件を設定する

変数検索条件は、次のように設定します。

([データベースフィールド] 比較演算子 'フィールド項目')

変数検索条件とは？

検索条件を設定する場合、具体的な値を設定するか、または値を変数のままにしておくかの 2 通りの方法があります。変数検索条件の場合、データベースの検索を開始するには、ユーザーは検索の対象となる具体的な値を指定する必要があります。

変数検索条件の設定方法

検索設定は、**[検索の設定]** ダイアログボックスの **[条件]** グループで設定します。**[値]** フィールドに具体的な項目を設定しない、またはピックリストから何も選択しないで、**[(空白)]** または **[(変数)]** のいずれかを選択すると、変数検索条件が設定されます。

変数検索条件の使用方法

変数検索条件は、他のすべての検索条件と同じく、**[データベース]** ツールウィンドウの検索ビューで使用します。

変数検索条件を適用する場合

同じデータベース検索を繰り返し実行したい場合には、変数検索条件を使用すると便利です。

例:

データベースに、データベースフィールド **[プロジェクトの状態]** が設定されているとします。変数検索条件を使用すると、検索条件を 1 回設定するだけで任意の状態のプロジェクトをすばやく検索できます。検索条件は次のようになります。

(**[プロジェクトの状態]** が次と等しい: '(変数)')

変数検索条件を使用しない場合、プロジェクトのすべての状態ごとに個別のデータベースの検索を設定する必要があります。たとえば、(**[プロジェクトの状態]** が次と等しい: '終了')、(**[プロジェクトの状態]** が次と等しい: '実行中') など。この場合、保存された検索条件が 3 つ以上必要になります。

複数の検索条件でデータベースの検索を設定する

[検索の設定] ダイアログボックスで、データベース検索の非常に複雑な検索設定を指定できます。

複数の検索条件の設定方法

最初の検索条件の設定が完了すると、次の検索条件用に、新しい行がダイアログボックスに表示されます。

2 つの検索条件を含む検索設定は、次のように指定します。

(**[データベースフィールド 1]** 比較演算子 'フィールド内容 1') <論理演算子> (**[データベースフィールド 2]** 比較演算子 'フィールド内容 2')

論理演算子 AND と OR を使用する

2つの検索条件を、論理演算子の AND または OR で結び付けます。
行の最初のフィールドで、必要な論理演算子を選択します。

すべての検索条件を同時に満たす、すべてのレコードを検索する場合は、論理演算子 AND を選択します。

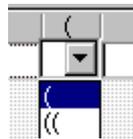
例: ミラーさんが 2012 年にデータベースに挿入したレコードを検索するとします。以下の検索条件を設定します。
([ユーザー] が次と等しい 'ミラー' AND [挿入日] > '31.12.2011' AND [挿入日] < '1.1.2013')

検索条件のうち少なくとも 1 つを満たす、すべてのレコードを検索する場合は、論理演算子 OR を選択します。

例: すべての Z シリーズ画像またはタイムラプス画像を検索するとします。以下の検索条件を設定します。
([t レイヤの数] > '1' OR [Z レイヤの数] > '1')

括弧を使用する

複数の検索条件を使用する場合、場合によっては、括弧を使用する必要があります。最初に評価される 2 つの検索条件を括弧で囲みます。括弧で囲まない場合、論理演算子 AND のほうが OR 演算子よりも先に処理されます。



検索条件の順序を変更する

各検索条件の順序を変更するには、[条件]グループの  と  のボタンを使用します。

個々の検索条件を削除する



[条件]グループで、削除する検索条件を選択します。[条件]グループの [条件の削除] ボタンをクリックすると、選択した検索条件の行が検索設定から削除されます。

すべての検索条件を削除して、検索の設定を最初から始めるには、ダイアログボックスの一番上のタイトルのすぐ下にある [すべての設定の削除] ボタンをクリックします。

(4) 検索設定を保存する、読み込む、削除する

検索条件の保存、読み込み、削除、または管理を行うには、ダイアログボックスのボタンを使用します。

(4) 子レコードを検索する

特定のデータベースフォルダ内のレコードを検索するには、**[子レコードを検索する]**チェックボックスをオンにします。検出されたデータベースフォルダ内のすべてのレコードが検索結果に含まれるように、データベースフォルダに対する検索設定を指定します。

たとえば、データベース内で以下の検索条件で検索を実行することができます。

例: データベースに構成レコードタイプ **[プロジェクト]**が含まれるとします。データベースに挿入されており、プロジェクト「P01_2011」および「P02_2011」に属するすべての画像を検索します。

1. **[検索対象]**グループで、画像のみが検出されるように **[画像]**チェックボックスをオンにします。
2. **[子レコードを検索する]**チェックボックスをオンにします。
 - 現在設定されているすべての検索条件が自動的に削除されます。
3. 以下の検索条件を設定します。
[レコード名 (プロジェクト)] が次と等しい: "P01_2011"
OR [レコード名 (プロジェクト)] が次と等しい: "P02_2011"
 - 検索結果には、プロジェクト「P01_2011」または「P02_2011」に挿入されたすべての画像が含まれます。
プロジェクト自体は検索結果には含まれません。

00199 21062016

3.4.5. データベースのテキスト検索

先に検索設定を定義せずに、データベース内でテキストを直接検索することができます。全文検索では、データ形式が **[テキスト]**または **[備考]**の、すべてのデータベースフィールド内のすべての項目が検索されます。

全文検索機能は、**[データベース]**ツールウィンドウの下側のツールバーにあります。



検索テキストを入力する

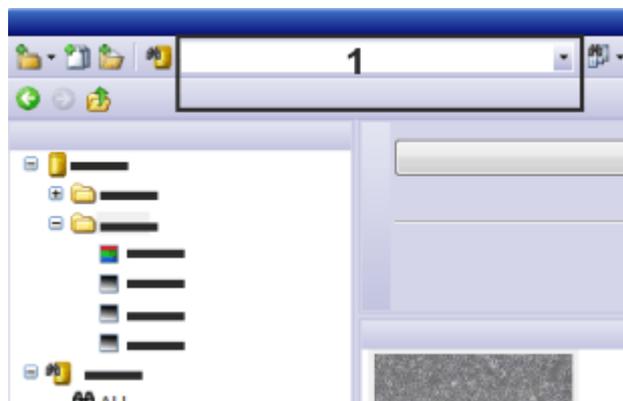
検索テキストを入力する場合には、次の点に注意してください。

- 2つ以上の単語を入力できます。単語を2つ入力した場合、両方の語が含まれているすべてのレコードが検索されます。
- 単語を最後まで入力する必要はありません。たとえば、「chemi」と入力すると、「chemical」または「chemistry」などの語を含むデータベース内のすべてのレコードが検出されます。
同様に、「aluminium」を検索するには「alumin」と入力するだけで十分です。
- 全文検索では大文字と小文字は区別されません。
- # や & などの特殊文字は使用しないでください。

タスク:データベースフィールドに「Aluminium oxide」の語を含むすべてのレコードを、このキーワードで検索したいとします。

1. [データベース]ツールウィンドウを表示します。

- ツールウィンドウのツールバーにテキスト入力フィールド (1) があります。テキスト検索をまだ行っていない場合には、フィールド内に「ここにテキストを入力してください」と表示されます。



検索テキストを入力する

2. 検索フィールド (1) に検索テキストを入力します。この例では、「Alumin」と入力します。

全文検索を特定のレコードタイプに限定する

3. 全文検索の対象とするレコードタイプを絞ることができます。たとえば画像のみを検索できます。[データベースのテキスト検索] ボタンの横にある小さな矢印をクリックすると、全文検索に使用するコマンドを含んだメニューが表示されます。
4. [選択されたレコードタイプ...] コマンドを実行します。

- **[選択されたレコードタイプ]** ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスに、現在のデータベースで設定されているレコードタイプがすべて表示されます。つまり、データベースによっては、表示される項目が異なることがあります。
5. 全文検索の対象とするレコードタイプのチェックボックスをすべてオンにします。
全文検索の対象から除外するレコードタイプのチェックボックスをすべてオフにします。
 6. **[OK]** をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
 - いくつかのレコードタイプを除外すると、**[データベースのテキスト検索]** ボタンの外観が変わります。ボタンはこのようになります。 

全文検索を開始する

7. **[データベースのテキスト検索]** ボタンをクリックして、全文検索を開始します。
 - 全文検索が始まる前に、データベースサーバーで全文検索が有効になっているかどうか自動的にチェックされます。データベースサーバーで全文検索が有効になっていないと、検索に時間がかかることがあります。この場合はメッセージが表示され、全文検索をキャンセルできます。
 - 全文検索が実行されます。データ形式が **[テキスト]** と **[備考]** のデータベースフィールドに「aluminium」の語を含むすべてのレコードが返されます。
 - 検索結果は、検索結果ビューに表示されます。

注: 検索テキストがどのデータベースフィールドで検出されたかは示されません。テキストの検索はすべてのデータベースフィールドで行われるため、検索テキストを含んだデータベースフィールドが現在のデータベースビューに表示されていない可能性があります。

4874

3.5. レコードを選択する

データベースのレコードの読み込み、移動、または削除を行う前に、データベース内の目的のレコードを選択する必要があります。

データベースフォルダを選択する

一部のデータベースビューでは、データベースフォルダが表示されます。通常、データベースフォルダには複数のレコードが含まれています。データベースのプロジェクトビューには、たとえば、画像や他のドキュメントがある標本フォルダを含むプロジェクトフォルダが表示されます。データベースフォルダを選択すると、選択したデータベースフォルダ内のすべてのレコードも選択されます。

注: 他のレコードを数多く含んだレコードを選択して、たとえば、[\[レコードの削除\]](#) コマンドを実行すると、選択したデータベースフォルダ内のすべてのドキュメントが削除されます。

複数のレコードを選択する

ほとんどのデータベースビューでは、複数のレコードを同時に選択できます。

複数のレコードを選択するには、MS Windows で複数選択するときの標準の操作方法を用います。

- 連続していない個々のレコードを選択することができます。それには、[Ctrl] キーを押しながら、必要なレコードを選択します。
- 複数のレコードを範囲選択することができます。それには、[Shift] キーを押しながら、選択したい範囲の最初と最後のレコードをクリックします。

検索結果から複数のレコードを選択する

選択したいレコードが、異なるデータベースフォルダにまたがっている場合は、まず、それらのレコードが検索されるデータベース検索を設定します。たとえば、特定の画像を選択するには、検索範囲にすべての画像を含めます。データベースの検索を実行すると、検索結果が自動的にギャラリービューに表示されます。ギャラリービューで、必要なレコードを選択します。

00329 28062011

3.6. ドキュメントを読み込む

3.6.1. 概要

データベースから本ソフトウェアにドキュメントを読み込むには、[\[ドキュメントの読み込み\]](#) コマンドを実行します。ドキュメントは画像だけではなく、レポート構成、グラフなどのドキュメントの場合もあります。

このコマンドを実行する前に

データベースのドキュメントビューに切り替えます。読み込むドキュメントをデータベースギャラリーで選択します。

コマンドを実行する

このコマンドを実行するには以下の方法があります。



- **[ドキュメントの読み込み]** ボタンをクリックします。このボタンは、**[データベース]** ツールウィンドウの上側のツールバーにあります。
- **[データベース]** > **[ドキュメントの読み込み]** コマンドを実行します。
- **[ドキュメントの読み込み]** コマンドは、データベースギャラリーのコンテキストメニューにもあります。

処理の流れ

- **[データベース]** レイアウトから **[処理]** レイアウトに自動的に切り替わります。
- 選択したドキュメントが本ソフトウェアで読み込み可能な場合、ドキュメントはドキュメントグループに読み込まれます。ドキュメントグループでは、ドキュメントごとにウィンドウが作成されます。ドキュメントのタイトルをクリックすると、そのドキュメントが表示されます。
- 画像を読み込むには、画像データをファイルサーバーに要求し、データベースクライアントに転送してもらう必要があります。ネットワーク接続の速さ、画像のサイズ、使用しているドキュメント保管形式によっては、画像の読み込みに時間がかかることがあります。

ドキュメントを読み込む必要があるとき

- 本ソフトウェアはさまざまな種類の画像に対応しています。プレビューでは、画像のすべての情報を見ることはできません。たとえば、タイムラプス画像内の個々のフレームを個別に表示することはできません。画像をより詳しく観察したい場合は、その画像をドキュメントグループに読み込みます。
- データベースにある画像を処理する場合は、データベースから画像を読み込む必要があります。一般的な処理は、計測やフィルタの使用などです。

[データベース] ツールウィンドウでも、画像をフル解像度で表示できます。そのために、個々の画像をドキュメントグループに読み込む必要はありません。それには、ドキュメント/ライブ画像ビューを使用します。

サポートされていないドキュメントの種類を読み込む

ドキュメントによっては、データベースに内容が表示されないものがあります。たとえば、DOC や XLS ファイルなど、他のアプリケーションのレポートやファイルは、データベースギャラリーにアイコンとして表示されます。これらのドキュメントを表示するには、読み込む必要があります。

これらのファイルを読み込んだ場合、MS Word や MS Excel などの対応するアプリケーションが PC にインストールされていれば、それらのアプリケーションが自動的に起動します。

対応するアプリケーションが PC にインストールされていない場合、そのことを示すメッセージが表示されます。

その場合は、ギャラリービューでそのドキュメントを選択して右クリックし、コンテキストメニューから **[アプリケーションで開く]** コマンドを実行します。そのドキュメントの種類を開くことのできるプログラムがすべて提示されます。

または、そのドキュメントをエクスポートし、対応するアプリケーションがインストールされている別の PC で表示することもできます。

5652

3.6.2. データベースからドキュメントを読み込む

データベースから本ソフトウェアにデータを読み込むには、さまざまな方法があります。

- **[データベース] > [ドキュメントの読み込み]** コマンドを実行します。
- たとえばギャラリービューから、ドラッグ&ドロップ操作によって、1 つまたは複数のドキュメントをドキュメントグループにドラッグします。データベースウィンドウが最大化されておらず、ドキュメントグループとデータベースウィンドウが同時に表示されている場合にのみ、この機能を使用することができます。
- ドキュメントグループでダブルクリックするとドキュメントが読み込まれるように、本ソフトウェアを設定することもできます。それには、**[ツール] > [オプション] > [データベース] > [全般]** ダイアログボックスを表示します。**[ドキュメントレコードがダブルクリックされたとき]** リストから、**[ドキュメントの読み込み]** を選択します。

この操作手順は、1 つの例にすぎません。ドキュメントを読み込むには、他にもさまざまな方法があります。

この操作に関する注意については、各種データベースビューの説明などを参照してください。

1. データベースのドキュメントビューに切り替えて、標本フォルダを選択します。
 - ギャラリービューに、選択したレコードに含まれているすべてのドキュメントが表示されます。画像はサムネイルとして表示され、それ以外の種類のドキュメントはアイコンとして表示されます。
 - 検索結果のドキュメントを読み込むこともできます。たとえば、特定の顕微鏡を使用して取り込まれた画像をすべて読み込む場合には、検索設定にその顕微鏡の名前を指定します。見つかった画像がギャラリービューに表示されます。ここで、読み込む画像を選択できます。
2. サムネイルまたは読み込むドキュメントのアイコンを選択します。
3.  **[ドキュメントの読み込み]** ボタンをクリックします。このボタンは **[データベース]** ツールウィンドウの上側のツールバーにあります。
 - 本ソフトウェアで開くことができるドキュメントは、ドキュメントグループに表示されます。
 - 画面のレイアウトが「処理」レイアウトに切り替わります。
 - 選択したドキュメントが本ソフトウェアで開けない場合、そのドキュメントに対応するアプリケーションが開き、ドキュメントはそのアプリケーションに読み込まれます。
適切なアプリケーションが PC にインストールされていない場合は、メッセージが表示されます。

00313 28062011

3.7. データベース内のレコードを編集する

データベースに挿入したレコードを後から編集するには、さまざまな方法があります。

注: 「Olympus Stream Enterprise」のソフトウェアバージョンでは、レコードを編集する権限がすべてのユーザーにあるわけではありません。ユーザー権限を変更したい場合は、データベース管理者にお問い合わせください。

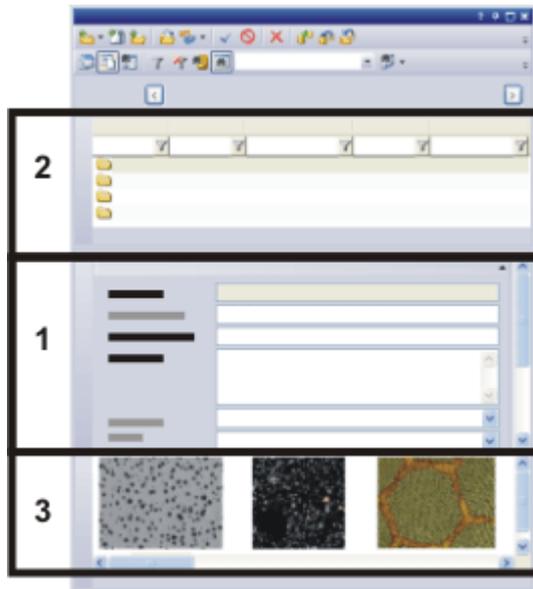
データベースフィールド内の項目を変更および追加する

レコードを設定する場合、必須フィールドには事前に項目を作成しておく必要があります。データベースフィールドの項目は、いつでも変更または追加できます。

ただし、レコード名など、自動的に入力されるデータベースフィールドにはこ

のルールは適用されません。これらのデータベースフィールドは、編集することができません。

1. データベースフィールドの内容を変更するレコードまたは情報を追加するレコードを選択します。
レコードは、プロジェクトビューまたはドキュメントビューで選択できます。ドキュメントビューでは、標本リストビューで標本フォルダを選択するか、またはギャラリービューでドキュメントを選択します。



データベースのドキュメントビューでは、標本フォルダとドキュメントにアクセスすることができます。

プロジェクトリストビュー (2) で標本フォルダを選択します。ドキュメント情報ビュー (1) には、この標本のデータベースフィールドに既に入力されている情報が表示されます。

データベースギャラリー (3) でドキュメントを選択します。選択したドキュメントに関する情報がドキュメント情報ビューに表示されます。

- プロジェクト情報ビューまたはドキュメント情報ビューに、このレコードに関して集められた情報が表示されます。編集したいフィールドがすべて表示されていない場合は、ビューをカスタマイズすることができます。
- 必須フィールドは太字で表示されます。これらのフィールドの内容は変更できますが、フィールドを空にすることはできません。内容を変更できないフィールド ([作成時刻] など) の背景はグレーで表示されます。

- レコードに関連する項目を追加または変更します。データベースの構成によって、編集できるフィールドと編集できないフィールドが異なります。
 - データベースフィールド内の項目を変更すると、[レコード詳細ビュー]のツールバーの **[変更の確定]** と **[変更の破棄]** の2つのボタンが直ちにアクティブになります。



- 変更を適用するには、**[変更の確定]** ボタンをクリックします。データベースフィールドの変更内容を破棄するには、**[変更の破棄]** ボタンをクリックします。
 - 変更内容を確定すると、レコードが変更されます。

確認なしでデータベースフィールドの項目を変更する

- レコードに関連する項目を追加または変更します。
- このレコードのデータベースフィールドの編集内容を確定します。それには、たとえば次のレコードを選択します。
 - 変更した値を適用するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
このダイアログボックスに **[次回からメッセージを表示しない]** チェックボックスがあります。
- [次回からメッセージを表示しない]** チェックボックスをオンにします。
 - これで、データベースフィールド内の項目を変更する際に、変更の確認を求めるメッセージが表示されなくなります。たとえば別のレコードを選択すると、変更した項目が自動的にデータベースに保存されます。
- このメッセージを元のように表示させることができます。それには、**[ツール] > [オプション...]** コマンドを実行します。ツリー構造で **[データベース] > [全般]** を選択します。**[レコードの変更を保存する前に確認する]** チェックボックスをオンにします。

データベースのドキュメントを処理する

データベースに保存されているドキュメントは、いつでも読み込みこんで編集し、データベースに再度挿入することができます。

注: 以下の手順は外部ドキュメントには適用されません。外部ドキュメントとは、MS Excel ドキュメントなど、本ソフトウェアに読み込めない種類のドキュメントです。

ドキュメントに変更を加えたときのデータベースの動作を指定する

1. **[ツール] > [オプション...]** コマンドを実行します。ツリー構造で **[データベース] > [全般]** を選択します。
 - **[読み込み済みドキュメントの保存]** グループで、データベースに既に保存されているドキュメントを変更した場合の本ソフトウェアの動作を指定します。
2. **[毎回確認する]** オプションを選択します。

データベースのドキュメントを編集して再度挿入する

3. データベースの画像を読み込みます。それには、画像を選択して、**[データベース] > [ドキュメントの読み込み]** コマンドを実行します。
 - その画像がドキュメントグループに表示されるようになります。
 - データベースの表示が自動的に「処理」レイアウトに切り替わります。
4. ソフトウェアで画像を処理します。本ソフトウェアでは、さまざまな画像の処理ができます。以下はその一例です。
 - たとえば、画像の最適なコントラストを得るには、**[処理]** メニューのコマンドを使用します。
 - 画像にラベルを付けるには、**[図形描画]** ツールバーのボタンを使用します。
 - 画像上のオブジェクトを計測するには、**[計測]** メニューのコマンドを使用します。
5. 処理が完了したら、ドキュメントグループの画像を閉じます。それには、たとえばショートカットキー **[Ctrl + W]** を押します。
 - 表示されるダイアログでは、さまざまな処理ができます。データベース内の元のドキュメントを置換したり、処理したドキュメントを新しいレコードとして挿入したり、任意のフォルダにレコードをファイルとして保存したりすることができます。
6. ダイアログボックスのリストで、たとえば **[貼り付け]** を選択し、**[OK]** をクリックして確定します。
 - 変更したドキュメントがデータベースに挿入され、元のドキュメントと置換されます。これを行うと、元のドキュメントは上書きされます。
 - データベースフィールドの情報は元のドキュメントから適用されますが、確認を求めるメッセージは表示されません。
 - ドキュメントの読み込みが完了した後にこのデータベースが閉じられた場合でも、このドキュメントがデータベースから読み込まれたものであ

るという情報は保持されます。この場合、[\[データベースを開く\]](#)ダイアログボックスが自動的に表示されます。

00065

3.8. データベース内でレコードを移動する

既存のレコードをデータベース内で移動することができます。

画像や他のドキュメントを移動する場合、移動に関連したまったく別の2つの方法があります。

- 画像やドキュメントを別のデータベースフォルダに移動することができます。これを行うと、レコードにリンクした一部のデータベースフィールド内の内容が変更されます。移動した画像やドキュメントは操作画面の別の場所に表示されます。この処理によって、ドキュメントファイル自体が変更されることはありません。
- データベース管理者は、画像やドキュメントを別のドキュメントフォルダに移動できます。これにより、ドキュメントの保存場所も変更されます。

タスク:ドキュメントを目的のフォルダとは違うデータベースフォルダに誤って挿入してしまった場合には、それらのドキュメントを正しいフォルダに移動することができます。

コンテキストメニューのコマンドを使用してドキュメントを移動する

1. 移動するレコードを選択します。

- レコードの選択はさまざまなデータベースビューで行うことができます。

データベースのドキュメントビューに切り替え、データベースギャラリーでドキュメントを選択します。

または、移動するドキュメントを検索することもできます。この場合は、検索結果ビューのギャラリービューで、ドキュメントを選択します。

- ギャラリービューでは、複数のドキュメントを同時に選択することができます。それには、[Ctrl] キーを押しながら、ドキュメントを選択します。

2. マウスを右クリックし、コンテキストメニューを表示します。コンテキストメニューから [\[切り取り\]](#) コマンドを実行します。

3. ドキュメントを挿入するレコードを選択します。

- この操作を行う場合には、常に、1つ上の階層にあるレコードを選択する必要があります。

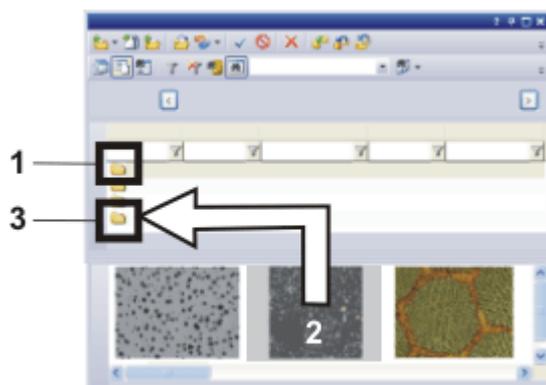
- 本ソフトウェア付属のデータベーステンプレートを基にしているデータベースの場合には、標本フォルダにのみ画像とドキュメントを挿入できます。
4. マウスを右クリックし、コンテキストメニューを表示します。コンテキストメニューから **[貼り付け]** コマンドを実行します。
 - レコードが移動します。

注: コンテキストメニューの **[切り取り]** と **[貼り付け]** コマンドを使用して、標本フォルダを別のプロジェクトフォルダに移動することもできます。

ドラッグ&ドロップ操作でレコードを移動する

ドラッグ&ドロップ操作でレコードを移動することもできます。プロジェクトに複数の標本フォルダが含まれているとします。標本フォルダ間で画像を移動したいとします。

1. データベースのプロジェクトビューで、標本フォルダをダブルクリックします。
 - 画面の表示がドキュメントビューに切り替えられます。選択したプロジェクトに含まれる標本フォルダが表示されます。
2. 移動するドキュメントを含む標本フォルダを選択します。
3. ギャラリービューで、移動するドキュメントを選択します。
4. マウスの左ボタンを押したまま、ドキュメントを挿入先の標本フォルダにドラッグします。



図は、ドキュメントビューの **[データベース]** ツールウィンドウです。標本フォルダ (1) が選択されており、その標本フォルダ内のドキュメントがギャラリービューに表示されています。画像を移動するには、マウスの左ボタンを押したまま (2) 標本フォルダに (3) にドラッグします。

- 確認を求めるダイアログボックスが表示されます。

5. 移動を確定します。
 - ドキュメントが移動します。ギャラリービューからドキュメントが消えます。
6. ドキュメントの移動先の標本フォルダを選択します。
 - 新しい標本フォルダのギャラリービューにドキュメントが表示されます。

00090 27062011

3.9. データをインポートおよびエクスポートする

データベースの構成をエクスポートする

データベースの構成をエクスポートしてデータベースエクスポートファイル (DBE) を作成しておく、このファイルをテンプレートとして使用し、同じ構成を持った新しいデータベースを作成することができるので便利です。

1. データ構成をエクスポートするデータベースを開きます。
2. 複数のツールウィンドウを表示できるレイアウトを選択します。たとえば、**[ビュー]** > **[レイアウト]** > **[処理]** コマンドを実行して **[処理]** レイアウトに切り替えます。
3. **[データベース]** > **[インポート/エクスポート]** > **[データベースのエクスポート...]** コマンドを実行します。
4. DBE ファイルに名前を割り当てます。
5. DBE ファイルを保存する場所を指定します。
6. **[オプション]** グループで、データベースからエクスポートするデータを選択します。
たとえば、新規データベース用のテンプレートを作成する場合は、**[構成のみエクスポート (データベーステンプレート)]** を選択します。
7. **[OK]** ボタンをクリックして、エクスポートを開始します。
 - **[ログ]** ツールウィンドウが自動的に表示されます。ツールウィンドウに、現在エクスポート中のデータが表示されます。
 - エクスポートが完了すると、メッセージボックスが表示されます。さらに、**[ログ]** ツールウィンドウのリストの最後に、処理の完了を示すメッセージが表示されます。
8. メッセージボックスを閉じます。
 - これで、エクスポートは完了です。あとは、通常どおり、現在のデータベースの操作を続けることができます。

9. エクスポートした DBE ファイルに基づいて新規データベースを作成する場合は、**[データベース] > [新規...]** コマンドを実行します。
 - 新規のデータベースの作成の詳細については[こちら](#)を参照してください。

データベースを新規データベースにインポートする

別のデータベースから現在のデータベースにデータをインポートすることができます。この前提条件として、両方のデータベースが同じデータベース構成になっている必要があります。

1. **[データベース] > [インポート/エクスポート] > [データベースのインポート...]** コマンドを実行します。
2. **[参照...]** ボタンをクリックして、DBE ファイル (データベースエクスポートファイル) があるフォルダに移動します。
3. インポートするデータを選択します。
 - たとえば、**[構成、ユーザーとレコードをインポート]** を選択します。これで、DBE ファイルのすべてのデータがインポートされます (DBE ファイルにドキュメントが含まれている場合は、ドキュメントもインポートされます)。
4. **[OK]** ボタンをクリックして、インポートを開始します。
 - **[ログ]** ツールウィンドウが自動的に表示されます。ツールウィンドウに、現在インポート中のデータが表示されます。ドキュメントもインポートする場合は、インポート処理に時間がかかります。このツールウィンドウの情報から目を離さないでください。インポート処理が完了すると、**[ログ]** ツールウィンドウのリストの最後に、処理の完了を示すメッセージが表示されます。
 - 現在のデータベースに、インポートしたデータベースのすべてのレコードが表示されるようになりました。
5. 通常表示されるツールバーのみをデータベースのレイアウトに表示するには、**[ビュー] > [レイアウト] > [現在のレイアウトのリセット]** コマンドを実行します。
 - これで、このデータベースに対して作業を開始することができます。

データベースからドキュメントをエクスポートする

データベースから個々のドキュメントをエクスポートすることができます。これにより、たとえばデータベースにアクセス権のないユーザーも画像を利用して

きるようにすることができます。ドキュメントをエクスポートする際は、ドキュメントのコピーを作成します。これにより、データベース内の元のドキュメントは保持されます。

1. エクスポートするレコードを選択します。
2. **[データベース]** > **[インポート/エクスポート]** > **[ドキュメントのエクスポート...]** コマンドを実行します。
 - **[ドキュメントのエクスポート]** ダイアログボックスが表示されます。
 - ダイアログボックスの一番下に表示される情報に注意してください。エクスポートされるデータのサイズが表示されます。
3. 必要な設定を、このダイアログボックスで行います。グレー表示された機能は、使用しているデータベースバージョンでは利用できません。
 - レコードの階層構造を保持するには、**[データベース構成をファイルシステム上に再現する]** チェックボックスをオンにします。ファイルを含むデータベースフォルダごとに、ハードディスク上にフォルダが作成されます。このフォルダの名前は、レコードの名前と同じになります。
 - **[エクスポート先のパス]** フィールドの横にある **[...]** ボタンをクリックして、エクスポートするデータの保存先のフォルダを選択します。
4. **[OK]** ボタンをクリックして、エクスポートを開始します。
 - エクスポートが開始します。
 - エクスポートが完了すると、メッセージボックスが表示されます。
 - 指定した保存先フォルダに、エクスポートされたデータが表示されます。
 - データベース内の元のドキュメントは変更されません。

00320 27062017

3.10. レコードの削除

選択したすべてのレコードをデータベースから削除するには、**[データベース]** > **[レコードの削除]** コマンドを実行します。レコードはデータベースのごみ箱に移動されます。関連する警告メッセージが表示されます。

このコマンドを実行する前に

1 つまたは複数のレコードを選択します。

コマンドを実行する

このコマンドを実行するには以下の方法があります。



- **[レコードの削除]** ボタン をクリックします。このボタンは、**[データベース]** ツールウィンドウのツールバーにあります。
- レコードを選択したデータベースビューを右クリックして、コンテキストメニューの **[削除]** コマンドを実行します。
- **[データベース] > [レコードの削除...]** コマンドを実行します。

何が削除されるのか？

レコードを削除すると、データベース内でこのレコードに入力されているすべての情報も失われます。

レコードを削除すると、このレコードに含まれているドキュメントもすべて自動的に削除されます。つまり、画像やドキュメントを含むデータベースフォルダを削除すると、そのデータベースフォルダ内の画像やドキュメントもすべて削除されます。

読み込まれたドキュメントは削除できない

データベースからドキュメントグループに読み込んだドキュメントは削除できません。ドキュメントを削除しようとするするとメッセージが表示されます。

まずドキュメントグループ内のドキュメントウィンドウを閉じてから、**[レコードの削除]** コマンドを実行します。

5631

データベースのごみ箱

[ごみ箱] コマンドを使用して、データベースのごみ箱にあるすべてのレコードを表示できます。

コマンドを実行する

このコマンドを実行するには以下の方法があります。



- **[ごみ箱]** ボタンをクリックします。このボタンは、**[データベース]** ツールウィンドウのツールバーにあります。
- **[データベース] > [ごみ箱...]** メニューコマンドを実行します。

[ごみ箱] ダイアログボックスに、データベースから削除されたすべてのレコードが表示されます。

現在選択されているレコードに対して、このレコードに入力されているすべての情報が表示されます。画像レコードについては、プレビューも表示され、画像をズームすることもできます。

[ごみ箱] ダイアログボックスでは、削除されたすべてのレコードを復元したり、完全に削除したりすることができます。

ダイアログボックスのツールバー

以下の表は、初期設定で利用できるツールバーのボタンを示しています。

	選択されたデータベースレコードの復元	たとえば、誤って削除してしまったレコードを復元したいときに、このボタンをクリックします。関連する警告メッセージが表示されます。
	選択されたデータベースレコードを完全に削除	[ごみ箱] ダイアログボックスで現在選択されているすべてのレコードを完全に削除するには、このボタンをクリックします。関連する警告メッセージが表示されます。
	ごみ箱からすべてのデータベースレコードを永久に削除	データベースのごみ箱にあるすべてのレコードを完全に削除するには、このボタンをクリックします。関連する警告メッセージが表示されます。
	ギャラリービューとテーブルビュー間の切り替え	ギャラリービューからテーブルビューに、またはその逆に切り替えるには、このボタンをクリックします。ギャラリービューには、すべての画像のサムネイルが表示されます。

5674

3.11. データベースを閉じる

現在のデータベースで必要な操作を完了したら、[データベース] > [閉じる] コマンドを実行します。これにより、このデータベースのデータを使用したり、新しいデータをデータベースに追加したりすることはできなくなります。

以下の操作を行うと、データベースが自動的に閉じます。

- 画像解析プログラムを終了すると、開いていたデータベースも自動的に閉じます。
- 一度に開けるデータベースは 1 つのみであるため、別のデータベースを開くと、現在開いているデータベースは自動的に閉じます。

ただし、[データベース] ツールウィンドウを閉じても、データベースは閉じられません。データベースでツールウィンドウはいつでも再表示できます。たとえば [ビュー] > [ツールウィンドウ] > [データベース] コマンドを使用します。

ソフトウェアの機能

データベースを閉じても本ソフトウェアは実行されているため、ソフトウェアの機能は引き続き使用することができます。つまり、たとえばハードディスクから画像を読み込んで処理したりするなどの操作を引き続き行えます。

5622

4. データベース管理者

データベース管理者の作業とは?

データベースの管理に関連する多くの作業は、データベース管理者だけが処理することができます。たとえば、データベースを作成し、ユーザー権限を割り当て、データベース構成を変更できるのは、データベース管理者のみです。

データベース管理者となる人

データベース管理者には、SQL サーバー上にデータベースを作成する権限が必要です。この前提条件が満たされれば、本ソフトウェアのどのユーザーでもデータベース管理者の役割を担うことができます。

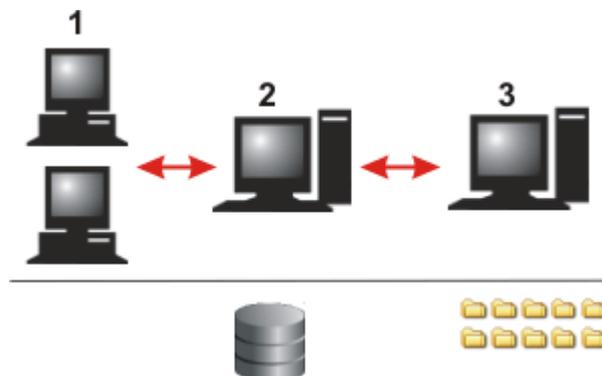
本ソフトウェアのインストール中に、Microsoft SQL Server をインストールすると、必要な権限が自動的に与えられます。

SQL サーバーに必要な権限がない場合には、SQL サーバー管理者に申請します。

00066

4.1. データベースでファイルを保存する

新規のデータベースを作成する場合、データベースファイルと画像 (およびその他のドキュメント) を保存する場所を指定します。データベースでは、画像とその他のドキュメントに対する、[\[ファイルシステム\]](#)と[\[セキュアファイルレポジトリ\]](#)の2つのドキュメントの保管形式がサポートされています。[\[ファイルシステム\]](#)ドキュメント保管形式を使用している場合、データの流れは次の図のようになります。



本ソフトウェアは、データベースクライアント (1) 上にインストールされます。データベースクライアントはデータベースサーバーと通信します。データベースおよびデータベース管理システム (DBMS) は、データベースサー

バー (2) 上にあります。ドキュメントがデータベースに挿入されるか、データベースから読み込まれると、データベースサーバーはファイルサーバーと通信します。

画像やその他のドキュメントが保存されるドキュメントフォルダは、データサーバー (3) 上にあります。データベースサーバーには、ドキュメントへのリンクのみが保存されます。

データベースクライアント、データベースサーバー、ファイルサーバーを 1 台の PC 上で動作させることもできます。

4.1.1. データベースクライアント

データベースクライアントとは、本ソフトウェアと、SQL クライアントまたは Oracle クライアントがインストールされているすべての PC のことです。本ソフトウェアには、他の多くの機能のほか、データベースサーバーとの通信を可能にするユーザーインターフェイスがあります。データベースクライアントから、新規データベースを作成したり、既存のデータベースにアクセスしたりすることができます。

要求されたデータは、表示、編集、読み込みのためにデータベースクライアントに転送されます。これにより、多くのデータベースクライアントが同時にデータベースにアクセスすることができます。

4.1.2. データベースサーバー

データベースサーバーには、データベース管理システム (DBMS) がインストールされています。この DBMS は、Microsoft SQL Server 2016 や Oracle 10g サーバーなどです。

データベースファイル

データベースサーバーには、まず実際のデータベースファイルが存在します。データベースファイルには、フィールドテーブルや保存された検索設定など、データベース構成に関するすべての情報が格納されています。

さらに、すべてのレコードもデータベースファイル内に格納されています。たとえば、データベースに画像を挿入すると、データベースに [\[画像\]](#) タイプの新しいレコードが作成されます。この新規レコードはデータベースに保存され、管理されます。データベースは、このレコードに固有の名前を割り当て、それに属するすべての付随情報 (挿入日、ファイルサイズ、レコードについてのコメントなど) を保存します。データベースによりこれらのメタデータが管理されているため、ユーザーは指定した検索条件に一致するレコードをデータベースで検索することができます。

注: 画像 (またその他のドキュメント) はデータベースには保存されません。保存されると、データベースが大きくなりすぎてしまいます。データベースファイルには、画像が保存されている場所への参照のみが保存されます。

4.1.3. ファイルサーバー / セキュアファイルレポジトリのサーバー

データベースでは、画像とその他のドキュメントに対する、**[ファイルシステム]**と**[セキュアファイルレポジトリ]**の2つのドキュメントの保管形式がサポートされています。

ファイルシステムでのドキュメントの保管では、画像およびその他のドキュメントは特別なドキュメントフォルダに保存されます。**[セキュアファイルレポジトリ]**保管形式を使用する場合は、画像およびその他のドキュメントは、セキュアファイルレポジトリ (SFR) として、この目的でセットアップされたサーバー上に保存されます。

ドキュメントの保管形式は、新規データベースの作成時に指定します。これを後から変更することはできません。ただし、異なるドキュメント保管形式を使用する複数のデータベースを使用することはできます。

ドキュメントへのアクセスを確認する

ドキュメントの保管形式に関係なく、データベース内のドキュメントが保存されている PC が常にアクセス可能な状態にあることが重要です。アクセスできない場合、データベースからドキュメントを読み込もうとするとエラーメッセージが表示されます。

「ファイルシステム」ドキュメント保管形式

ファイルシステムでのドキュメントの保管では、画像およびその他のドキュメントは特別なドキュメントフォルダに保存されます。

ドキュメントフォルダの場所には、特別な要件はありません。ネットワーク上であれば、実質的にどこにでも配置することができます。たとえば、データベースサーバー自体に配置することもできます。また、データベース内の全ドキュメントを保存するために、専用の PC をファイルサーバーとして設定することもできます。

ドキュメントを複数のファイルサーバーに分散して配置することもできます。この方法は、たとえばユーザーが複数の場所からデータベースにアクセスする場合に、データ転送を高速化するために使用します。

別の用途として、あまり使用されなくなったドキュメント用にドキュメントフォルダを作成することもできます。これにより、ストリーマや磁気テープの

ような、安全ではあるが処理速度の遅い記憶メディアをドキュメントのアーカイブ用にデータベースに組み込むことができます。

データベースのドキュメントフォルダを管理するには、**[設定] > [ドキュメントの保管形式] > [ファイルシステム]**ダイアログボックスを使用します。

注: ファイルサーバーに接続したら、MS Windows エクスプローラでドキュメントフォルダを表示できます。データベースに保存されているドキュメントを開く場合には、MS Windows エクスプローラではなく、必ずデータベースから開いてください。また、ドキュメントフォルダにあるドキュメントを、MS Windows エクスプローラで削除したり、名前を変更したりしてはなりません。エクスプローラで行った変更は、データベースでは認識されないためです。

「セキュアファイルレポジトリ」ドキュメント保管形式

ドキュメントを特に安全に保管し、不正なアクセスから保護したい場合には、セキュアファイルレポジトリを提供する追加のソフトウェアパッケージを購入することもできます。このパッケージは、セキュアファイルレポジトリ用サーバーにインストールされます。

このソフトウェアパッケージは、SFR (セキュアファイルレポジトリ) と呼ばれます。このソフトウェアパッケージを使用することにより、データベース内のすべてのドキュメントを開き、表示できるのは、データベースクライアントだけに制限されます。権限のないユーザーがデータベースを開くことはできなくなります。セキュアファイルレポジトリ用サーバー上に作成されたフォルダは、MS Windows エクスプローラには表示されません。

00328 25022021

4.2. 新規のデータベースを作成する

データベースの作成手順の概要

新規のデータベースを作成する場合は、以下の手順を実行する必要があります。

新規のデータベースを作成する



レコードタイプを設定する



データベース構成を設定する



データベースフィールドを設定する

00327

4.2.1. 新規のデータベース

新規のデータベースを作成するには、**[データベース]** > **[新規...]** コマンドを実行します。

[新規のデータベース] ダイアログボックスは、ウィザードと同じように機能します。データベース作成の操作手順が示されます。

新規データベースの作成手順

- (1) データベースサーバーを選択する
- (2) データベース名を入力する
- (3) データベーステンプレートを選択する
- (4) 統合されたレコードとデータベースを作成する

新規データベース作成前の準備

新規のデータベースを作成するには、以下の前提条件を満たしている必要があります。

- データベースクライアントにログオンしている。
- データベースサーバーと、ファイルサーバー、つまりセキュアファイルレポジトリ用のサーバーが利用可能である。
別のファイルサーバーが必要となるのは、別の PC にドキュメントを保存したい場合のみです。データの保存には、使用中の PC またはネットワークドライブ上の任意のフォルダを使用できます。
専用のデータベースサーバーは必ずしも必要ではありません。本ソフトウェアがインストールされている PC に、データベース管理システムをインストールすることもできます。
- 新規のデータベースが非常に大きくなることが予測される場合には、サーバーに十分な空き容量があることを前もって確認しておく。
- SQL 認証を必要とするデータベースを作成するには、データベース管理システム (DBMS) に登録されているユーザー名とパスワードを使用する。登録されていない場合、エラーメッセージが表示され、データベースを作成することができません。この場合は、DBMS 管理者に相談してください。

(1) データベースサーバーを選択する

データベースサーバー

[データベースサーバー]フィールドにデータベースサーバーの名前を入力します。PCからこのサーバー上にデータベースをすでに作成済みの場合、必要なサーバーがピックリストに表示されます。

SQLサーバーの場合は、3つの点のボタン [...] をクリックします。[サーバーの選択]ダイアログボックスでデータベースサーバーを選択します。

初期設定では、データベースサーバーの名前は、「<PCの名前>¥OSIS_MSSQLSRV」です。

本ソフトウェアを実行するPCにSQLサーバーがすでにインストールされている場合は、データベースサーバーの名前に「(local)」が追加されます。

Oracleを使用したい場合は、[データベースサーバー]フィールドの上にあるテキスト内で [Microsoft SQL Server] という文字列をクリックします。[オプション]ダイアログボックスで、[データベースシステム]リストから [Oracle] を選択します。

ユーザー認証

データベースを作成するときには、データベースの作成を許可されていることを証明する必要があります。その操作は、[ユーザー認証]グループで行います。

本ソフトウェアが実行されているPCに自分のユーザー名でログオンしている場合は、[種類]リストで [シングルサインオン] を選択します。MS Windowsオペレーティングシステムに対する現在のログオンデータが、データベースサーバーへのログオンにも使用されます。このユーザー認証では、パスワードとユーザー名の入力はありません。

[シングルサインオン]認証を行うには、MS Windowsオペレーティングシステム上で自分のユーザープロファイルが設定されている必要があります。また、データベース管理システムにこのユーザープロファイルで登録されていなければなりません。

Windows ログイン

データベースへのログオンに、MS Windowsオペレーティングシステムへのログオンに使用するログオンデータを使用する場合は、[種類]リストで [Windows ログイン] を選択します。[シングルサインオン]認証と異なり、ユーザー名、パスワード、ドメインを明示的に入力する必要があります。

この認証では、自分のユーザー名でログオンしていない PC からデータベースを作成することができます。

[[Windows ログイン](#)] 認証を行うには、MS Windows オペレーティングシステム上で自分のユーザープロファイルが設定されている必要があります。また、データベース管理システムにこのユーザープロファイルで登録されていなければなりません。

SQL 認証

データベース固有のログオンデータを使用する場合は、[[種類](#)] リストで [[SQL 認証](#)] を選択します。この場合は、データベース内の情報を変更するたびにユーザー名とパスワードを入力する必要があります。ユーザー名とパスワードは、データベース管理システム (SQL サーバーなど) 内でデータベース管理者によって割り当てられます。

[[SQL 認証](#)] を行うには、データベース管理システムで自分のユーザープロファイルが設定されている必要があります。この場合、ログオンデータは MS Windows のログオンデータにはまったく依存しません。

注: この種類の認証は、後日データベースをインターネットに公開する予定がある場合に必要となります。

(2) データベース名を入力する

データベース名を指定する

[[データベース名](#)] フィールドに、新しいデータベースの名前を入力します。名前に使用できる文字は最大 20 文字で、スペースや特殊文字は使用できません。

デフォルトデータベースを指定する

新規のデータベースをデフォルトデータベースにする場合は、[[デフォルトデータベースとして使用する](#)] チェックボックスをオンにします。このオプションは、同じデータベースを主に使用する場合に選択します。

後から、[[ツール](#)] > [[オプション](#)] > [[データベース](#)] > [[デフォルトデータベース](#)] コマンドを実行して、本ソフトウェアが起動するときにデフォルトデータベースが自動的に開かれるようにすることもできます。

ドキュメントの保管場所のパスを指定する

新規のデータベースを作成する場合、データベースファイルと画像 (およびその他のドキュメント) を保存する場所を指定します。データベース構成や個々のデータベースフィールドの値など、実際のデータベースファイルは常にデータ

ベースサーバーに置かれます。データベースに挿入される画像およびドキュメントは、データベースファイルよりもはるかに多くのディスク容量を使用します。このため、画像とドキュメントには、専用の保存場所を設定します。

ドキュメントを保存するフォルダを指定します。それには、[...] ボタンをクリックし、必要なフォルダを参照します。

データベースのドキュメントを保存する場所を決める前に、以下の情報に注意してください。たとえば、自分の PC のローカルフォルダを選択すると、データベースの他のユーザーがそのドキュメントにアクセスできなくなります。したがって、データベースのユーザーが自分 1 人の場合にのみ、このような選択を行います。それ以外の場合には、データベースの他のユーザーがアクセスできる (他のユーザーがアクセス権限を持つ場合) フォルダを選択します。

注: データベースのドキュメントの保存場所としてどこを選択するにしても、データバックアップの問題は非常に重要です。データベースとデータベースに登録されているすべてのドキュメントを定期的に保存するには、データの自動バックアップ処理 (たとえば、毎日夜間に行われる) に、データベースサーバーと、ドキュメントが保存されているサーバーの両方が含まれることを確認してください。

データベースの説明を入力する

新規のデータベースについて説明するテキストを入力します (オプション)。このテキストは、後で、[\[データベースを開く\]](#) ダイアログボックスに表示されます ([\[データベース接続ファイルを使用する\]](#) 接続モードを使用する場合)。説明のテキストは、ユーザーがデータベースの作成者ではない場合などに、データベースを見分けるのに役立ちます。

(3) データベーステンプレートを選択する

新規のデータベースを作成する場合、テンプレートに基づいて作成することも、データベース構成を最初から設定することもできます。データベーステンプレートには、設定済みのデータベース構成が含まれています。データベースに組み込めるドキュメントが含まれていることもあります。

適切なデータベーステンプレートがある場合には、テンプレートを使用するのが便利です。そうすると、データベース構成を新たに設定する必要はなくなります。テンプレートのファイル拡張子は DBE です。このファイル拡張子は、データベースエクスポートファイルを意味します。

注: 本ソフトウェアには、データベーステンプレートがいくつか用意されています。本ソフトウェアのインストール時に、テンプレートは以下のフォルダにイ

インストールされます。

..[¥<アプリケーションデータ保存用フォルダ>¥Olympus¥OSIS¥<ソフトウェア名>¥Database¥DBE](#)

アプリケーションデータ保存用フォルダの名前は、オペレーティングシステムによって異なります。たとえば MS Windows 10 オペレーティングシステムの英語版では、フォルダの名前は ..[¥ProgramData](#) です。

データベーステンプレートを使用する

使用するテンプレートを選択します。それには、[\[テンプレートファイルのパス\]](#) フィールドの右側にある 3 つの点のボタン [...] ボタンをクリックして、使用するフォルダを参照します。

データベーステンプレートのファイル拡張子は DBE です。

データベーステンプレートのデータベース構成をそのまま適用し、ドキュメントを何も含めない場合は、[\[空のデータベースの作成\]](#) を選択します。

データベース構成には、レコードタイプとデータベースの階層の設定が含まれます。

データベース構成の詳細についてはこちらを参照してください。

新規のデータベースに、データベース構成だけでなくドキュメントも適用する場合は、[\[レコードとドキュメントもインポートする \(ある場合\)\]](#) を選択します。

検索テンプレートがデータベーステンプレートに設定されている場合、このオプションを選択すると、それらの検索テンプレートも一緒にインポートされます。

本ソフトウェアに標準で付属しているテンプレートを使用して作成したデータベースには、[Images](#) という名前の検索テンプレートがあります。この検索テンプレートには、画像の検索に適したデータベースフィールドが含まれています。

データベーステンプレートを使用しない

データベース構成を設定せずにデータベースを作成する場合、または DBE ファイルがない場合は、[\[テンプレートファイルのパス\]](#) フィールドを指定しません。この場合、新規のデータベースを初めて開いたとき、ドキュメントを挿入する前に、データベース構成を設定する必要があります。この手法は、経験豊かなユーザーに特に適しています。

注: データベースビューは定義済みのデータベース構成と密接な関係があるため、定義済みのデータベース構成を維持するようにしてください。そのように

すれば、[\[データベース\]](#) ツールウィンドウだけでデータベースを操作できます。

(4) 統合されたレコードとデータベースを作成する

[\[新規のデータベース\]](#) ウィザードの最後のダイアログボックスでは、選択したすべての設定が概要として再度表示されます。新規のデータベースの設定を確認します。

設定を修正する場合は、下線の引かれた用語をクリックします。たとえば、入力した名前を変更する場合は、[\[データベース名\]](#) をクリックします。

変更する設定をクリックすると、[\[新規のデータベース\]](#) ウィザードの該当する設定ダイアログボックスに移動します。

データベースを作成する

[\[完了\]](#) ボタンをクリックすると、データベースが作成されます。

5623 27062017

4.3. データベース構成を設定する

アクティブなデータベースの構成を指定するには、[\[データベース\]](#) > [\[管理\]](#) > [\[データベース構成の設定...\]](#) コマンドを実行します。

注: データベースの構成を変更するには、データベースを排他的に開く必要があります。

データベース構成とは？

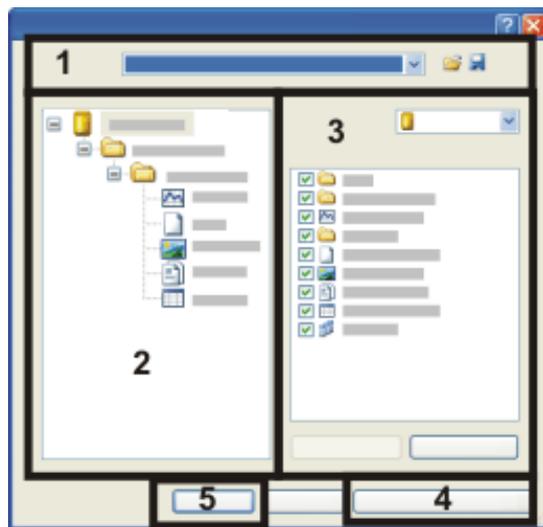
データベースには、さまざまな種類のデータを挿入することができます。挿入できるレコードタイプの例として、[\[フォルダ\]](#) や [\[画像\]](#) があります。データベース構成を設定する際には、個々のレコードタイプの下に挿入するデータを指定します。このように指定することで、たとえば、[\[フォルダ\]](#) レコードタイプの下の階層にのみデータを挿入できる、階層型のデータベース構成を設定することができます。

注: データベース構成は、データベースの作成時に設定しますが、その時点では、データベースにはドキュメントはまだ含まれていません。例外的な場合を除き、既存のデータベースの構成は変更しないようにしてください。

初期設定のデータベース構成

本ソフトウェア付属のデータベーステンプレートを基にしているデータベースの場合には、データベースを作成した時点で、データベース構成が既に設定されています。データベースビューは初期設定のデータベース構成と密接な関係があるため、初期設定のデータベース構成を維持するようにしてください。そのようにすれば、**[データベース]**ツールウィンドウだけでデータベースを操作できます。

ダイアログボックスの説明



- (1) データベーステンプレートの読み込みと保存
- (2) 現在のデータベース構成の表示
- (3) データベース構成の変更
- (4) レコードタイプの設定
- (5) 現在のデータベースへのデータベース構成の適用

(1) データベーステンプレートの読み込みと保存

[データベース構成の設定]ダイアログボックスには、常に、現在のデータベースのデータベース構成が表示されます。したがって、このダイアログボックスを開いたときに**[名前]**フィールドに表示される名前は、現在のデータベースの名前です。

テンプレートからデータベース構成を読み込む

比較のために、既存のデータベースのデータベース構成を読み込むことができます。それには、このボタンをクリックして**[データベーステンプレートファイルの選択]**ダイアログボックスを表示します。データベーステンプレートのファイル拡張子は DBE です。

ダイアログボックスに、比較のために読み込んだデータベース構成が表示されます。**[名前]**リストで現在のデータベースを選択して、そのデータベースの構成を再度ダイアログボックスに表示します。

注:

読み込んだデータベーステンプレートには、データベースに設定されていないレコードタイプが含まれていることがあります。そのようなデータベーステンプレートを使用する場合は、**[レコードタイプの設定...]**ボタンをクリックして、データベースにレコードタイプを設定します。

2つのデータベース構成が大きく異なる場合は、新しいデータベースを作成する際に、データベーステンプレートを選択することをお勧めします。

データベース構成をテンプレートとして保存する

このボタンを使用して、新しいデータベーステンプレートを作成することができます。データベース構成を他のデータベースのテンプレートとして使用する場合は、この機能を使用します。

データベーステンプレートには、さまざまな情報を含めることができます。**[データベース構成の設定]**ダイアログボックスからデータベーステンプレートを保存した時点では、データベーステンプレートに含まれるのはデータベース構成の情報のみです。現在のデータベースの情報を新しいデータベーステンプレートにさらに追加したい場合は、**[データベース] > [インポート/エクスポート] > [データベースのエクスポート...]**コマンドを実行します。

(2) 現在のデータベース構成の表示

データベースの現在の構成は、左側の**[データベース構成]**グループに表示されます。ツリー構造で、階層でのレコードタイプの並び方を確認できます。この表示は、データベース構成の構成要素を変更すると、直ちに自動更新されます。

本ソフトウェア付属のデータベーステンプレートの構成

例: 本ソフトウェアに付属のデータベーステンプレートについて、以下で詳しく説明します。



初期設定のデータベース構成を適用すると、**[プロジェクト]**レコードタイプのレコードのみがデータベースの最上位に表示されます (1)。これらのレコードは、1つのプロジェクトに属するすべてのデータを含むデータベースフォルダです。別のレコードタイプがプロジェクトで定義されているため、プロジェクトには、プロジェクト全体に関わる情報のみを含むプロジェクト固有のデータベースフィールドがあります。データベース内のすべてのプロジェクトが、**[データベース]**ツールウィンドウのデータベースビューの1つに表示されます。このプロジェクトビューでプロジェクトを追加または編集することもできます。

プロジェクトの下には、**[標本]**タイプのレコードしか挿入できません (2)。これらのレコードはデータベースフォルダでもありますが、プロジェクト用に設定された他のデータベースフィールドも含んでいます。標本を表示するためのデータベースビューもあります。

ドキュメントは標本フォルダに追加されます (3)。ここで、ドキュメントとは、画像、グラフ、ワークブック、レポートなどのドキュメントを意味しています。

レコードは、ドキュメントの下のデータベースに挿入することはできません。したがって、データベースは全部で3つの階層レベルで構成されています。

(3) データベース構成の変更

[レコードタイプ]リストに、現在のデータベースに設定されているすべてのレコードタイプが表示されます。ここに **[データベース]**の項目  も含まれています。

リストから **[データベース]**を選択するか、またはダイアログボックスの左側のデータベース構成のプレビューでデータベースを選択します。この **[データベース]**は、各データベースの階層の最上位レベルを表します。**[子レコードとして設定]**リストで、最上位の階層レベルに直接挿入できるレコードタイプを確認できます。挿入できるレコードタイプは、チェックボックスがオンにされています。

設定を確認し、必要に応じてチェックボックスをオンまたはオフにします。たとえば、構成されたレコードタイプ (フォルダアイコンで表示される) のみが階層の最上位に挿入できるように指定することができます。

次に、**[レコードタイプ]**リストから順番にレコードタイプを選択し、それぞれのレコードタイプの下に挿入できるレコードを指定します。たとえば、画像の下にワークブックやグラフを挿入できるように指定することができます。これ

により、たとえば、計測結果が画像の下に保管されるようにすることができます。

注: 本ソフトウェアに付属のデータベーステンプレートに基づくデータベースの場合、最大で3つの階層レベルになります。

(4) レコードタイプの設定

新しい構成レコードタイプを設定するには、**[レコードタイプの設定]** ボタンをクリックします。

(5) 現在のデータベースへのデータベース構成の適用

[OK] ボタンをクリックすると、設定したデータベース構成が現在のデータベースに適用されます。

以下の点に注意してください。

- 作成したデータベース構成は、次回にデータベースを開くまで有効になりません。
[データベース] > **[閉じる]** コマンドを実行します。データベースウィンドウを閉じただけでは、データベースを閉じたことにはなりません。次回にデータベースを開いたときに、この新しいデータベース構成が有効になります。
- データベース内の既存のデータは、新しいデータベース構成によって変更されることはありません。
たとえば、これまで、データベースで画像の下に画像を挿入していたとします。新しいデータベース構成では、画像の下にデータを挿入することを禁止することができます。これにより、画像の下に画像を挿入できなくなります。

5643 12072011

4.4. レコードタイプ

4.4.1. レコードタイプとは？

データベースには、さまざまな種類のデータを挿入することができます。画像やグラフなど、本ソフトウェアで作成可能なすべての種類のドキュメントをデータベースに挿入または読み込むことができます。さらに、ドキュメントからは参照されない構成レコードを挿入することもできます。また、データメディアに保存済みの他のファイルも挿入できます。

これらの各種データは、それぞれレコードタイプが異なります。たとえば、MS

Word ドキュメントのレコードタイプは **[ファイル]** であり、画像のレコードタイプは **[画像]** です。

レコードタイプのプロパティ

多数のデータベースフィールドは、特定のレコードタイプにのみ関連付けられています。このため、データベースフィールドはフィールドテーブルにまとめられます。すべてのレコードタイプは、さまざまなフィールドテーブルに割り当てることができます。

例：画像のみに関連付けられているデータベースフィールドも数多くあります。たとえば、画像の取り込みに使用したカメラ設定などです。計測結果を含むテーブルは、レコードタイプ **[ワークブック]** に属しています。計測結果については、カメラ設定は一切使用できません。したがって、カメラ設定を含むデータベースフィールドはすべて、「カメラフィールド」フィールドテーブルにまとめられます。このフィールドテーブルは、関連するレコードタイプ、すなわち、**[画像]** レコードタイプにのみ割り当てられます。

定義済みのレコードタイプ

[画像]、**[ワークブック]** などのレコードタイプはあらかじめ設定されています。これらのレコードタイプは特定のドキュメントの種類を表します。本ソフトウェアは、ドキュメントが挿入されたときにそのドキュメントのレコードタイプを自動的に認識します。したがって、挿入ダイアログボックスには、そのドキュメントの種類のために事前に定義しておいたデータベースフィールドのみが表示されます。

データベース内で、ドキュメントから参照される新しいレコードタイプを設定することはできません。

構成レコードタイプを設定する

データベース内でフォルダアイコンとして表示されるレコードタイプがあります。この種類のレコードタイプはドキュメントからは参照されませんが、データベースフィールドに入力される情報のみが含まれています。データベースでは、この種類のレコードタイプを自分で設定できます。

自分で設定したレコードタイプを使用して、データベースを構成します。

1. データベース内のデータが実験に割り当てられるようにするには、「実験」レコードタイプを作成します。
2. その実験を説明するようなデータベースフィールドをフィールドテーブルに設定し、このフィールドテーブルを「実験」レコードタイプに割り当てます。

3. データベース構成を確認します。実験の下に配置できるレコードタイプを指定します。
4. このレコードの下に、この実験に含めるすべての画像とレポートを挿入します。

データベースを整理する方法に応じて、「研究所」というレコードを作成することもできます。また、複数の構成レコードタイプを設定することもできます。

4.4.2. レコードタイプを使用する

データベース構成

データベース構成を設定するときには、レコードタイプを使用します。さまざまなレコードタイプを、どのような階層構成で配置するかを指定します。このようにして、「フォルダ」レコードタイプの下にのみドキュメントを挿入できるように指定することもできます。

レコード名

レコード名は、レコードタイプごとに異なります。

データベースに挿入されるすべてのレコードにはレコード名があります。レコード名は必須フィールドであり、レコードを挿入するときに必ず入力する必要があります。レコードタイプによっては、別のレコード名を付けるように勧められることもあります。

たとえば、画像を挿入する場合、画像名はデフォルトで表示されます。

データベースのビュー

データベースフィールドに含まれる情報の中には、特定のレコードタイプにしか関係しないものもあります。たとえば、画像に関する場合のみに意味を持つ [X 解像度] のように、特定のレコードタイプにしか関係しないデータベースフィールドは数多くあります。このため、レコードタイプごとに個別にデータベースのビューを設定することで、よけいな情報を排除できます。

データベース検索

検索対象を特定のレコードタイプに絞ることができます。[検索設定] ダイアログボックスの [検索対象] グループには、現在のデータベースに設定されたすべてのレコードタイプが表示されます。このダイアログボックスで、データベースの検索対象とするレコードタイプの前にあるチェックボックスをすべてオンにします。

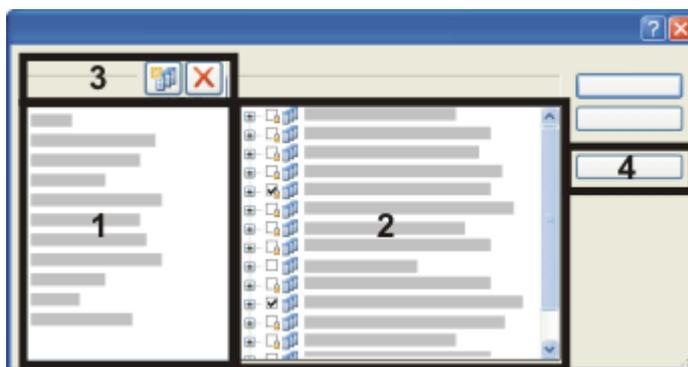
4.4.3. レコードタイプの設定

アクティブなデータベースのレコードタイプを指定するには、**[データベース]** > **[管理]** > **[レコードタイプの設定...]** コマンドを実行します。

前提条件: このコマンドを実行できるのは、データベース管理者のみです。

注: データベースの構成を変更するには、データベースを排他的に開く必要があります。

ダイアログボックスの説明



- (1) レコードタイプ
- (2) フィールドテーブル
- (3) レコードタイプの作成と削除
- (4) フィールドの設定

(1) レコードタイプ

[レコードタイプ] グループに、現在のデータベースに設定されているすべてのレコードタイプが表示されます。

定義済みのレコードタイプ

一部のレコードタイプは定義済みです。たとえば、本ソフトウェアでサポートされているドキュメントの種類には、それぞれ固有のレコードタイプがあります。定義済みのレコードタイプは、名前の変更はできますが、削除することはできません。

レコードタイプ	説明	定義済みのデータベースフィールドの選択
ワークブック	ワークブックは、1つ以上のワークシートを含んだドキュメントです。通常は計測結果のドキュメントで	シート数 ワークブック名

	す。	
レポート	レポートは、結果を標準形式で文書化するために使用します。レポートはMS Word ドキュメントです。レポートは本ソフトウェアで作成できません。	レポート名 ページ数
画像	<p>本ソフトウェアでは、さまざまな形式の画像を取り込むことができます。個々の画像、Z シリーズ画像、マルチレイヤ画像などの各種画像は、すべて [画像] レコードタイプに属します。</p> <p>また、本ソフトウェアに読み込むことができる VSI、TIF、JPG などの画像ファイル形式もすべて [画像] レコードタイプに属します。</p>	<p>[画像フィールド] フィールドテーブル: このフィールドテーブルには、画像名やレイヤ数などが含まれます。</p> <p>[レイヤフィールド] フィールドテーブル: このフィールドテーブルには、ビット深度、解像度、チャンネル数など、さまざまな画像プロパティが含まれます。これらのプロパティはすべて 1 つの画像レベルに適用されます。</p> <p>[カメラフィールド] フィールドテーブル: このフィールドテーブルには、画像の取り込み時のカメラの設定が含まれます。カメラフィールドにフィールド値が自動入力されるのは、本ソフトウェアで取り込んだ画像についての場合のみです。</p> <p>[顕微鏡フィールド] フィールドテーブル: このフィールドテーブルには、画像の取り込み時の顕微鏡の設定が含まれます。</p>
ファイル	本ソフトウェアでサポートされていないドキュメントの種類 (拡張子が DOC の MS Word ドキュメントのファイルなど) もデータベースに挿入できます。これらのドキュメントはすべて自動的に [ファイル] レコードタイプとして扱われます。	<p>[ファイルフィールド] フィールドテーブル: このフィールドテーブルには、データベースによりファイルから自動的に読み取られる、オペレーティングシステムのファイル情報がすべて含まれます。たとえば、ファイルの作成時刻、ファイルの名前、ファイルの拡張子などです。</p> <p>このフィールドテーブルは、ドキュメントにリンクされている他のすべてのレコードに対しても利用可能です。</p>
グラフ	本ソフトウェアには、たとえば計測結果を視覚的に表示できる、独自のグラフドキュメントが用意されています。	グラフ名 グラフ種類の ID

標本	<p>本ソフトウェア付属のデータベーステンプレートを基にしているデータベースの場合には、[標本]という名前の構成レコードタイプが1つ含まれます。標本はデータベースフォルダであり、プロジェクトの下位に挿入できます。標本フォルダには、標本に関連するドキュメントが含まれます。</p>	<p>[レコードフィールド] フィールドテーブル: このフィールドテーブルには、標本とともに保存する必要のある各種の一般的な情報が含まれます。たとえば、データベースフィールドの[検査注文]や[標本ID]などです。</p>
プロジェクト	<p>本ソフトウェア付属のデータベーステンプレートを基にしているデータベースの場合には、[プロジェクト]という名前の構成レコードタイプが1つ含まれます。プロジェクトは、1つのプロジェクトに属するすべてのデータを含むデータベースフォルダです。</p>	<p>[プロジェクトフィールド] フィールドテーブル: このフィールドテーブルには、プロジェクトとともに保存する必要のある各種の一般的な情報が含まれます。たとえば、データベースフィールドの[コストセンター]や[期限]などです。</p>
<フォルダ>	<p>本ソフトウェア付属のデータベーステンプレートを基にしているデータベースの場合には、[フォルダ]という名前の構成レコードタイプが1つ含まれます。</p> <p>このレコードタイプは、本ソフトウェアに付属のデータベースのデータベース構成では使用されません。</p>	<p>フォルダ名</p>
全レコードタイプ		<p>[レコードフィールド] フィールドテーブル: このフィールドテーブルには、レコードの作成時刻、レコード名、レコードID番号など、全レコードタイプに関連する基本のデータベースフィールドがいくつか含まれます。</p> <p>このフィールドテーブルには、[備考]データ形式のコメントフィールドが常に含まれます。このフィールドを使用すると、かなり長いテキストでも入力できます。</p>

ユーザー設定のレコードタイプ

データベース内でフォルダアイコンとして表示されるレコードタイプがあります。この種類のレコードタイプはドキュメントを参照せず、データベース

フィールドに入力される情報のみが含まれています。データベースでは、この種類のレコードタイプは自分で設定できます。

(2) フィールドテーブル

[フィールドテーブル]グループには、現在のデータベースに設定されているすべてのデータベースフィールドが含まれます。このリスト内の各データベースフィールドがフィールドテーブルに割り当てられます。このようにして、複数のデータベースフィールドを同時にレコードタイプに割り当てることができます。

定義済みのフィールドテーブル

各データベースには、定義済みのフィールドテーブルが既に数多く含まれています。これらのフィールドテーブルは、小さな錠前のアイコン  で表示されます。

フィールドテーブル内のデータベースフィールドにアクセスする

フィールドテーブルの前にあるプラス記号 (+) をクリックすると、そのフィールドテーブルに含まれるデータベースフィールドが表示されます。

フィールドテーブルをレコードタイプに割り当てる

[レコードタイプ]リストでレコードタイプを選択します。次に、そのレコードタイプに割り当てるフィールドテーブルの前にあるチェックボックスをオンにします。

例: データベースに「実験 Type A」というレコードタイプを設定したとします。プロジェクトごとに、プロジェクトに関する情報を入力します。さらに、プロジェクト情報と一緒にクライアントに関する情報を保存したいとします。このような場合は、「実験 Type A フィールド」と「クライアント情報」の2つのフィールドテーブルを設定します。この両方のフィールドテーブルを「実験 Type A」レコードタイプに割り当てます。

さらに「実験 Type B」レコードタイプを作成するときには、同じクライアント情報を使用できます。

個々のレコードタイプには定義済みのフィールドテーブルが割り当てられています。この割り当ては初期設定されています。定義済みのフィールドテーブルを別のレコードタイプに割り当てることはできません。また、指定されているその割り当ても解除できません。

(3) レコードタイプの作成と削除

新しいレコードタイプを作成する

現在のデータベースに新しいレコードタイプを作成するには、[\[新規のレコードタイプ\]](#) ボタンをクリックします。ユーザー設定のレコードは、常に、データベース内でフォルダアイコンで示される構成レコードタイプです。この種類のレコードタイプはドキュメントを参照せず、データベースフィールドに入力される情報のみが含まれています。

新規レコードタイプのフィールドテーブル

新規のレコードを作成すると、そのレコードに属する新規のフィールドテーブルも自動的に作成されます。フィールドテーブルの名前は、新しく作成したレコードタイプの名前と同じになります（「フィールド」の文字が追加されます）。たとえば、「エクスペリメント」というレコードタイプを作成すると、「エクスペリメント フィールド」というフィールドテーブルも作成されます。このフィールドテーブルには、レコード名としても使用される「エクスペリメントの名前」データベースフィールドが既に含まれています。自動作成されたこのフィールドテーブルには、最初はデータベースフィールドが 1 つだけ含まれます。後から、フィールドテーブルと新しいレコードタイプに対する新しいデータベースフィールドを設定します。

「レコードフィールド」フィールドテーブルは、各レコードタイプに割り当てられます。「レコードフィールド」フィールドテーブルには、レコードタイプに関係なく、どのレコードにも有効な一般的なデータベースフィールドが含まれます。これらのレコードには、レコード名、作成時刻（データベースにレコードを挿入した時間）、およびコメントのフィールドなどが含まれます。

レコードタイプを削除する

既存のレコードタイプを削除するには、[\[レコードタイプの削除\]](#) ボタンをクリックします。レコードタイプを削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

注: レコードタイプを削除できるのは、そのレコードタイプに属するレコードがデータベースに存在しない場合です。

[\[画像\]](#) などの定義済みのレコードタイプは削除できません。定義済みのレコードタイプは、名前の変更はできますが、それ以外の変更はできません。

レコードタイプの名前を変更する

名前を変更するレコードタイプをリストから選択します。キーボードの [F2] キーを押します。レコードタイプの名前を上書きし、マウスの左ボタンをクリックします。

(4) フィールドの設定

[フィールド...] ボタンをクリックすると、[フィールドの設定] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、新しいデータベースフィールドとフィールドテーブルを設定できます。

4809

4.5. データベースフィールドとフィールドテーブル

4.5.1. 概要

データベースフィールド

データベースフィールドとは？

各レコードについて、情報がデータベースに保存されます。この情報の種類は、データベースフィールドで指定されています。

例: 画像を読み込んだユーザーの名前を画像と一緒に保存したい場合は、[スタッフメンバー] という名前のデータベースフィールドを設定します。この設定を行うと、データベースに画像を挿入する際に、このフィールドにスタッフメンバーの名前を入力できます。

この場合、データベースフィールドにどのような名前を付けるかは重要ではありません。[スタッフメンバー] の代わりに [ユーザー] とすることもできます。

定義済みのデータベースフィールド

レコードタイプに新規のデータベースフィールドを設定する前に、まず既存のデータベースフィールドを利用できないかどうかを確認します。たとえば、新規のレコードタイプのレコードをデータベースに挿入する際に、入力する情報がレコードの名前、作成日時、およびコメントのみの場合は、データベースフィールドを新しく設定する必要はありません。

フィールドテーブル

フィールドテーブルとは？

データベースフィールドに含まれる情報の中には、特定のレコードタイプにしか関係しないものもあります。たとえば、画像に関する場合のみに意味を持つ [X 解像度] のように、特定のレコードタイプにしか関係しないデータベースフィールドは数多くあります。このため、データベースフィールドはフィールドテーブルにまとめられます。つまり、フィールドテーブルとは、単にデータベースフィールドをグループ化したものです。

フィールドテーブルのプロパティ

- フィールドテーブルに含めるデータベースフィールドの数には制限はありません。
- 2つのデータベースフィールドに同じ名前を割り当てることはできません。すなわち、[コメント] データベースフィールドは、複数のフィールドテーブルに設定することができず、特定の1つのフィールドテーブルに割り当てる必要があります。
- 各データベースフィールドをフィールドテーブルに割り当てます。
- 自分で設定したフィールドテーブルは、複数のレコードタイプで使用することができます。

定義済みのフィールドテーブル

各データベースには、定義済みのフィールドテーブルが既に数多く含まれています。定義済みのフィールドテーブルは、[\[フィールドの設定\]](#) ダイアログボックスで確認できます。

定義済みのフィールドテーブルは削除できません。ただし、定義済みのフィールドテーブルに、自分で作成したデータベースフィールドを追加することはできます。それには、[\[データベース\]](#) > [\[管理者\]](#) > [\[フィールドの設定\]](#) ダイアログボックスを使用します。

フィールドテーブルを設定する

新規のレコードを作成すると、そのレコードに含まれる新規のフィールドテーブルも自動的に作成されます。フィールドテーブルの名前は、新しく作成したレコードタイプの名前と同じになります（「フィールド」の文字が追加されます）。たとえば、「実験」というレコードタイプを作成すると、「実験フィールド」というフィールドテーブルも作成されます。このフィールドテーブルには、レコード名としても使用される「実験の名前」データベースフィールドが既に含まれています。

フィールドテーブルを追加する場合は、[\[データベース\]](#) > [\[管理\]](#) > [\[フィールドの設定\]](#) ダイアログボックスを使用します。このダイアログボックスで、新規のフィールドテーブルにデータベースフィールドを追加することもできます。

00322

4.5.2. データベースフィールドを設定する

データベースユーザーがデータベースにレコードを設定する際に、入力可能な、または入力が必要であるデータベースフィールドを設定できます。

例: 画像の挿入時に研究所の名前も入力できるようにしたいとします。

1. [\[データベース\]](#) > [\[管理\]](#) > [\[フィールドの設定...\]](#) コマンドを実行します。
 - データベースフィールドを設定すると、データベース構成も変更されます。データベースフィールドを設定する際には、データベースが排他モードで開かれている必要があります。
データベースが排他モードで開かれていない場合は、排他モードを有効にできるメッセージボックスが表示されます。
 - [\[フィールドの設定\]](#) ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスには、データベースで既に設定されているすべてのデータベースフィールドが表示されます。データベース内の各データベースフィールドは、「フィールドテーブル」と呼ばれるデータベースフィールドグループに割り当てられています。
2. [\[フィールドの設定\]](#) ダイアログボックスの [\[フィールドテーブル\]](#) リストから [\[画像フィールド\]](#) を選択します。
 - [\[フィールド\]](#) リストに、[\[画像フィールド\]](#) フィールドテーブルに割り当てられているすべてのデータベースフィールドが表示されます。このフィールドテーブルには、特に画像に関連するデータベースフィールドが含まれています。
3.  [\[新規のフィールド\]](#) ボタンをクリックします。
4. [\[名前\]](#) フィールドには、新しいデータベースフィールドに付ける名前を入力します。
各画像に研究所の名前を付けて保存する場合は、たとえば「研究所番号」などと入力します。
5. [\[データ形式\]](#) リストで、新しいデータベースフィールドの形式として [\[テキスト\]](#) を選択します。
6. データベースフィールドへの入力を許可する最大文字数を [\[サイズ\]](#) フィールドに指定します。
たとえば、研究所の名前の入力を最大 10 文字に制限する場合は、「10」と

指定します。

7. **[デフォルト値]**グループで、新しいレコードを挿入するときのフィールドの動作を指定します。
たとえば、最初のオプションを選択し、フィールドを空の状態にしておくと、デフォルト値は設定されません。このようにすると、レコードを挿入するたびにデータベースフィールドが空で表示されるため、入力が必要になります。
8. **[入力必須]**チェックボックスをオフにします。
このように設定しても、レコードの挿入時にフィールドを空のままにすることができます。
9. **[編集可能]**チェックボックスをオンにします。この設定をしない場合は、ピックリストを設定する必要があります。
10. **[OK]** ボタンをクリックして設定を適用し、**[フィールドの設定]** ダイアログボックスに戻ります。
 - 作成したデータベースフィールドが **[フィールド]** リストに表示されます。
 - 新しいデータベースフィールドは自動的に挿入ダイアログボックスにも表示されます。
11. **[OK]** をクリックして **[フィールドの設定]** ダイアログボックスを閉じます。
 - 変更したデータベースビューをすべてのデータベースユーザーが使用できるようにするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。
12. すべてのデータベースユーザーの挿入ダイアログボックスに新しいデータベースフィールドを表示されるようにする場合は、**[はい]** を選択してメッセージを確定します。
13. データベースに画像を挿入します。
 - 新しいデータベースフィールドが挿入ダイアログボックスに表示されます。

00323 16062011

4.5.3. 依存したピックリストを設定する

依存したピックリストを設定することができます。「標準」のピックリストとは対照的に、依存したピックリストでは、ピックリストにすべての項目が表示される訳ではなく、一部の項目のみが表示されます。どの項目が表示されるかは、別のピックリストであるメインのピックリストで現在選択されている値によって決まります。

依存したピックリストの設定には、以下の手順が含まれます。

メインのピックリストを含む新規のデータベースフィールドを作成する



依存したピックリストを含む新規のデータベースフィールドを作成する



データベースのビューを調整する

新規のデータベースフィールドが必須フィールドとして設定されている場合には、この手順は必要ありません。

例:カーアクセサリーの会社の品質管理部門で働いているとします。データベースに追加されるすべての画像に対して、[製造元]と[車種]の追加フィールドも記入します。[車種]ピックリストはあまり長くないので、このピックリストに表示する項目は、メインのピックリストで選択されている製造元によって決定します。その結果、ユーザーが画像をデータベースに追加する時に、製造元として「Audi」を選択した場合、[車種]ピックリストには、Audiの車種のみが含まれるようになります。ユーザーが、製造元として「Mercedes」を選択した場合、[車種]ピックリストには、Mercedesの車種のみが含まれるようになります。

前提条件:ユーザーは[データベース管理者](#)であり、依存したピックリストを設定するデータベースを開いています。

手順 1:メインのピックリストを含む新規のデータベースフィールドを作成する

1. [\[データベース\]](#) > [\[管理\]](#) > [\[フィールドの設定...\]](#) コマンドを実行します。
2. [\[フィールドの設定\]](#) ダイアログボックスの [\[フィールドテーブル\]](#) リストから必要なフィールドテーブルを選択します。上記の例では、[\[画像フィールド\]](#) フィールドテーブルを選択します。
3.  [\[新規のフィールド\]](#) ボタンをクリックします。
 - [\[新規のフィールド\]](#) ダイアログボックスが表示されます。
4. [\[名前\]](#) フィールドには、新しいデータベースフィールドに付ける名前を入力します。上記の例では、「製造元」を入力します。
5. [\[データ形式\]](#) リストで、新しいデータベースフィールドの形式として [\[テキスト\]](#) を選択します。

6. データベースフィールドへの入力を許可する最大文字数を **[サイズ]** フィールドに指定します。
7. **[オプション]** グループの **[入力必須]** チェックボックスをオンにして、フィールドを必須フィールドに設定します。
 - このデータベースフィールドは、レコードの挿入または編集時に、ダイアログボックスでは太字で表示されます。
8. **[編集可能]** および **[ピックリストを有効にする]** チェックボックスをオンにします。
 - **[ピックリスト]** グループがアクティブになります。**[オプション]** フィールドの下はこのグループの右側で、ピックリストの動作に影響するさまざまな設定をすることができます。上記の例では、これらのチェックボックスはオフのままです。
9. **[編集...]** ボタンをクリックします。
 - **[ピックリスト]** ダイアログボックスが表示されます。
10. 製造元「Audi」を **[値]** フィールドに入力し、**[追加]** ボタンをクリックします。
11. 製造元「Mercedes」を **[値]** フィールドに入力し、**[追加]** ボタンをクリックします。
12. **[OK]** をクリックして **[ピックリスト]** ダイアログボックスを閉じます。
13. **[OK]** をクリックして **[新規のフィールド]** ダイアログボックスを閉じます。
 - これで、メインのピックリストを含む新規のデータベースフィールドが設定されます。**[フィールドの設定...]** ダイアログボックスが再度表示されます。次の手順に進みます。

手順 2: 依存したピックリストを含む新規のデータベースフィールドを作成する

1. 必要なフィールドテーブルが選択されていない場合には、**[フィールドの設定]** ダイアログボックスの **[フィールドテーブル]** リストから必要なフィールドテーブルを選択します。上記の例では、**[画像フィールド]** フィールドテーブルを選択します。
-  2. **[新規のフィールド]** ボタンをクリックします。
 - **[新規のフィールド]** ダイアログボックスが表示されます。
3. **[名前]** フィールドには、新しいデータベースフィールドに付ける名前を入力します。上記の例では、「車種」を入力します。

4. **[データ形式]** リストで、新しいデータベースフィールドの形式として **[テキスト]** を選択します。
5. データベースフィールドへの入力を許可する最大文字数を **[サイズ]** フィールドに指定します。
6. **[オプション]** グループの **[入力必須]** チェックボックスをオンにして、フィールドを必須フィールドに設定します。
7. **[編集可能]** および **[ピックリストを有効にする]** チェックボックスをオンにします。
 - **[ピックリスト]** グループがアクティブになります。 **[オプション]** フィールドの下のこのグループの右側で、ピックリストの動作に影響するさまざまな設定をすることができます。
8. **[他のフィールド値による]** チェックボックスをオンにして、依存したピックリストを作成します。上記の例では、 **[オプション]** フィールドの下のそれ以外のチェックボックスはオフのままにします。
9. **[編集...]** ボタンをクリックします。
 - **[依存したピックリスト]** ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、依存したピックリストに対する必要な設定をすることができます。
10. **[他のフィールドによる]** グループで、 **[フィールド名]** フィールドからメインのピックリストを含むデータベースフィールドを選択します。上記の例では、「製造元」フィールドを入力します。
 - **[<メインのデータベースフィールドの名前> の値]** フィールドに、メインのピックリストで設定されているすべての項目が表示されます。上記の例では、これらは「Audi」と「Mercedes」の項目です。
 - これらの項目の横に、これらの項目がまだ依存したピックリストの項目に割り当てられていないことを示す黄色の警告サイン  が付いています。
11. **[<依存したデータベースフィールドの名前> のピックリスト設定]** グループで、依存したピックリストに含めるすべての項目を **[値]** フィールドに入力します。上記の例では、たとえば、すべての車種「A1」、「A3」、「A5」、「A-class」および「S-class」を入力します。各項目の後の **[追加]** ボタンをクリックします。
 - **[!...'のピックリスト項目]** リストに新しい項目が表示されます。この時点でもまだ編集したり再整列したりすることができます。それには、このフィールドの右側のボタンを使用します。

12. これから、依存したピックリストのすべての項目をメインのピックリストの項目に割り当てます。

上記の例では、どの車種がどの製造元に属するかを指定します。それには、**[製造元の値]**テーブルから製造元「Audi」を選択し、そして、**[...'のピックリスト項目]**リストで車種「A1」、「A3」および「A5」を選択します。次に、製造元「Mercedes」を選択し、**[...'のピックリスト項目]**リストから車種「A-class」および「S-class」を選択します。

 - **[<メインのデータベースフィールドの名前>の値]**フィールドの黄色の警告サイン  は青いチェック  で置き換えられます。このチェックは、メインのピックリストの項目が依存したピックリストの項目に割り当てられていることを表します。
13. **[OK]**をクリックして **[依存したピックリスト]** ダイアログボックスを閉じます。
14. **[OK]**をクリックして **[新規のフィールド]** ダイアログボックスを閉じます。
15. **[OK]**をクリックして **[フィールドの設定]** ダイアログボックスを閉じます。
 - 変更したデータベースビューをすべてのデータベースユーザーが使用できるようにするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。
16. 最初は自分だけにこの変更が適用されるように、**[いいえ]**をクリックします。後の時点で、変更されたビューをすべてのデータベースユーザーに受け渡すことができます。それには、**[ビューのカスタマイズ]** ダイアログボックスの **[設定の割り当て...]** コマンドを使用します。
 - これで、依存したピックリストが設定されました。
 - 2つのデータベースフィールドを必須フィールドとして設定した場合には、上述のとおり、それらは挿入ダイアログに自動的に表示されます。
17. テストとして、データベースに画像を挿入して、ピックリストの項目が、実際にメインのピックリストで現在選択されている値に対応しているかどうかを確認します。
 - 新規のデータベースフィールドが挿入ダイアログの一番下に表示されます。上記の例では、これらは **[製造元]** と **[車種]** フィールドです。**[製造元]** フィールドで「Audi」および「Mercedes」を順次選択し、現在選択した製造元に対して設定した車種のみが、**[車種]** フィールドのピックリストに表示されるかどうかを確認します。

手順 3:データベースのビューを調整する

注:2つのデータベースフィールドを必須フィールドとして設定しなかった場合には、挿入ダイアログのデータベースビューを調整する必要があります。この手順は、新規のデータベースフィールドを挿入ダイアログの別の位置に表示する場合にも必要です。そのような場合は、以下の手順に従って操作します。

1. **[データベース] > [ビュー] > [ビューのカスタマイズ...]** コマンドを実行します。
 - **[ビューのカスタマイズ]** ダイアログボックスが表示されます。
2. **[ビューとレコードタイプの選択]** グループで、調整するデータベースビューを選択します。上記の例では、**[挿入ダイアログ]** ビューを選択します。初期設定で **[画像]** レコードタイプが設定されています。
3. **[挿入ダイアログ]** ビューに表示されているデータベースフィールドが必須フィールドとして設定されていない場合には、それらは、**[選択されたフィールド]** リストにはまだ表示されません。**[利用可能なフィールド]** リストでそれらを選択し、**[追加 >>]** ボタンをクリックします。
 - 選択したデータベースフィールドが、**[選択されたフィールド]** リストの一番下に追加されます。
4. 必要に応じて、新規のデータベースフィールドを別の位置に移動します。それには、**[選択されたフィールド]** リストでデータベースフィールドを選択し、矢印ボタンをクリックします。

注:データベースフィールドの位置を変更する場合、新規のデータベースフィールドが正しい順序で表示されることを確認してください。依存したピックリストを含むデータベースの**前**にメインのピックリストを含むデータベースフィールドを記入する必要があります。上記の例では、**[製造元]** フィールドは、**[車種]** フィールドの前に来る必要があります。

- データベースフィールドを新しいグループに移動することもできます。この新しいグループは、その後、挿入ダイアログの別のタブとして表示されます。
5. **[OK]** をクリックして **[ビューのカスタマイズ]** ダイアログボックスを閉じます。
 6. テストとして、データベースに画像を挿入し、挿入ダイアログのビューを確認します。
 - 必要なフィールドが、挿入ダイアログの設定した位置に表示されています。

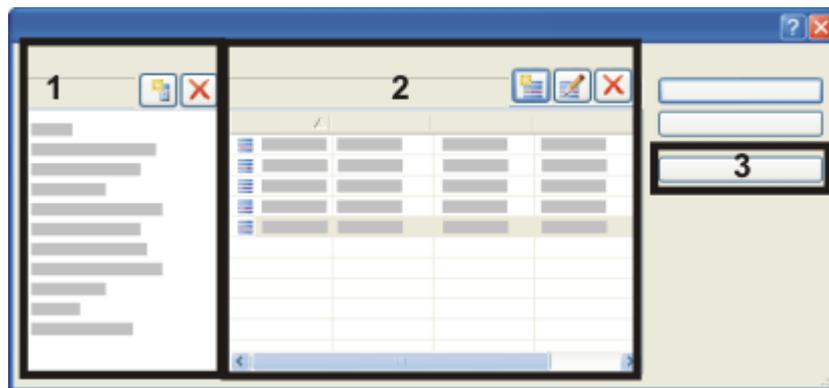
00820 05022014

4.5.4. フィールドの設定

アクティブなデータベースにデータベースフィールドを追加したり、既存のデータベースフィールドを変更する場合には、[\[データベース\]](#) > [\[管理\]](#) > [\[フィールドの設定...\]](#) コマンドを実行します。

注: データベースの構成を変更するには、データベースを排他的に開く必要があります。排他モードの詳細については[こちら](#)を参照してください。

ダイアログボックスの説明



- (1) フィールドテーブル
- (2) データベースフィールド
- (3) レコード名

(1) フィールドテーブル

[\[フィールドテーブル\]](#) グループには、アクティブなデータベースのフィールドテーブルが含まれています。

各フィールドテーブルに割り当て済みのデータベースフィールドを確認する

リスト内のフィールドテーブルのいずれかをクリックします。[\[フィールド\]](#) テーブルに、そのフィールドテーブルに割り当てられているすべてのデータベースフィールドが表示されます。

新規のフィールドテーブル

現在のデータベースに新しいフィールドテーブルを作成するには、[\[新規のフィールドテーブル\]](#) ボタンをクリックします。新しいフィールドテーブルには、最初は、データベースフィールドは含まれていません。後から、このフィールドテーブルに新しいデータベースフィールドを設定します。

フィールドテーブルの削除

既存のフィールドテーブルを削除するには、[\[フィールドテーブルの削除\]](#) ボタンをクリックします。フィールドテーブルを削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

注: フィールドテーブルを削除すると、そのフィールドテーブルに割り当てられているデータベースフィールドもすべて自動的に削除されます。それらのデータベースフィールドに入力されていた情報もすべて失われます。

一部のフィールドテーブルは削除できません。それらのフィールドテーブルには、データベース構成に必要なデータベースフィールド(「システムフィールド」)が含まれています。これらのフィールドテーブルは、名前の変更はできませんが、それ以外の変更はできません。

フィールドテーブルの名前を変更する

名前を変更するフィールドテーブルをリストから選択します。キーボードの[F2]キーを押します。フィールドテーブルの名前を上書きし、マウスの左ボタンをクリックします。

フィールドテーブルを翻訳する

データベースは、さまざまなユーザーや異なる PC から利用が可能です。フィールドテーブルを翻訳することで、他言語のユーザーもデータベースを簡単に利用できるようになります。

(2) データベースフィールド

[\[フィールド\]](#) テーブルに、アクティブなフィールドテーブルに割り当てられているすべてのデータベースフィールドが表示されます。

新規のデータベースフィールドの作成

アクティブなフィールドテーブルに新しいデータベースフィールドを作成するには、[\[新規のフィールド\]](#) ボタンをクリックします。[\[新規のフィールド\]](#) ダイアログボックスが表示されます。

既存のデータベースフィールドの編集

既存のデータベースフィールドのプロパティを変更するには、[\[フィールドの編集\]](#) ボタンをクリックします。[\[フィールドの編集\]](#) ダイアログボックスが表示されます。

データベースフィールドの削除

既存のデータベースフィールドを削除するには、[\[フィールドの削除\]](#) ボタンをクリックします。データベースフィールドを削除するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

注: データベースフィールドを削除すると、それらのデータベースフィールドに入力されていた情報もすべて失われます。

データベースフィールド名を翻訳する

データベースは、さまざまなユーザーや異なる PC から利用が可能です。データベースフィールドを翻訳することで、他言語のユーザーもデータベースを簡単に利用できるようになります。

(3) レコード名

レコード名とは？

データベースに新しく追加するレコードごとに [\[レコード名\]](#) データベースフィールドに入力することが必要です。このデータベースフィールドは、本ソフトウェアで作成したすべてのデータベースに自動的に設定されます。レコードを挿入すると、[\[レコード名\]](#) データベースフィールドに自動的にレコード名が表示されます。このフィールドには明示的には何も入力しないという点で、他のデータベースフィールドとは異なります。新しく情報を入力するのではなく、別のデータベースフィールドの内容が使用されるわけです。

たとえば画像の場合、レコード名には常に画像名が使用されます。

レコード名を指定する

自動的にレコード名として使用されるデータベースフィールドを確認するには、[\[レコード名...\]](#) をクリックします。レコード名に使用できるデータベースフィールドは、データベースのレコードタイプに応じて異なります。たとえば、[\[画像名\]](#) のデータベースフィールドが [\[ワークブック\]](#) のレコードタイプに使用されることはありません。

[\[レコード名\]](#) ダイアログボックスでは、初期設定の変更もできます。

5627 14032012

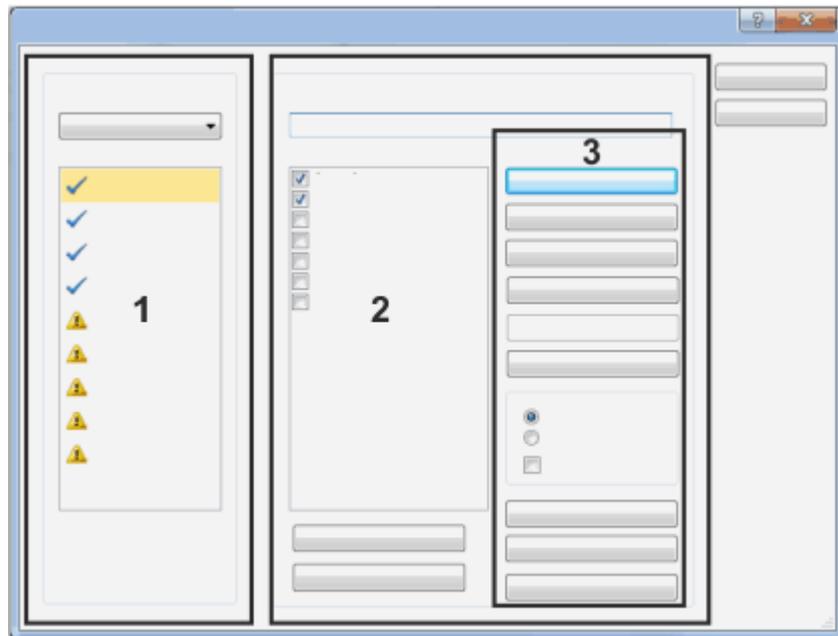
4.5.5. 依存したピックリスト

[\[依存したピックリスト\]](#) ダイアログボックスを使用すると、データベースフィールドで使用可能な項目のリストを作成し、それらの項目を編集すること

ができます。

依存したピックリストで使用可能な項目は、メインのピックリストの現在の値によって「フィルタ」がかけられます。

このダイアログボックスを表示するには、[\[新規のフィールド\]](#)または [>\[フィールドの編集\]](#)ダイアログボックスで [\[他のフィールド値による\]](#)チェックボックスをオンにして、[\[編集...\]](#)ボタンをクリックします。



機能グループの説明

- (1) 他のフィールドによる
- (2) <依存したデータベースフィールドの名前> に対するピックリストの構成
- (3) E依存したピックリストの編集

(1) 他のフィールドによる

メインのピックリストを含むデータベースフィールドを [\[フィールド名\]](#)フィールドから選択します。その結果、メインのピックリストに設定されているすべての項目が、[\[<メインのデータベースフィールドの名前>の値\]](#)フィールドに表示されます。

これらの項目が依存したピックリストの項目に割り当てられていない場合には、各項目の横に黄色の警告サイン  が付きます。

これらの項目が依存したピックリストの項目に割り当てられている場合には、各項目の横に青のチェック  が付きます。

注:[フィールド名]フィールドで別のデータベースフィールドを選択した場合には、依存したピックリスト内の項目への割り当ては失われます。たとえば、[フィールド名]フィールドで、試験的に別のフィールドを選択し、その後元のフィールドを選択し直した場合には、依存したピックリストへの割り当てを再度実行する必要があります。[フィールド名]フィールドで別のデータベースフィールドを選択する場合には、予防策として、エラーメッセージが表示されます。

(2) <依存したデータベースフィールドの名前> に対するピックリストの構成

[値]フィールドには、依存したピックリストに含めるすべての項目を入力します。各項目の後の [追加] ボタンをクリックすると、['...'のピックリスト項目] リストに新しい項目が表示されます。

注:['...'のピックリスト項目] リストのすべての項目を、メインのピックリストの1つ以上の項目に割り当てます。['...'のピックリスト項目] リストの項目のうち、メインのピックリストのどの項目にも割り当てられていない項目がある場合には、この割り当てられていない項目は常に表示されます (たとえば、データベースにレコードを追加する都度)。

その後、依存したピックリストのすべての項目をメインのピックリストの項目に割り当てます。

それには、最初に [<メインのデータベースフィールドの名前> の値] フィールドの項目を選択し、次に、この選択した項目に割り当てる ['...'のピックリスト項目] リスト内のすべての項目を選択します。

依存したピックリストが非常に長い場合には、[すべてを選択] または [全選択の解除] ボタンを使用して、ピックリスト内のすべての項目を一度に選択したり、全選択を解除したりすることができます。

注:[全選択の解除] ボタンは、ピックリストから項目を削除する訳ではありません。選択を解除するだけです。

(3) 依存したピックリストの編集

項目を編集する

この項目をピックリストに追加するには、[追加] ボタンをクリックします。

ピックリストで選択した項目を [値] フィールド内の項目で置き換えるには、[変更] ボタンをクリックします。

選択した項目をピックアップリストから削除するには、**[削除]** ボタンをクリックします。

選択した項目をピックアップリスト内の 1 つ上の位置に移動するには、**[上へ]** ボタンをクリックします。

選択した項目をピックアップリスト内の 1 つ下の位置に移動するには、**[下へ]** ボタンをクリックします。

項目を並び替える

[並び替え] ボタンをクリックすると、**[並び替え]** グループで初期設定されている順序で、ピックアップリスト内の項目を並べることができます。

[昇順] オプションを選択すると、**テキスト**データ形式の項目が A ~ Z のアルファベット順に並び替えられます。**整数**データ形式または**倍精度実数**データ形式の項目は、最小値がリストの一番上にくるように絶対値順に並び替えられます。**日付/時刻**データ形式の項目は、リストの一番上に最も古い日付がくるように並び替えられます。01.01.2010 は、01.01.2020 の上に表示されます。

[降順] オプションを選択すると、**テキスト**データ形式の項目が Z ~ A のアルファベット順に並び替えられます。**整数**データ形式または**倍精度実数**データ形式の項目は、最大値がリストの一番上にくるように絶対値順に並び替えられます。**日付/時刻**データ形式の項目は、リストの一番上に最も新しい日付がくるように並び替えられます。01.01.1998 は、01.01.1923 の上に表示されます。

[自動] チェックボックスをオンにすると、選択した項目に応じて、追加された項目が自動的に並び替えられます。

注:この場合、別の項目をピックアップリストに追加すると、直ちに自動での並び替えにリセットされるため、手動での並び替えはできなくなります。

ピックアップリストをエクスポートおよびインポートする

ピックアップリストをファイルに保存するには、**[エクスポート...]** ボタンをクリックします。この種類のファイルの拡張子は DPL です。DPL ファイルには、**[ピックアップリスト]** ダイアログボックスに現在表示されているフィールド値がそのまま含まれます。

エクスポートすることにより、1 つのピックアップリストを簡単に複数のデータベースフィールドに使用することができます。たとえば、従業員のリストを、**[オペレータ]** データベースフィールドと **[責任者]** データベースフィールドの両方に割り当てることができます。

ピックアップリストの特定の状態を記録するためにも、ピックアップリストのエクスポート

機能を使用できます。後で、この状態にピックリストを復元することができます。

以前にエクスポートしたフィールド値のリストを **[ピックリスト]** ダイアログボックスに読み込むには、**[インポート...]** ボタンをクリックします。フィールド値のリストを含むファイルの拡張子は DPL である必要があります。インポートしたフィールド値は、**[ピックリスト]** ダイアログボックスで現在指定されている項目に追加されます。

すべての項目をピックリストから削除するには、**[リストの削除]** ボタンをクリックします。この操作を行うと、レコードを挿入するときにピックリストが表示されなくなります。

4889 29012014

4.6. データベースのビューを変更する

[データベース] ツールウィンドウは、複数の部品に分かれています。各部品に、それぞれ異なるデータベースビューが表示されます。以下では、データベースのビューを変更するための手順について説明します。

注: データベースのビューを変更した場合、それらの設定は変更を行ったユーザーのみ有効です。他のユーザーが表示する場合、データベースビューは変更されません。

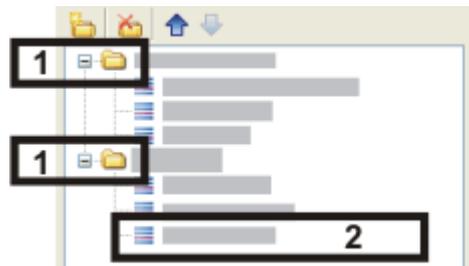
4.6.1. データベースのビューを変更する

1. **[データベース]** > **[ビュー]** > **[ビューのカスタマイズ...]** コマンドを実行します。
 - **[ビューのカスタマイズ]** ダイアログボックスが表示されます。
2. **[ビューとレコードタイプの選択]** グループで、変更するデータベースビューとレコードタイプを選択します。
3. 必要な変更を行います。以下に示す操作を行うことができます。すべてのデータベースビューで、これらの操作がすべてできるとは限りません。
 - 新しいデータベースフィールドをデータベースのビューに追加する
 - データベースのビューでデータベースフィールドを非表示にする
 - データベースフィールドの表示順を並べ替える
 - データベースフィールドをグループ化する
 - グループを削除する
 - グループの名前を変更する

4. 変更を適用するには、**[OK]** ボタンをクリックします。
 - 変更されたデータベースのビューが表示されます。

4.6.2. 新しいデータベースフィールドをデータベースのビューに追加する

1. **[ビューのカスタマイズ]** ダイアログボックスを表示します。
2. 調整したいデータベースビューを **[ビュー]** リストから選択します。
3. **[選択されたフィールド]** リストに複数のグループが含まれている場合、まず、データベースフィールドを追加するグループを選択します。



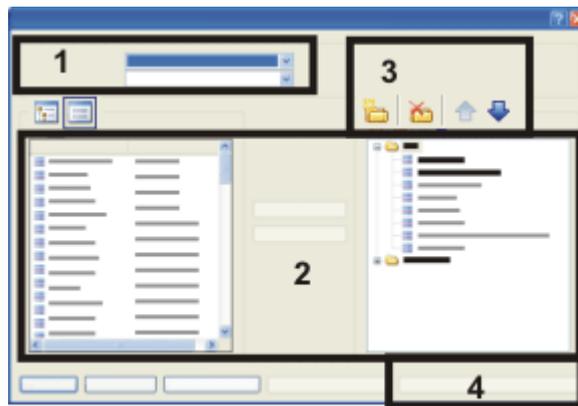
- ダイアログボックスでは、グループは、フォルダアイコンで示されます (1)。
 - 例では、それぞれ 3 つのデータベースフィールドを含む 2 つのグループが、選択されたデータベースビューに表示されています (2)。
4. **[ビューのカスタマイズ]** ダイアログボックスの **[利用可能なフィールド]** グループで、データベースフィールドを表示する方法を指定します。
 - 
 - データベースにあまり多くのフィールドが存在しない場合は、**[フラットビュー]** ボタンをクリックすると、すべてのデータベースが上から順に並んで表示されます。
 5. **[利用可能なフィールド]** リストで、データベースフィールドを 1 つまたは複数選択します。複数のデータベースフィールドを選択するには、
 - **[選択]** ボタンが使用できるようになります。
 6. **[選択]** ボタンをクリックします。
 - 選択したデータベースフィールドが、**[選択されたフィールド]** リストの一番下に追加されます。
 7. その位置に置きたくない場合は、ドラッグ&ドロップ操作で、追加したフィールドをグループ内の別の位置に移動することができます。

00319 07072011

4.6.3. [ビューのカスタマイズ] ダイアログボックス

注: 変更したビューの構成は、変更を行ったユーザーのみ有効です。他のユーザーが表示する場合、データベースビューは変更されません。

ダイアログボックスの説明



- (1) ビューとレコードタイプの選択
- (2) ビューへのデータベースフィールドの割り当て
- (3) ビューでのデータベースフィールドのグループ化
- (4) 設定の割り当て

(1) ビューとレコードタイプの選択

設定するデータベースビューを **[ビュー]** リストから選択します。**[ビューのカスタマイズ]** ダイアログボックスでは、このビューに表示するデータベースフィールドを指定します。

データベースフィールドに含まれる情報の中には、特定のレコードタイプにしか関係しないものもあります。たとえば、画像に関する場合のみに意味を持つ **[X 解像度]** のように、特定のレコードタイプにしか関係しないデータベースフィールドが多数あります。このため、レコードタイプごとに個別にビューを設定することにより、余計な情報が表示されないようにすることができます。**[レコードタイプ]** リストで、選択したビューをカスタマイズするレコードタイプを選択します。

(2) ビューへのデータベースフィールドの割り当て

利用可能なデータベースフィールド

[利用可能なフィールド] リストに、選択したレコードタイプに対して選択したビューで利用可能なすべてのデータベースフィールドが表示されます。

選択したビューにデータベースフィールドを割り当てる

データベースフィールドを1つ以上選択し、**[選択 >>]** ボタンをクリックすると、選択したデータベースビューにそれらのデータベースフィールドが表示されます。

データベースギャラリーとプロジェクトヘッダービューでは、表示できるデータベースフィールドは1つのみです。この場合、選択したデータベースフィールドによって自動的に、現在のデータベースフィールドが置き換えられます。

選択されたデータベースフィールド



[選択されたフィールド] リストには、選択したビューに表示されるすべてのデータベースフィールドが表示されます。

ビューに表示されるフィールドの順序を変えるには、フィールドを選択し、矢印ボタン  をクリックして上下に移動します。

このビューからデータベースフィールドを削除するには、**[選択されたフィールド]** リストでデータベースフィールドを選択し、**[<< 削除]** ボタンをクリックします。

データベースフィールドとそれぞれのフィールドの内容は保持されます。単に、データベースビューに表示されなくなるだけです。

データベースビューを初期設定に戻す

選択したビューを初期設定に戻すには、**[ビューのリセット]** ボタンをクリックします。

データベースビューをすべて初期設定に戻すには、**[全ビューのリセット]** ボタンをクリックします。

このボタンは、**[データベース] > [ビュー]** メニューから **[ビューのカスタマイズ...]** コマンドを実行してダイアログボックスを表示した場合にのみ使用できます。コンテキストメニューを使ってダイアログボックスを表示した場合には、このボタンはグレー表示になります。この場合、使用することはできません。

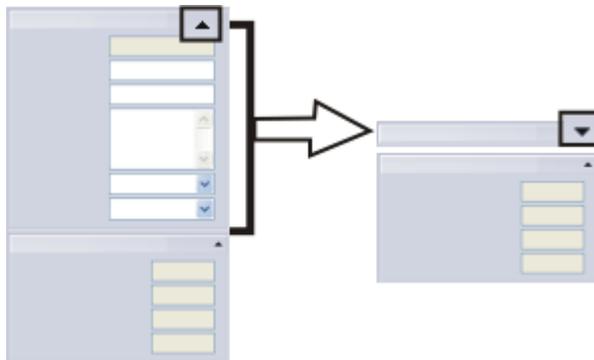
データベースビューによって、**[データベース]** ツールウィンドウの外観が決まります。これらのビューは、ユーザーインターフェイスのレイアウトからは完全に独立しています。したがって、**[ビュー] > [レイアウト] > [現在のレイアウトのリセット]** コマンドを実行しても、データベースビューには影響しません。

(3) ビューでのデータベースフィールドのグループ化

データベースフィールドをグループ化する

レコード詳細ビューなどの一部のデータベースビューには、非常に多くのデータベースフィールドが表示されることがあります。データベースのグループ化機能を使用し、情報をさまざまなグループに分けて、分かりやすく表示することができます。グループ化しておくことで、後からデータベースウィンドウで、グループの表示サイズを縮小してグループ名だけを表示することで、関係のない情報を一時的に隠すことができます。

グループの表示サイズを縮小するには、グループ名の横にある小さな矢印 \blacktriangle をクリックします。グループを展開する場合は、この矢印 \blacktriangledown をクリックします。



左の図は、データベースフィールドの2つのグループを含む情報ビューを示しています。右の図では、グループ名のみが表示されるように、上側のグループが縮小されています。

データベースフィールドをグループ化するには、**[選択されたフィールド]**リストに複数のフォルダを設定します。フォルダ内のすべてのデータベースフィールドが、**[データベース]**ツールウィンドウでそれぞれのグループに表示されます。このグループ名は、**[選択されたフィールド]**リストに表示されたフォルダ名と同じになります。

新規のグループを作成する



[選択されたフィールド]リストに新規のグループフォルダを作成するには、**[新規のグループヘッダー]**ボタンをクリックします。グループフォルダを作成する場合、直接名前を指定できます。この名前は後からいつでも変更できます。

データベースフィールドをグループフォルダに移動するには、**[選択されたフィールド]**リストで、あらかじめグループフォルダを選択しておく必要があります。次に、**[利用可能なフィールド]**リストでデータベースフィールドを選択し、**[追加 >>]**ボタンをクリックします。**[選択されたフィールド]**リスト内では、ドラッグ&ドロップ操作により、グループフォルダへのデータベースフィー

ルドの割り当てを自由に変更できます。データベースフィールドを選択し、別のグループフォルダへドラッグするだけで、割り当てを変更できます。

グループを削除する



選択したグループを **[選択されたフィールド]** リストから削除するには、グループフォルダを選択して **[グループヘッダーの削除]** ボタンをクリックします。削除したグループに属するすべてのデータベースフィールドは **[利用可能なフィールド]** リストに移されるため、選択したビューには表示されなくなります。

表示されるグループの順序を変更する

ビューに表示されるグループの順序を変更するには、グループフォルダを選択し、矢印ボタン   をクリックして上下に移動します。

(4) 設定の割り当て

[設定の割り当て...] ボタンはデータベース管理者のみが使用できます。管理者はこのボタンを使用して、データベースビューに加えた変更を、データベースのすべてのユーザーに転送できます。

注: このボタンは、**[データベース] > [ビュー] > [ビューのカスタマイズ...]** コマンドを実行してダイアログボックスを表示した場合にのみ使用できます。コンテキストメニューを使ってダイアログボックスを表示した場合には、このボタンはグレー表示になります。

5630

4.7. 排他モード

データベース構成を変更するには、データベースを排他モードで開く必要があります。

排他モードに切り替えるには、「管理者」か「パワーユーザー」の権限が必要です。

排他モードとは？

このモードでは、その時点でデータベースを使用しているユーザーが 1 人だけになります。その他のユーザーは、排他モードの間データベースを開いておくことも、新しく開くこともできません。

排他モードにする理由

排他モードを使用することにより、その間は他のユーザーがデータベースを使用できないため、データベースに必要な変更を確実に行うことができます。データの損失は起こりません。

データベースを排他モードで開く

他のユーザーが既にログオンしているデータベースを排他モードで開きたい場合は、排他モードが使用できるように、他のユーザーに要求する必要があります。そうすると他のユーザーは、データベースを閉じるように要求されます。排他モードが要求されている、あるいは、排他モードが有効なときに、このデータベースを開くユーザーも、データベースを閉じるよう要求を受け取ります。ユーザーは、他のすべてのユーザーがデータベースを閉じたときにのみ、排他モードでデータベースを開くことができます。

排他モードを有効にする

必要なデータベースを開きます。排他モードを有効にするには以下の方法があります。

1. **[排他モードの管理]** ダイアログボックスを表示し、現在データベースにログインしているユーザーの数を確認します。それには **[データベース] > [管理] > [排他モードの管理...]** コマンドを実行します。
他にデータベースを使用しているユーザーがない場合、**[有効化]** ボタンを使用できます。このボタンをクリックします。
2. **[データベース] > [管理] > [排他モード]** コマンドを実行します。
3. **[データベース] > [管理]** メニューで、排他モードを要求するコマンドを実行します。排他モードを有効化できるメッセージウィンドウが表示されます。

00321 12072011

4.8. データベースのユーザー権限

4.8.1. 概要

データベースのユーザー権限を設定できます。

参考: この機能はデータベースのユーザーのみを管理するものです。これとは関係なく、本ソフトウェア自体にもユーザー権限があります。本ソフトウェアのユーザー権限は、**[ツール]** メニューの **[ユーザー権限...]** コマンドを使って設定します。データベースのユーザー管理は、本ソフトウェアのユーザー権限の管理とは全く関係ありません。

ユーザー権限は何のために設定するのか？

ユーザー権限は、たとえばデータベースにあるデータへのアクセスを特定のユーザーに制限するときなどに使用します。

ユーザー権限の管理方法

[データベース] > [管理] > [ユーザーアカウント...] コマンドを使って、データベースに新規ユーザーを登録できます。ユーザープロファイルには必ずユーザー権限が付与されています。データベースでユーザーがどの権限を持つかはこのユーザー権限に指定されています。

ユーザーをグループ化することができます。ユーザーグループには必ず権限セットが付与されています。

設定するユーザー権限

各データベースユーザーは、**管理者**や**パワーユーザー**などのうち1つまたは複数の権限を持ちます。これらの各権限によって、それぞれ使用できるデータベース機能が異なります。各権限に割り当てられている機能は既定されており、変更できません。

ユーザーグループのアクセス権を設定する

新しいユーザーグループを作成すると、自動的に権限セットも作成されます。たとえばユーザーがデータベースにドキュメントを挿入する際、そのドキュメントの権限セットを選択する必要があります。選択できるのは、**[全員]** 権限セットおよび自分が属するグループの権限セットです。

[全員] 権限セットを選択すると、データベースのユーザー全員がこのドキュメントを閲覧できます。一方、ユーザーグループの権限セットを選択すると、そのユーザーグループのメンバーのみがこのドキュメントを閲覧できます。この場合、他のユーザーグループのメンバーは、ギャラリービューでも検索結果ビューでもこのドキュメントを見ることはできません。このように、ドキュメント挿入時に権限セットを選択することで、ドキュメントを閲覧できるユーザーを指定できます。

権限セットは、データベースにドキュメントを挿入するときだけではなく、構成レコード (プロジェクト、標本、機関、部門など) の作成時にも選択します。この場合、選択されたユーザーグループに入っていないユーザーは、フォルダごとその中にあるドキュメントも見ることができません。

注: 個々のドキュメントにも、このレコードを開いたり、閲覧、変更または削除できるユーザーを指定することができます。それにはレコードを選択してコンテキストメニューを表示し、**[権限...]** を選択します。しかし、操作が簡単で管理しやすい権限セットを用いることをお勧めします。

4.8.2. 新規データベースユーザーを作成する

会社で新しい従業員を雇用し、その従業員にデータベースへのアクセス権限を付与するとします。新しい従業員がデータベースを開けるように、データベース管理者はその従業員をデータベースに登録する必要があります。

1. [\[データベース\]](#) > [\[管理\]](#) > [\[ユーザーアカウント...\]](#) コマンドを実行します。
 - 新しく作成したデータベースには最低 1 人のユーザーが存在します。これはデータベースを作成したユーザーです。この他に、ユーザーグループ [\[全員\]](#) も必ず作成されます。
 - [\[ユーザーアカウント\]](#) ダイアログボックスに、既存のユーザーおよびユーザーグループがすべて表示されます。

ユーザーを追加する

2. [\[ユーザーの追加...\]](#) ボタンをクリックします。
 - [\[ユーザーの追加\]](#) ダイアログボックスが表示されます。
3. [\[参照...\]](#) ボタンをクリックします。
 - [\[データベース サーバー ユーザーの参照\]](#) ダイアログボックスが表示されます。ここで、DBMS に登録されているユーザーがすべて表示されます。DBMS 管理者は、このダイアログボックスで新規ユーザーを DBMS に登録することもできます。それには、[\[新規...\]](#) ボタンをクリックします。
 - ユーザーが表示されない場合、および DBMS 管理者ではない場合には、DBMS 管理者に問い合わせてください。
 - DBMS に登録されているユーザーを把握できている場合 (DBMS 管理者からユーザーのリストを提供された場合など) は、ユーザーの名前を [\[ユーザー名\]](#) フィールドに入力し、[\[次へ >\]](#) ボタンをクリックします。次に、「ユーザーのプロパティを割り当てる」の手順に進みます。
4. [\[データベース サーバー ユーザーの参照\]](#) ダイアログボックスで、必要なユーザーを選択し、[\[OK\]](#) ボタンをクリックします。
 - [\[ユーザーの追加\]](#) ダイアログボックスが再度表示されます。
5. 必要に応じて新規ユーザーの説明を [\[ユーザーの追加\]](#) ダイアログボックスに入力し、[\[次へ >\]](#) ボタンをクリックします。

この説明は、[\[ユーザーアカウント\]](#) ダイアログボックスに表示され、ユーザー全員の把握に役立ちます。

- [\[ユーザーのプロパティ\]](#) ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、新規ユーザーが自動的に [\[全員\]](#) ユーザーグループに割り当てられていることを確認できます。

ユーザーのプロパティを割り当てる

6. ユーザーを別のユーザーグループに割り当てたい場合は、[\[次へ >\]](#) ボタンをクリックします。
 - 次のダイアログボックスに、新規ユーザーに割り当てることができる権限が表示されます。ユーザーには、権限を少なくとも 1 つ割り当てる必要があります。割り当てた権限により、特定のデータベースレコードを表示できるか、できないかが決まります。
7. ユーザーに割り当てる権限を選択します。複数の権限をユーザーに割り当てることもできます。
8. ユーザーに複数の権限を割り当てた場合、[\[ログイン時に権限を選択する\]](#) チェックボックスをオンにします。このように設定した場合にのみ、ユーザーは、データベースへのログオン時にどの権限を使用するか尋ねられます。

このチェックボックスがオフになっている場合には、ユーザーは権限を選択できません。その場合は常に、デフォルト権限として設定された権限が割り当てられます。このユーザーのデフォルト権限を変更できるのは、管理者だけです。
9. [\[完了\]](#) ボタンをクリックします。
 - [\[ユーザーアカウント\]](#) ダイアログボックスが再度表示されます。新規に作成したユーザーが、ユーザーリストに表示されています。
10. 必要な場合は、他のユーザーをデータベースに追加します。追加しない場合は、[\[OK\]](#) をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

ユーザーに通知する

11. 次に、ユーザーに通知します。
 - 新規に追加したユーザーに、データベースを開く権限が付与されたことを通知します。
 - 新規ユーザーに DBC ファイルへのリンクを送信します。
 - DBMS 内に新規ユーザーを作成した場合には、そのユーザーにデータベースへのログオン時に使用するユーザー名とパスワード (大文字と小文字の区別も含む) を通知します (データベースで SQL 認証が使用されてい

る場合)。

ユーザーがパスワードを後から変更できるかどうかは、DBMS によって提供されるオプションによって異なります。パスワードを変更できるのが DBMS 管理者だけの場合もあります。

4.8.3. データベースの新規データベースユーザーおよび DBMS を同時に作成する

自分が DBMS 管理者であり、管理者のパスワードでデータベースにログオンしている場合、本ソフトウェアから DBMS の新規のデータベースユーザーを作成できます。

1. **[データベース]** > **[管理]** > **[ユーザーアカウント...]** コマンドを実行します。

ユーザーを追加する

2. **[ユーザーの追加...]** ボタンをクリックします。
3. **[参照...]** ボタンをクリックします。
 - **[データベース サーバー ユーザーの参照]** ダイアログボックスが表示されます。必要なユーザーは、**[ユーザーのリスト]** フィールドには表示されません。
4. **[新規...]** ボタンをクリックします。
 - **[新規のデータベース サーバー ユーザーの追加]** ダイアログボックスが表示されます。
5. ユーザー名を入力し、そのユーザーにパスワードを割り当てます。認証として **[SQL 認証]** を選択します。
6. **[OK]** ボタンをクリックします。
 - 新規に作成されたユーザーが、ユーザーのリストに表示されます。

4.8.4. データベース内にユーザーグループを作成し編集する

データベース内にユーザーグループを作成する

1. **[データベース]** > **[管理]** > **[ユーザーアカウント...]** コマンドを実行します。
 - **[ユーザーアカウント]** ダイアログボックスが表示されます。
2. **[グループの追加...]** ボタンをクリックします。
 - **[新規のユーザーグループ]** ダイアログボックスが表示されます。

3. **[全般]** タブで、ユーザーグループの名前と、必要に応じてグループの説明を入力します。
4. **[メンバー]** タブに切り替えます。新規ユーザーグループにはまだメンバーがないため、**[追加...]** ボタンをクリックします。
5. **[ユーザーの追加]** ダイアログボックスで、新規ユーザーグループに含めるユーザーを選択し、**[追加]** ボタンをクリックします。
 - 追加したユーザーが、**[メンバー]** タブに表示されます。
6. 必要な場合は、**[追加]** ボタンを再度クリックし、その新規ユーザーグループに含める別のユーザーを **[ユーザーの追加]** ダイアログボックスから選択します。

参考: データベース管理者は、作成したユーザーグループすべてに自分自身を追加しておくことをお勧めします。このようにすることが、データベース内に含まれる全レコードを常に確実に表示できるようにする唯一の方法です。

7. **[OK]** ボタンをクリックして、新規ユーザーグループの設定を完了し、**[ユーザーアカウント]** ダイアログボックスを閉じます。

ユーザーグループのメンバーを後から変更する

1. **[データベース]** > **[管理]** > **[ユーザーアカウント...]** コマンドを実行します。
2. 変更したいユーザーグループを選択し、**[プロパティ...]** ボタンをクリックします。
3. **[グループメンバーシップ]** タブに切り替えて、そのタブ内で必要な変更を行います。

00326 21062011

4.9. ドキュメントをアーカイブする

画像やドキュメントをアーカイブする場合、別のドキュメントフォルダに移動します。

タスク: 2010 年の年末に、2010 年中にデータベースに挿入されたすべてのレコードを、専用のドキュメントフォルダに移動するとします。

適切な検索設定を設定する

1. **[データベース]** > **[検索の設定...]** コマンドを実行します。
 - **[検索の設定]** ダイアログボックスが表示されます。

- レコードタイプに関係なくすべてのレコードを検索するには、**[すべてを選択]** ボタンをクリックします。
- [条件]** グループで、次の検索条件を設定します。
[挿入日] >= '01.01.2010' AND [挿入日] < '01.01.2011'
 - これで、2010 年中にデータベースに挿入されたすべてのレコードが検索されます。



- 検索設定を保存します。それには、**[検索の設定]** ダイアログボックスで **[検索設定の保存]** ボタンをクリックします。
 - [検索設定に名前を付けて保存]** ダイアログボックスが表示されます。
- [名前]** フィールドに「2010」と入力します。
- 開いているダイアログボックスを閉じます。

ファイルを移動するための検索条件を選択する

- [データベース]** > **[管理]** > **[ファイルの移動...]** コマンドを実行します。
 - [ファイルの移動]** ダイアログボックスが表示されます。
- [移動するファイル]** リストで、**[保存された検索 '2010' から]** を選択します。
 - [説明]** フィールドに、その検索条件が表示されます。検索条件が正しいか確認します。

新しいドキュメントフォルダを選択する

- [設定...]** ボタンをクリックします。
 - [設定]** > **[ドキュメントの保管形式]** > **[ファイルシステム]** ダイアログボックスが表示されます。
-  **[新規のボリューム]** ボタンをクリックし、新しいドキュメントフォルダをデータベースに組み込みます。
 - [新規のボリューム]** ダイアログボックスが表示されます。
- [説明]** フィールドに「2010」と入力します。
- ドキュメントフォルダのパス名を設定します。
この操作を行う場合、それまでと同じようにデータベースを使い続けるには、すべてのユーザーがそのドキュメントフォルダを使用できることが必要です。
- [メディアの種類]** リストで、**[アーカイブ]** を選択します。この操作を行うことで、新しいドキュメントフォルダ「2010」がファイナライズされます。これ以降、このドキュメントフォルダにはレコードを追加できなくなり

ます。

14. **[OK]**をクリックして、開いているダイアログボックスをすべて閉じます。
 - 選択した検索条件で検索されたすべてのファイルが、ドキュメントフォルダ「2010」に移動されます。
 - これらのファイルの移動が正常に完了すると、メッセージが表示されます。
 - レコードが移動された場合でも、データベース内では、通常どおりこれらのレコードを使用することができます。このための前提条件として、すべてのユーザーが新しいドキュメントフォルダを使用できる必要があります。
 - これで、たとえばこのフォルダを DVD にコピーして、バックアップ用コピーを作成できるようになりました。

00103

4.10. データベースの削除

[データベース] > [管理] > [データベースの削除...] コマンドを実行して、アクティブなデータベースを削除します。

 **注意:** データベースを削除した場合、元に戻すことはできません。したがって、データベースを削除するのは、データがもう必要ないと確信できる場合にのみ行ってください。データベースが削除される前に、警告メッセージが表示されます。

削除前のデータバックアップの作成

場合によっては、削除する前に、データベースをすべてのドキュメントとともにデータベース エクスポート ファイル (DBE ファイル) にエクスポートしておく便利です。そうすると、DBE ファイルに基づいて、いつでも新規データベースを作成することができます。

データベースを削除する前の準備

- データベースを削除するには、あらかじめデータベースを閉じておく必要があります。
- 複数のユーザーがそのデータベースに対してアクセス権限がある場合には、データベースを削除する時に、どのユーザーもそのデータベースを開いていないことを確認する必要があります。他のユーザーが開いているデータベースを削除しようとする、エラーメッセージが表示され、削除プロセスは取り消されます。

- 削除するデータベースを他のユーザーが開いているかどうか分からない場合、削除する前に確認することができます。それには、削除するデータベースを開き、**[データベース] > [管理] > [排他モードの管理]** コマンドを実行して、**[排他モードの管理]** ダイアログボックスを表示します。

データベースの削除

1. 削除するデータベースが、自分も含めたすべてのユーザーによって閉じられたことを確認します。
2. **[データベース] > [管理] > [データベースの削除...]** コマンドを実行します。
 - **[データベースの削除]** ダイアログボックスが表示されます。
3. **[データベース接続ファイル]** グループで、削除するデータベースの DBC ファイルを選択します。DBC ファイルがピックリストに含まれていない場合には、**[...]** ボタンをクリックし、DBC ファイルが保存されている場所を選択します。正しい DBC ファイルが選択されていることを再度確認するまでは、先に進まないでください。
4. DBC ファイルが存在しない場合には、データベースを削除する前に、まず接続モードを変更する必要があります。そのような場合には、以下のように操作します。

[オプション...] ボタンをクリックし、**[オプション]** ダイアログボックスで、**[接続データを手動で入力する]** 接続モードを選択します。
[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

 - **[データベースの削除]** ダイアログボックスが再度表示されます。ダイアログボックスの上部が変更されています。**[データベース]** グループが表示されるようになりました。ここに、削除するデータベースの接続データを入力します。
5. 削除するデータベースで SQL 認証を使用している場合、名前とパスワードの入力を求められます。Windows 認証のデータベースについては、**[ユーザー]** グループに入力する必要はありません。
6. **[OK]** ボタンをクリックします。
 - 選択したデータベースを削除するかどうかを確認する警告メッセージが表示されます。
7. 表示されたデータベースが削除するデータベースかどうかを再度確認します。間違いのない場合は、**[はい]** ボタンをクリックします。
 - データベースは完全に削除されます。
 - DBC ファイルも自動的に削除されます。

- 削除するデータベースが **[ファイルシステム]**ドキュメント保管形式を使用している場合、指定したドキュメントフォルダ内のすべてのファイルが削除されます。フォルダは自動的に削除されないため、MS Windows のエクスプローラで削除してください。
- 削除するデータベースが **[セキュア ファイル レポジトリ]**のドキュメントの保管形式を使用している場合、セキュア ファイル レポジトリ用サーバー上のデータが 20 分ほど遅れて削除されます。

5624 12072011

OLYMPUS

www.olympus.co.jp

オリンパス株式会社

支店・営業所所在地

東京	〒163-0914 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス	☎03 (6901) 4031
名古屋	〒460-0003 名古屋市中区錦2-2-2 名古屋丸紅ビル	☎052 (201) 9577
大阪	〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-6-1 新大阪ブリックビル	☎06 (6399) 8005
広島	〒730-0004 広島市中区東白島町14-15 N T Tクレド白島ビル	☎082 (228) 1924
福岡	〒810-0004 福岡市中央区渡辺通3-6-11 福岡フコク生命ビル	☎092 (711) 1883



Olympus Customer Information Center

お客様相談センター

☎0120-58-0414 FAX 03 (6901) 4251

※携帯・PHSからもご利用になれます。

受付時間 平日8:45~17:30

取扱販売店名

住所	
店名	
担当者	